

設置の趣旨等を記載した書類  
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学部・学科等の特色	P. 9
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 10
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 12
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P. 18
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 22
7	施設、設備等の整備計画	P. 28
8	入学者選抜の概要	P. 29
9	取得可能な資格	P. 34
10	実習の具体的計画	P. 36
11	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P. 55
12	昼夜開講制を実施する場合の具体的計画	P. 55
13	編入学定員を設定する場合の具体的計画	P. 55
14	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 55
15	社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画	P. 56
16	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P. 56
17	通信教育を実施する場合の具体的計画	P. 56
18	管理運営	P. 56
19	自己点検・評価	P. 56
20	情報の公表	P. 56
21	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 57
22	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 57

# 生活科学部

## 1 設置の趣旨及び必要性

### ア 学部等設置の理由及び必要性

大阪市立大学生活科学部は、学制改革による家政学部の創設（昭和 24 年）以来、71 年の歴史をもつ。昭和 50 年に学部名を生活科学部に改称し、平成 2 年以降「食品栄養科学科」「居住環境学科」「人間福祉学科」の 3 学科体制となって現在に至っている。大阪公立大学においては、大阪市立大学生活科学部を承継するとともに、大阪市立大学生活科学部食品栄養科学科と大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類栄養療法学専攻と統合を行う。生活科学部は、「健康」「環境」「福祉」を基礎概念として、「食栄養学科」、「居住環境学科」、「人間福祉学科」の 3 つの学科を設置する。

生活科学は、生活を中心とした学際的な研究分野であり、21 世紀以降の複雑で多様な社会において、より必要とされる教育研究分野である。内閣府が平成 28 年 1 月に発表した「第 5 期科学技術基本計画」において、重要政策の一つとして、「国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現」があげられ、今後の生活問題の解決が我が国の重要な政策課題となっている。具体的には、「エネルギー利用の効率化」「自然災害への対応」「食品安全」「持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現」などで、これらは、本学部が積極的に取り組んできた内容である。また、厚生労働省は、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指して政策展開しており、これらに関連する学術的知見や技術を統合してさまざまな生活課題に取り組む生活科学の重要性が明確となってきた。

さらに、平成 30 年 11 月に中央教育審議会が発表した「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においても、「全ての人の人権の尊重」「豊かで充実した生活」「インクルーシブ（包摂的）な世界の実現」「健康的な生活の保障」「責任ある消費と生産」「人生 100 年時代におけるマルチステージ・複線型の人生」「個人の価値観を尊重する生活環境」などが「2040 年頃の社会変化の方向」として示されている。これらを具現化する上で、高等教育における生活科学の役割はますます重要となっている。

大阪市立大学生活科学部及び大阪府立大学地域保健学域では、長年にわたって上記のテーマに積極的に取り組んできたが、大阪公立大学生活科学部においても、科学技術の進歩やライフスタイルの多様化を先取りし、「健康」、「環境」、「福祉」など各領域における課題解決のための取り組みを行う。世界レベルの高度研究型大学、大都市大阪の発展に貢献する「知」の拠点を目指す大阪公立大学において、生活科学部は「食栄養学科」「居住環境学科」「人間福祉学科」の 3 つの学科を設置し、人々の生活を守り、生活の質を高める研究・教育を進めるとともに、社会的要請に応えていく。

### <食栄養学科>

少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかにされ、食と健康との関わりに従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。

今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

管理栄養士学校指定規則上、1 指定校は 1 キャンパスにおいて教育を実施することが原則定められるところであるが、入学定員 65 人を収容する指定規則要件施設（調理実習室、給食経営管理実習室等）の整備が森之宮キャンパスが完成する 2025 年を予定していることから、開学 2022 年からの 3 年間は、厚生労働省通知における「やむを得ない場合」として、同一の指定規則科目を既存の 2 キャンパス（杉本キャンパス、羽曳野キャンパス）において、学生を 2 分する形で実施する。（方針については、厚生労働省確認了承済み）

### <居住環境学科>

大阪市立大学生活科学部居住環境学科は、「居住空間」の計画や「住宅・まちづくり」に関する教育・研究を通じて、「豊かで健康的な人間生活の営みを保障する居住環境の形成」や「生活者の視点に立脚した居住空間デザイン」等に貢献し、人材を輩出してきた。

大阪公立大学においても、「持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現」や「個人の価値観を尊重する生活環境の実現」の中核を担う学科となる。超高齢社会における人々の健康を支えるために地域包括ケアシステムなど医療・介護・福祉などのサービス部門と住まいとの一体的な仕組みづくりが進められており、生活科学の視点から「居住空間」や「住宅・まちづくり」に取り組む社会的ニーズは非常に大きく、21 世紀における「居住空間」の計画や「住宅・まちづくり」に必要な学科である。

「居住環境学科」は、居住環境や健康に関する学問を進展させることにより、現代社会の諸課題を解決して生活の質を向上させるとともに、当該分野で中心となる優れた専門家・研究者を育成する。

<人間福祉学科>

大阪市立大学生活科学部人間福祉学科は、社会構造や地域社会の変化により、また、個人の生き方・価値観の多様化が進む中で、さまざまな生活問題を有する人々に対する支援を行う「心理」「福祉」の専門職養成や学際研究を行ってきた。

現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。

「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

各学科とも入試倍率は一般選抜において、下表のとおり、前期日程では3倍以上、後期日程では20倍以上を維持しており、また、「学生の確保の見通しを記載した書類」にも示すとおり、今後も長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しである。

(3年間の一般選抜の推移)

2020	大阪市立大学生活科学部		募集人員	志願者数	倍率
	食品栄養科学科	前期	27	89	3.3
	居住環境学科	前期	35	106	3.0
	人間福祉学科	前期	33	102	3.1
	大阪府立大学地域保健学域		募集人員	志願者数	倍率
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻	前期	21	55	2.6
		後期	2	45	22.5
2019	大阪市立大学生活科学部		募集人員	志願者数	倍率
	食品栄養科学科	前期	27	100	3.7
	居住環境学科	前期	35	132	3.8
	人間福祉学科	前期	33	141	4.3
	大阪府立大学地域保健学域		募集人員	志願者数	倍率
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻	前期	21	84	4.0
		後期	2	46	23.0

2018	大阪市立大学生活科学部		募集人員	志願者数	倍率
	食品栄養科学科	前期	27	149	5.5
	居住環境学科	前期	35	112	3.2
	人間福祉学科	前期	33	126	3.8
	大阪府立大学地域保健学域		募集人員	志願者数	倍率
	総合リハビリテーション学類	前期	21	78	3.7
	栄養療法学専攻	後期	2	67	33.5

## イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

### <生活科学部>

#### 【教育研究上の目的】

科学技術の目覚ましい発展・高度化、急速な情報化を背景に生活様式が急速に変化・多様化している。食生活、住生活、健康などをめぐる課題はますます増大し、社会の成熟化・少子高齢化の中で多様な生活問題への的確な対応が求められている。このような新たな生活問題の解明と対応を担う人材養成が生活科学部の教育研究上の目的である。

#### 【養成する人材像、ディプロマポリシー】

生活科学部が養成する人材像とは、現代社会の生活問題を学際的、複合的に学修し、生活や社会の問題に関する意識をもち、問題解決の理論的、実践的知識と能力をもつことのできる者である。専門分野だけでなく、学際的な視点をもち、理論的考察にとどまらず、学修成果を現実の社会に還元できる者を養成する。

上記の人材を養成するため、生活科学部では、「知識・理解」、「技能」、「実践的姿勢」、「統合的な学修経験と創造的思考力」の観点から、各学科における学修成果の目標を定め、これに到達した者に対して学士（生活科学）の学位を授与するものとする。

### <食栄養学科>

#### 【養成する人材像】

生活科学部の教育研究上の目的を達成するために食栄養学科では、基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。

#### 【ディプロマポリシー】

食栄養学科では、食栄養学分野における研究基礎力及び臨床における実践力と研究力を育成するためのカリキュラムを用意し、学生には自らの学修意欲と興味・関心、キャリアデザインに応じて科目を選択させる。基幹教育科目の履修を通じて基本的教養と国際感覚を、

学科基礎科目の履修を通じて専門分野に関する基礎的な知識・技能等を、これに続く学科専門科目の履修を通じて、高度な知識・技能等を修得し、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学士（生活科学）の学位を授与する。

食栄養学科では、養成する人材像に基づき、(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)、(統合的な学修経験と創造的思考力)の領域において、以下のような学修成果をめざす。

(知識・理解)

・基幹教育で学ぶ自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を通じて、基本的教養と国際感覚を身につけるとともに、専門科目の履修により、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力を身につけ、それに基づき柔軟な思考ができる。

(技能)

・食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能を備え、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与することができる。

(実践的姿勢)

・食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する中で、実践力、指導力、解決力を兼ね備えている。

・学際的学修を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用することができる。

(統合的な学修経験と創造的思考力)

・これまでに修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医科学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

#### <居住環境学科>

##### 【養成する人材像】

生活科学部の教育研究上の目的を達成するために居住環境学科では、基幹教育を通じて広範な知識、能力を身につけ、住居学・建築学の専門分野を通じて、判断力、計画力、論理的プレゼンテーション力、リーダーシップの取ることができるコミュニケーション力、創造的能力、企画・立案・実行力を身につけ、住宅・建築産業をはじめ社会のなかで、生活者の視点をもって活躍する人材を育成する。

##### 【ディプロマポリシー】

居住環境学科は、基幹教育科目の履修を通じて基本的教養と国際感覚を、専門基礎科目の履修を通じて専門分野に関する基礎的な知識・技能等を、これに続く専門応用科目の履修を通じて、高度な知識・技能等を修得し、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学

士（生活科学）の学位を授与する。

居住環境学科では、養成する人材像に基づき（知識・理解）、（技能）、（実践的姿勢）、（統合的な学修経験と創造的思考力）の領域において、以下のような学修成果をめざす。

（知識・理解）

・基幹教育を通じて、自然科学、社会科学、人間科学に関する知識をもつとともに、専門教育において、住宅、建築分野およびこれらに関連する自然科学、技術、工学、数学分野の知識・技術などを修得し、応用的に用いることができる。

・人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力、住宅・環境・建築技術者に必要な自然科学や情報技術の知識・理解力を身につける。

（技能）

・安全で快適な空間を創造的に計画し、計画案を図面や模型などの媒体を用いて他者に伝達することができる。居住生活・居住空間に関する幅広く深い理解と高度な計画能力や住宅、建築、地域環境の技術および関連分野の技術に関する知識と応用能力を身につける。

（実践的姿勢）

・地域社会および国内外の居住空間やそれを取り巻く環境に関する課題を見出し、生活者の視点をもって、企画から立案、実行に至る実践的な問題解決ができる。共同作業や実務に役立つ論理的プレゼンテーション能力と、他者と協調して行動し、リーダーシップを取ることができるコミュニケーション能力を身につける。

（統合的な学修経験と創造的思考力）

・修得した知識、技能を用いて、自ら探求あるいは他者との協働を通して、未知の知見を明らかにし、問題解決のための新たな解決策を提示することができる。快適で美的な空間を設計し、デザインするための創造的能力、居住空間・環境における課題を発見し、与条件のもとで企画・立案・実行を行う能力を身につける。

<人間福祉学科>

【養成する人材像】

生活科学部の教育研究上の目的を達成するために人間福祉学科では、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。

【ディプロマポリシー】

人間福祉学科では、基幹教育科目の履修を通じて基本的教養と国際感覚を、学科基礎科目の履修を通じて専門分野に関する基礎的な知識・技能等を、これに続く学科専門科目の履修を通じて、高度な知識・技能等を修得し、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学士（生活科学）の学位を授与する。

人間福祉学科では、養成する人材像に基づき（知識・理解）、（技能）、（実践的姿勢）、（統

合的な学修経験と創造的思考力)の領域において、以下のような学修成果をめざす。

(知識・理解)

- ・基幹教育を通じて自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を得るとともに、専門教育の中で得た知識を統合し、社会生活を多面的にとらえ、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を把握することができる。
- ・生活と環境、個人と社会の関係、生涯にわたる人間の心身の発達と心理・社会的援助について理解し、修得した知識を応用することができる。

(技能)

- ・多様な言語や情報通信技術 (ICT) などを活用し、対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能を用いて、人と関わることができる。
- ・生活課題を発見し、必要な情報を収集し、複眼的・論理的に分析することができる。
- ・生活課題を解決するために社会資源を活用することができる。
- ・生活課題を解決するために必要な技能 (洞察力、実践力、指導力、解決力など) の基礎を身につけている。

(実践的姿勢)

- ・他者と協働して、課題解決に向けた方策を立案し、実行することができる。
- ・人権や社会正義に基づき、自分の責任で判断し、行動できる。
- ・自己理解と他者理解を深めていく姿勢を持つ。

(統合的な学修経験と創造的思考力)

- ・修得した知識・技能・実践力などを総合的に活用し、人と社会における新たな課題の解決に取り組むことができる。

## ウ 研究対象とする中心的な学問分野

「食栄養学科」の中心的な学問分野は、食品学、生化学、解剖生理学、微生物学、公衆衛生学、食品衛生学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学等である。

「居住環境学科」の中心的な学問分野は、住生活学、居住空間情報学、居住空間構造学、居住空間計画学、居住空間設計学、居住環境工学、居住安全人間工学、住居設計学等である。

「人間福祉学科」の中心的な学問分野は、社会福祉学、福祉政策学、家族社会学、福祉システム学、臨床心理学、先端ケア学、社会開発学等である。

## エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等

- ・特になし。

## 2 学部・学科等の特色

生活科学部は、「健康」「環境」「福祉」を基礎概念として、「食栄養学科」、「居住環境学科」、「人間福祉学科」の3つの学科で構成される学際的な学部である。本学部は、人の健康や生活の質を多面的に捉え、健康保持・増進、疾病・介護・虐待予防、快適な居住環境の保持などにより、あらゆる世代の豊かな地域生活の促進についての方策を考え、また、社会が直面する様々な生活課題を実践的に解決していく能力を有する人材の養成を行う。

### <食栄養学科>

「食栄養学科」は、大学院の研究成果を学部教育に反映させることに留意する。すなわち、単なる資格取得のための教育ではなく、健康で真に豊かな食生活の創造をめざし、人々の食と栄養に関わる複合領域を学際的に教育することで、優れた科学的思考力と実践力を併せ持つ、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・技術者の養成を目指す。本学科は、以下の5点の教育・研究目標を基に人材育成を行う。

- ①食の多様化、個別化が進む中、健康に寄与する食・栄養科学の意義を学ぶ。
- ②栄養科学を究め、分子レベルから人体レベルまでの栄養代謝を学び、人々の健康に資する。
- ③食品や栄養素のもつ新たな機能を見出し、その実用化に向けた研究をする。
- ④栄養科学を基盤とし、さらに行動科学や心理学に基づく栄養教育を手段とする実践栄養学を学ぶ。
- ⑤人々の「Quality of Life」を高めるという意識を育む。

具体的には、官公庁における公衆衛生・公衆栄養施策の立案実践の場から学校や病院での個人・集団に対する栄養教育、企業における新たな食品素材や商品開発、食の安全確保、さらには食・栄養科学研究を含む生命科学研究まで幅広いニーズに対応できる基礎的能力を培う。

### <居住環境学科>

「居住環境学科」は、安全で快適な居住環境に関する総合的な教育を行い、日常生活を取り巻く構築環境に関する理論や技能の修得とその応用により、人々の豊かな居住生活の創造に貢献する有能な人材の育成を目指す。主に次の分野に関する教育、研究を行う。

- ①住生活、住居計画、居住福祉、建築計画、地域計画、まちづくり、住文化史、防災、人間工学、建築設計等に関する分野
- ②居住空間の構造、材料、施工等に関する分野
- ③居住環境工学、建築設備、色彩等に関する分野

大阪市立大学生活科学部居住環境学科では、建築士をはじめとする国家資格の受験に必要なカリキュラムを提供しており、これまで関係分野に数多くの専門家を輩出してきた。大阪公立大学においても、行政における住宅や建築、都市計画分野の政策立案や指導、住宅建設分野における設計者や施工管理者やコンサルタント、居住環境に関する研究者などに求められる基礎的素養に必要な教育プログラムを提供する。

#### <人間福祉学科>

「人間福祉学科」では、個人、家族、地域社会、国際社会まで多角的にとらえ、そして、医学、心理学、教育学、経済学、社会福祉、社会学などの人間・心理・社会にかかわる学際的かつ包括的に専門知識を獲得できるようカリキュラムを構成する。人間のライフステージごとの特徴や生活課題、現代社会にかかわる諸制度に明るくという強みを活かして、社会の様々な分野で活躍できる人材を輩出していく。本学科は、以下の3点の教育・研究目標を基に人材育成を行う。

- ①対人援助のコミュニケーション力の涵養
- ②実践を振り返り洞察していく力
- ③対人援助の実践力

大阪市立大学生活科学部人間福祉学科では、社会福祉士や公認心理師の国家試験受験資格取得に必要なカリキュラムを提供しており、必要な学外実習や演習科目を充実させ、これまで地方自治体を中心に多くの専門職を輩出してきた。また、国や地域課題に対応するため社会政策や制度からのアプローチも重視しており、組織のアドミニストレーション、社会資源の計画的配置や分配についての教育を通じ、行政機関や組織の管理運営に携わる卒業生を多数輩出してきた。大阪公立大学においても、引き続き、社会福祉士や公認心理師の国家試験受験資格取得に必要なカリキュラムを提供し、国や地域の諸課題に対応するためのカリキュラムを提供する。

### 3 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

「1. 設置の趣旨及び必要性」で述べたように、本学部の名称を「生活科学部」とする。「生活」は人類にとって普遍的なテーマであり、「生活科学」は、「健康」「環境」「福祉」という時代を超えて存続する諸科学共通のプラットフォームの名称である。また、「生活科学部」という名称は、社会的にも浸透した学部名称であるため、大阪公立大学においても「生活科学部」という名称を継続して使用することとした。

「食栄養学科」は、食と栄養に関する包括的な専門分野を示す学科名称である。その名称は、学術的にも有効であり、適切な学科名称であると考えたため、当該名称とすることとした。「居住環境学科」及び「人間福祉学科」では、これまで生活科学部で行ってきた専門分野が踏襲され、学科運営が進められること、そして、「居住環境学科」及び「人間福祉学科」は、居住環境学あるいは人間福祉学分野の教育研究を行う学科であるため、社会的にも浸透したこれまでの名称を継続して使用することとした。

#### イ 学位の名称及び当該名称とする理由

学位名称は、学部の名称を使用する。従って、3学科で1つの学位名称とする。学位名称は、学士（生活科学）とし、これまで生活科学部で授与されてきた学位名称を継続して使用する。

#### ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称

学部・学科および学位の英訳名称は下記の通りである。

学部・学科名称	英訳名称
生活科学部	School of Human Life and Ecology
食栄養学科	Department of Nutrition
居住環境学科	Department of Living Environment Design
人間福祉学科	Department of Human Development and Welfare
学位名称	英訳名称
学士（生活科学）	Bachelor of Human Life and Ecology

生活科学（および家政学）は20世紀初頭に人間と環境の相互作用を研究する学問として出発した。当時は「家政学（Home Economics）」という語が当てられ、その後、家事や家庭管理に関する実学へと傾斜したが、1970年代になって、国際的に原点回帰が目指され、「Human Ecology」という語がこの学問を表す言葉として定着している。アメリカ（コーネル大学）や韓国（ソウル国立大学）などの有力大学で学部・カレッジの名称として用いられ、日本でも（旧）家政系の学部・学科で Human Ecology が英語名称となっている。

## 4 教育課程の編成の考え方及び特色

### ア 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

生活科学部の教育課程は、大阪公立大学全体の基本方針とも連動し、「基幹教育科目」及び各学科に設置する「専門科目」を大きな柱とし、各学科の教育目標にあわせたカリキュラムが編成されている。また、本学部の教育課程は、学際的、かつ実践的な教育を重視し、各学科のディプロマポリシーを実現するため、それぞれ学科の特色を生かした編成方針となっている。

#### <食栄養学科>

「食栄養学科」においては、本学科のディプロマポリシーで掲げた学修成果に示された（知識）（技能）等を修得できるように、次の科目群を基幹教育科目、専門科目（専門導入科目、専門基礎分野、専門分野、自由選択科目、教職科目）として設置する。学生には、管理栄養士養成課程に課せられた必修科目を履修させるとともに、自らの学修意欲と興味や関心、キャリアデザインに応じて、2つの履修モデルコースを設置する。

- ・食品栄養学コース：主に食品栄養学分野における技術者・研究者を志望する者を対象とするコース
- ・実践栄養学コース：主に実践栄養学分野における研究者・実践者を志望する者を対象とするコース

両コースでは、専門基礎分野、専門分野において、食栄養学分野の専門性を、さらに履修モデルコースにより先進性の一層高い授業、実習を提供する。

以下の（１）～（６）を通じて、学科共通の学修目標を達成するとともに、（７）の学生のキャリアデザインに応じた2つの学科内履修モデルコースでの学修によって、より専門性、先進性の高い能力を身につけさせ、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者の養成を行う。以上により、本学科の特色に応じた統合的な教育を行う。

（１）本学科での学びの導入である食栄養学概論の専門導入科目を主として1年次に配置する。

（２）総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目（基幹教育科目）を主として1年次に配置する。

（３）専門教育を受講するにあたって不可欠な基礎事項を修得する基礎教育科目（基幹教育科目）を主として1年次に配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

これによりディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった（知識・理解）の基盤を形成する。

（４）食・栄養学の専門家を養成するために必要な専門基礎の講義と実習を主として、２年次・３年次に配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

（５）食・栄養学の専門家を養成するために必要な実地体験（臨地実習）を含む講義、実験、実習を主として３年次に配置する。論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

これによりディプロマポリシーで示した食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与するための（技能）の基盤を形成する。

（６）自らの学びの成果を具現化する演習を３年次、４年次に配置する。レポートによって、学修成果を評価する。

これによりディプロマポリシーで示した学際的学修を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用する（実践的姿勢）を修得させる。

（７）それぞれのコースに求められる専門性、先進性の高い知識、能力を涵養する卒業論文研究や総合演習を４年次に配置する。

これによりディプロマポリシーで示した修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医科学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる（統合的な学修経験と創造的思考力）を涵養する。

#### <居住環境学科>

「居住環境学科」においては、ディプロマポリシーを踏まえて、４年間の学士課程によって、今日の技術者に求められる以下の（１）～（５）の基礎的素養から各種の専門的な知識・技術を学ぶとともに、それらを総合して、（６）にある総合的なデザイン力を修得し、主体的に課題解決に向けて取り組む力、またそのために不可欠となるプレゼンテーション能力、及びコミュニケーション能力といった技能を身につける。学ぶべき専門知識には、身の回りの生活用具やインテリアから、住宅、建築、居住地（地域）、都市に至る多様なレベルでの計画、設計、管理に関する理論と技術の学修が含まれる。

（１）総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目（基幹教育科目）を主として１年次に配置する。人が居住することの意味を考え、まず「人間とは何か」を考えるための基礎的素養を身につける。人間とは何かを考える上での手がかりとなる哲学、倫理学、文学、社会学、経済学、法学などの基礎的知識を学ぶ。ま

た空間構造を解析する基礎となる数学、物理学、地理学、情報学等の基礎を学ぶ。さらに美しい空間や物をつくるために必要な美学・心理学などを学ぶとともに美的感性を磨く。また、1年次に導入科目として居住環境学概論を置き、居住環境学科の特色である生活者としての視点の持つ意味や重要性、居住環境学における問題意識、倫理観を育む基盤を形成する。これにより人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解といったディプロマポリシーに示した（知識・理解）の基盤を身につける。

（2）2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した（知識・理解）を身につける。住む人・使う人の視点を身につけるために、人の生活、住み方や行動、動作、心理・生理などの特性を学ぶ。その理解を基に、都市空間や居住地（地域）、住居などの居住環境に対する要求を把握し、さらにその要求を居住環境の設計・計画に反映させる技術を修得する。これらの知識・技術を修得するために主として計画系の専門科目である住居計画学や建築計画学などを配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

（3）2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した（知識・理解）を身につける。都市空間や居住地（地域）、住居などの居住環境の計画や管理に関わる制度や仕組みについて学ぶ。良好な住まいを確保できないなどの住宅問題に対し、その問題の特質や発生するメカニズムを理解する実践的姿勢と共に、その改善に必要な制度や施策を立案できる計画技術を修得する。これらの知識・技術を修得するために、法規や制度に関わる専門科目である居住企画・経営論や建築・環境法規などを配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、法規集を使いこなす技能を測る試験、即日設計の中で適法性をチェックする試験によって、学修成果を評価する。

（4）2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した（知識・理解）を身につける。住宅や建物における構造の安全性や快適性について学ぶ。構造の安全性を確保するための適切で実践的な構法・構造計画や、その基礎にある構造力学や各種の構造学を学ぶ。また居住環境の快適性を確保するには、温熱環境・空気環境・光環境などに関する問題を総合的かつ実践的に解決する必要がある、それらの基礎となる環境工学と設備工学を学ぶ。これらの知識・技術・実践的スキルを修得するために、建築構造・環境に関わる専門科目である構造力学1・2や居住環境工学1・2などを配置する。専門知識と計算力を問う一般的な試験、及びその意味を体感する実験によって学修成果を評価する。

（5）2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した（知識・理解）を身につける。環境・建築材料に関わる知識・技術・実践的スキルを学ぶ。建物の安全性と密接に関係している材料強度などの物理的特性、シックハウス症候群や室内環境の汚染に関係する接着剤や塗料などの化学的特性を理解する。さらに木質資源材料に代表されるようなエコマテリアルに関する知識や、地球環境問題に対する造詣を深める。これらの知識・技術・実践的スキルを修得するために、建築材料、施工に関わる専門科目である建築材料学や建築施工法などを配置する。専門知識と計算力を問う一般的な試験、及びそ

の意味を体感する実験によって学修成果を評価する。

これらの専門教育を通じて、ディプロマポリシーに示した（知識・理解）、住宅、建築分野およびこれらに関連する自然科学、技術、工学、数学分野の知識・技術などを修得し、応用的に用いることができるようにする。

（6）1年次から3年次までの設計製図によって、空間や物づくりのための総合的なデザイン力を修得する。1年次に基礎設計製図、2年次に設計製図1、設計製図2、3年次に設計製図3を置き、創造的デザイン力、及び実践的な技能を修得する。また、デザインや居住地（地域）を対象としたフィールドワークを実施する。個人または集団による作業によって作成する作品とそのプレゼンテーションによって学修成果を評価する。さらに、4年次に卒業研究をおく。

これらにより、安全で快適な空間を創造的に計画し、計画案を図面や模型などの媒体を用いて他者に伝達することができる（技能）を修得させるとともに、企画から立案、実行に至る実践的な問題解決ができる（実践的姿勢）および修得した知識、技能を用いて、自ら探求あるいは他者との協働を通して、未知の知見を明らかにし、問題解決のための新たな解決策を提示することができる（統合的な学修経験と創造的思考力）を修得させる。

#### <人間福祉学科>

「人間福祉学科」においては、ディプロマポリシーを踏まえて、以下の（1）～（8）を通じて、学修目標を達成するとともに、学生のキャリアデザインに応じた専門性の高い能力を身に付けさせる。本学科の特色に応じた4年間の教育を行うとともに、学部教育において、社会福祉士養成及び公認心理師養成も合わせて行う。

（1）専門的な知識と方法を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。人間の心身に関する専門知識、家族や社会の構造や生活課題に関する専門知識、人間と社会との関係に関する専門知識を体系的に修得する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

（2）人間福祉に関連した多様な基礎知識と基本的な学修能力を身につけるため、1年次、2年次に基幹教育科目として、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、基礎教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目を置く。特に、人権に関する科目の履修を推奨する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。基幹教育を通じて、自然科学、社会科学、人間科学に関する知識をもつとともに、専門教育の中で得た知識を統合し、社会生活を多面的にとらえるための（知識・理解）の基盤を形成する。

（3）学際的な視点を養うため、1年次において、人間福祉に関連する諸科学を概観し、基本的な視点を獲得するための科目として人間福祉学概論を置くとともに基盤となる専門基礎科目を配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

(4) 人間福祉にかかわる広範囲な知識を身につけるための専門共通科目を主として1年次、2年次に配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

(5) 学生個人の関心を掘り下げることができるよう専門応用科目を3年次以降配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

(6) 知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等、社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するため、人間福祉学演習を必修科目として3年次に置く。

これらを通じて、ディプロマポリシーで示した(知識・理解)、すなわち、自然科学、社会科学、人間科学に関する知識、生活と環境、個人と社会の関係、生涯にわたる人間の心身の発達や心理・社会的援助の理解、修得した知識の応用を達成する。対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能、生活課題を発見し、必要な情報の収集、複眼的・論理的な分析、生活課題を解決するための社会資源の活用など、心理・社会的課題を解決するために必要な(技能)を修得する。

(7) 心理や福祉の実践的な能力を修得するため演習や実習科目を主として3年次、4年次に置く。これらの演習・実習を通じて、他者との協働、課題解決に向けた方策の立案、人権や社会正義に基づき、自分の責任で判断・行動する姿勢、自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢といった、ディプロマポリシーで示した(実践的姿勢)を身につけさせる。

(8) 修得した知識や技術を統合し、人間福祉に関する現代の課題に接近し、その解決のための実践的・学術的能力を育成するため、4年次に卒論演習・卒業論文を必修科目として置く。

これらを通じて、修得した知識・技能・実践力などを総合的に活用し、人と社会における新たな課題の解決に取り組むことができるといったディプロマポリシーで示した(統合的な学修経験と創造的思考力)を修得させる。

なお、各学科とも上記の試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点などの評価方法および評価基準については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

## イ 教育課程の概要及び特色

大阪公立大学生生活科学部の「食栄養学科」「居住環境学科」「人間福祉学科」は、人材養成目標、ディプロマポリシーを踏まえ、専門的教育にのみに特化することなく、カリキュラムポリシーに則り、総合大学の利点を生かしたカリキュラムを設置する。

「食栄養学科」の教育カリキュラムは、学生のキャリアデザインに合わせて多彩となり、いずれの分野も実験・実習を主体にした実践的な学修が特長である。化学などの学修を発展させた専門基礎分野としては、1年次から順次開講される専門基礎分野科目である生化学や解剖生理学を通して、栄養学の基盤となる生命と食に関する科目群を履修し、それらの講義に関連する実習・実験を通じて、食品成分や食品添加物の分析、食品成分による生活習慣病の予防効果について分子レベルから人体レベルでの栄養代謝を理解し、食栄養学の基礎的知見と実技を修得する。これらは、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した基本的教養と国際感覚を修得し、専門分野に関する基礎的な知識・技能等を修得するための教育カリキュラムである。

さらに専門分野では、臨床栄養学などの講義や総合演習、学内での関連する実習科目の学修を通して科学的根拠に基づいた栄養管理を行うための理論や手法を学ぶ。さらに上記の知識と技術を得たのち、病院、給食施設、小学校および保健所に出向いて現場のニーズやスキルを体得する。これらは、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した高度な知識・技能等を修得するためのカリキュラムであり、(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)を身につけるよう編成されている。また卒業研究では、一人の研究者の卵として研究の基礎を培い、未知なる食栄養学上の課題探究の成果を卒業論文として論理的にまとめることで、(統合的な学修経験と創造的思考力)が身につくよう指導が行われる。

「居住環境学科」の教育カリキュラムは、建築や住宅分野の建設業のなかで、生活者の視点をもって活躍する技術者の育成を目的として編成されている。居住環境に関する広範な学問分野の専門知識に加え、それらに基づくデザインやプレゼンテーションの技能を学修できることが特色である。基幹教育および専門教育を通じて、住宅、建築分野およびこれらに関連する自然科学、技術、工学、数学分野の知識・技術などディプロマポリシーで示した(知識・理解)を修得する。また、建築士の受験資格取得をはじめとする、学生のキャリアデザインに基づく教育カリキュラムを提供する。住居学や建築学分野の基礎知識を講義により体系的に学修し、修得した知識、技能を演習や実習の課題を通して実践する。これらは、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した安全で快適な空間の創造的な計画や計画案を図面や模型などの媒体を用いて他者に伝達する(技能)や地域社会および国内外の居住空間やそれを取り巻く環境に関する課題を見出し、企画から立案、実行に至る実践的な問題解決能力(実践的姿勢)が身につくよう編成される。

学修卒業研究や卒業設計では、地域社会や国内外の居住環境に関する問題を新たな視点で捉えることにより、独自の課題を設定し、未知の知見を明らかにしたり、創造的な計画案を提示したりすることを目指す。これによって、知識や技術を統合し、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した(統合的な学修経験と創造的思考力)が身につくよう指導が行われる。

「人間福祉学科」は、現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる力と品性を兼ね備えた人間を養成することを目指す。基幹教育と合わせて、専門教育においても初年次教育を重視し、必修科目である人間福祉学概論において社会生活を多面的にとらえるための教育を行うとともに、「専門基礎科目」および「専門共通科目」に、心理学、社会福祉学、医学、教育学、経済学、社会学などの多様な専門科目をバランスよく配置することにより、生活と環境、個人と社会の関係、生涯にわたる人間の心身の発達と心理・社会的援助の知識と応用などディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した（知識・理解）が修得できるよう教育カリキュラムが編成されている。

次に、実践的な教育を適切に実施するため、実習・演習科目を配置する。これらを通じて、対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能や生活課題を発見し、必要な情報を収集し、複眼的・論理的に分析する技能、社会資源を活用する技能などディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した心理・社会的課題を解決するために必要な（技能）（実践的姿勢）の基礎を身につけるよう教育カリキュラムが編成されている。また、社会福祉士及び公認心理師に対応する専門科目や実習科目も配置し専門職養成の教育課程を設置する。資格養成課程に配置された専門科目を通じて、他者との協働、人権や社会正義、自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢など専門職としての（実践的姿勢）が身につくように編成されている。なお、入学後、資格養成課程への登録プロセスを通じて学生の適正を見極めつつ資格養成を行う。

そして卒業論文を通じて、（統合的な学修経験と創造的思考力）が修得できる教育課程となっている。専門科目の演習、実習、卒業論文などにおいて小人数教育が徹底される点が特徴である。

## 5 教員組織の編成の考え方及び特色

### ア 教員組織編成の考え方

大阪公立大学では、大学の教育研究の発展に資するための教員組織として研究院をおく。生活科学部の教員組織は、生活科学研究院となる。大阪公立大学の生活科学研究院では、大阪市立大学大学院生活科学研究科の枠組みを継承し、「食栄養」関連の先端的な教育研究を行う【食栄養学分野】、「環境」を中心とした居住環境学に関連する先端的な教育研究を行う【居住環境学分野】、「福祉」「心理」を中心とした総合福祉学あるいは臨床心理学に関連する先端的な教育研究を行う【総合福祉・臨床心理学分野】の3つの学術専門分野を置き、専門分野ごとに教員を配置して各学術分野の最先端の研究教育を担うとともに、生活科学部・生活科学研究科の運営を一体的に行う。これにより冒頭の「1. 設置の趣旨及び必要性」で述べたような健康、住まい、医療、介護、生活支援を一体的に捉え、「生活の豊かさ」や「インクルーシブ（包摂的）な社会」「健康的な生活の保障」にむけた課題解決を担う生活科学

の学際的な教育研究体制が整備される。

生活科学部では、これまでの枠組みを継承し、「食栄養」関連の先端的な教育研究を行う【食栄養学分野】、「環境」を中心とした居住環境学に関連する先端的な教育研究を行う【居住環境学分野】、「福祉」「心理」を中心とした総合福祉学あるいは臨床心理学に関連する先端的な教育研究を行う【総合福祉・臨床心理学分野】の3つの学術専門分野を置く。そして、3つの学術専門分野の下に学士教育課程である「食栄養学科」「居住環境学科」「人間福祉学科」を設置する。各学科には、標準的には5～12名程度の教授を含む15名～27名程度の教員（教授・准教授・講師・助教）が配置される。各学部の教員配置は以下のとおりである。

「食栄養学科」では、主要科目である社会環境と健康・基礎栄養学・生化学・分子栄養学・解剖生理学・食品学・食品衛生学・感染防御学・応用栄養学・臨床栄養学・公衆栄養学・栄養教育論、等を設定し、教授12名、准教授12名、講師3名で教育を行う。分野的には、食栄養学分野の講義を中心に行う教員27名、同分野の演習・実習を行う教員13名を専任教員として配置する。基本的に主要な科目には専任の教授または准教授を配置する。

「居住環境学科」では、【居住環境学分野】において、住生活学、居住空間情報学、居住空間構造学、居住空間計画学、居住空間設計学、居住環境工学、居住安全人間工学、住居設計学の8つの教育研究分野を柱とする。「居住環境学科」では、居住環境学概論、図形科学、データサイエンス入門などの専門基礎科目に加えて、8つの柱の教授が担当する建築一般構造、構造力学1・2、建築材料学、人間工学1、インテリア計画学、居住企画・経営論、都市計画、住生活論などの必修科目、および住居計画学、建築計画学、住文化史1、居住福祉工学、建築構造学1、居住環境工学1、建築設備1、建築施工法、基礎設計製図1・2、設計製図1～3等の必修科目を主要科目として設定し、教授6名、准教授5名、講師3名、助教2名で教育を行う。分野的には、計画系分野の講義と設計製図関連の演習を中心に行う教員10名、環境工学・構造材料系分野の講義を行う教員5名、演習・実習を行う教員1名を専任教員として配置する。基本的に主要な科目には、専任の教授または准教授を配置する。一級建築士の受験資格を付与する教育プログラムに必要な科目を配置し、一級建築士資格を有する教員6名を含む各分野の専任教員が担当する。

「人間福祉学科」では専門科目として社会福祉原理論、社会福祉学、医学概論、心理学的支援法、発達心理学1・2、社会政策学、ソーシャルワーク原論1・2、社会開発学、家族社会学1、対人援助学、心理的アセスメント、地域福祉論1などを設定し、教授5名、准教授6名、講師3名で教育を行う。分野的には、社会福祉学系分野の講義・演習・実習を中心に行う教員6名、臨床心理学系分野の講義・演習・実習を中心に行う教員4名、家族・社会・生活課題系分野の講義を中心に行う教員5名を専任教員として配置する。基本的に主要な

科目には、専任の教授または准教授を配置する。

なお、教務事項、入試事項など教育研究上の重要事項については、すべて専任教員を責任者として組織の運営管理を行う。

本学部の専任教員のうち完成年度までに定年に達する教員が4名いる。そのうち3名は、担当する授業科目が主要科目であり、かつ、専門分野の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難であることから、本法人で定める「定年退職する教員を特例として大阪公立大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて」を根拠に、定年に達した後も特任教員の身分で主要科目を担当する専任教員として完成年度まで雇用し、教育の実施に支障のないようにする。

なお、定年後雇用する教員の後任となる教員は、教員構成のバランスを考慮し計画的にその確保に努めることとしており、本学部の教員組織の継続性に問題はない。

添付資料1：定年退職する教員を特例として大阪公立大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて

#### **イ 教員組織編成の特色**

本学部の教員は、生活科学研究院に所属しており、教育面では、従来の細分化された内容ではなく、従来の枠組みを超えた幅広い専門分野の学修、教育が可能となるよう編成されている。生活科学研究院の下に、「食栄養学」「居住環境学」「総合福祉・心理臨床科学」の3つの専門分野（大講座）を設置し、これらが学部教育の3つの学科のカリキュラムを提供する。大学院を基盤とし、その下に学士教育を位置づけ、学部から大学院までの一貫した運営管理を行う。本学部は、「ア 教員組織編成の考え方」で述べたように、「食栄養学」「居住環境学」「総合福祉・心理臨床科学」の3つの専門分野が連携して、一体的に研究を進め生活科学の課題解決に取り組む。

#### **ウ 専任教員の年齢構成**

生活科学部の専任教員の年齢構成は、以下のとおりとなっており、教育研究水準の維持構造及び教育研究の活性化に支障のない構成となっている。

<食栄養学科>

専任教員の年齢構成一覧表（令和7年度時点）									
生活科学部 食栄養学科									
職 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	0人	1人	2人	5人	2人	3人	0人	12人	
准教授	0人	1人	2人	3人	5人	1人	0人	12人	
講 師	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	3人	
助 教	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	0人	2人	6人	8人	7人	4人	0人	27人	

<居住環境学科>

専任教員の年齢構成一覧表（令和7年度時点）									
生活科学部 居住環境学科									
職 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	0人	0人	0人	4人	2人	0人	0人	6人	
准教授	0人	0人	1人	2人	2人	0人	0人	5人	
講 師	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	3人	
助 教	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	
合 計	0人	2人	3人	7人	4人	0人	0人	16人	

<人間福祉学科>

専任教員の年齢構成一覧表（令和7年度時点）									
生活科学部 人間福祉学科									
職 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	0人	0人	1人	0人	4人	0人	0人	5人	
准教授	0人	0人	2人	3人	1人	0人	0人	6人	
講 師	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	3人	
助 教	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
合 計	0人	1人	4人	5人	5人	0人	0人	15人	

## 6 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件

### ア 教育方法等

「食栄養学科」では、授業内容に応じて以下の方法を設定して教育を行う

#### ①教育課程と配当年次の設定

食栄養学分野における研究基礎力及び臨床における実践力と研究力を育成するため、求められる基本的教養と国際感覚を1年次の基幹教育科目の学修から、専門分野に関する基礎的な知識・技能等を、1年次後期の専門科目の学修から、さらに高度な食栄養学分野、さらには管理栄養士としての知識と技能を2年次以降の専門科目の履修を通じて学修する。

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、1年次には幅広い教養を身に付けるため基幹教育科目、専門科目を受講するにあたって不可欠な基礎事項を学修するため化学分野などの基礎教育科目、専門科目の導入として食栄養学概論を配当する。

幅広い生命科学に関する知識の修得を目的に、解剖生理学、生化学などの専門基礎分野の科目、栄養学・食品学に関する膨大な知識や考え方について、専門分野の基礎栄養学や応用栄養学1～3などの基礎的な科目を1～2年次に配当する。

専門性の高い科目である臨床栄養学、栄養教育論や食品衛生学などの2～3年次に配当し、関連する実験・実習科目も2～3年次に配当し、3～4年次には栄養士及び管理栄養士の実践能力等の向上を目的とした臨地実習、自らの学びを具現化する演習や、専門性、先進性の高い知識、能力を涵養する卒業論文などを配当した体系的なカリキュラムである。

#### ②少人数教育の推進

本学科は、1学年の定員65人に対して、助手を除く専任教員が27人いることから、3人から5人程度の少人数教育を実行しやすい体制を備えている。本学科は、この特色を生かし、学生と教員の関係を密に保ち、授業や履修指導において質の高い教育を実施することにより、学生の個性に合わせたテラーメイドな教育を推進する。

#### ③実験・実習科目の充実

栄養学に関する高度な専門知識と専門技能を有し、科学的な思考の方法を身に付け、主体的に考え行動できる力を養うため、講義科目による知識、理論の修得のほか、実験・実習科目の充実を図り、実践力を高める。実際の栄養指導の場面を想定したロールプレイングを取り入れた学内実習や、実践活動の場である臨地実習(病院、給食施設、保健所および小学校)を行うことにより、教育の効果を高める。

#### ④グループワークの実施

演習や実習科目において効果的かつ能動的な学修を行うため、グループワーク(1グループ5人程度)を取り入れ、メンバー間との相互学修を行うことにより、問題の発見解決能力や判断能力を高めると共に、他者との協同学修を通じて栄養学の専門家としての技能を修得する。

「居住環境学科」では、授業内容に応じて以下の方法を設定して教育を行う。

#### ①教育課程と配当年次の設定

本教育課程の特徴は、一級建築士試験で要求される水準を「社会の要請する水準」の重要な目安のひとつとしながら、生活者の視点に軸足を置く学科の伝統に基づき、住空間、インテリア、生活機器、まちづくりなど、身近な居住環境に関わる分野に重点をおいている点にある。

専門科目とそれを補完する基幹教育の教育課程において、各学修・教育到達目標に対応する実験・実習科目、講義科目を、それら授業科目間の関連性や難易度等を考慮して配置し、無理なく科目を修得することができるように設計している。3年次の夏からはゼミ配属を行い、卒業研究に向けた研究活動も開始する。

具体的には、主に1、2年次に基幹教育科目で、人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力や住宅・環境・建築技術者に必要な自然科学や情報技術の知識・理解力を修得し、主に2、3年次の専門科目の講義科目で、居住生活・居住空間に関する幅広く深い理解と高度な計画能力、住宅、建築、地域環境の技術および関連分野の技術に関する知識と応用能力を修得する。そして、主に2、3年次の実習科目、及び4年次の卒業研究において、快適で美的な空間を設計し、デザインするための創造的能力、居住空間・環境における課題を発見し、与条件のもとで企画・立案・実行を行う能力、共同作業や実務に役立つ論理的プレゼンテーション能力と、他者と協調して行動し、リーダーシップを取ることができるコミュニケーション能力を修得する。

#### ②授業の方法

本学科の教育課程は、講義科目と設計製図を中心とした実習・演習科目の両方で構成する。知識の獲得と理解を目的とする科目については主に講義形式で、デザインや技術の獲得を目的とする科目は実習・演習形式で、またコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の学修を目的とする科目は、実習・演習、およびゼミ活動形式で提供する。実習・演習・ゼミ活動は3名から5名程度のグループディスカッションや作品のプレゼンテーションを取り入れる。また、年1回開催される「居住環境デザインフォーラム」を実施し、保護者や学外者を交え、学科内の教育成果を発表する場を設ける。

「人間福祉学科」では、授業内容に応じて以下の方法を設定して教育を行う。

#### ①教育課程と配当年次の設定

1、2年次に基幹教育科目を通じて、人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解を進める。専門科目においては、1年次に導入科目として人間福祉学概論を配置する。人間福祉学概論では、心理学、社会福祉学、社会学、経済学など様々な学問分野を紹介する中で、人間福祉学の位置と人と社会およびその関係性における生活課題の捉え方をめぐる全体像

を理解させる。続いて、1年次に社会福祉学、心理学の基礎を学ぶ専門基礎科目を集中的に配置する。これにより人間福祉学のもつ幅広い学問領域への入り口とする。2年次にはソーシャルワーク、高齢者福祉論、障害者福祉論、対人援助学など分野に関わらず共通して理解すべき内容を教授する科目を配置し、3年次以降に配置する専門応用科目を通じて、学生個人の関心を特化させていき、4年次の卒業論文につなげていく。

#### ②アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れた授業の実施

1コマの授業時間を90分とし、講義・演習・実習を問わず、学生の主体的・対話的で深い学びを促すためのグループ討議や協働学修、ロールプレイなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を展開する。教員と学生の双方向の授業展開を可能とし、学生の「学力の3要素」(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的・協働的な学修態度)の向上を図る。

#### ③個別学修を支援するゼミ形式の少人数教育の実施

3年次から4年次には、「人間福祉学演習」「卒論演習」「卒業論文」からなるそれぞれ必修のゼミ形式の授業を配置し、少人数教育を展開する。「人間福祉学演習」「卒論演習」「卒業論文」では、教員1人当たり最大5人までの学生を指導することとし、学生の履修状況や学修課題を把握し、個別指導に基づく継続的できめ細かい学修支援を行う。

## イ 履修指導方法

生活科学部では以下の履修指導、修学支援を行っている。

#### ①履修ガイダンスの実施

入学時のガイダンスにおいて、履修ガイドブック、シラバス、履修モデルを提示し、教育課程の考え方・特色や入学時から卒業時までの履修方法について説明する。

#### ②成績発表後の指導

学生の年間成績は、保護者等にも郵送する。GPAの低値が続く学生に対しては、学科の教員内で情報の共有を行った上で教務委員やゼミナールの担当教員が学修指導などを行い、必要に応じて保護者等も交えた面談を行う。一方、第1年次終了後にGPAが優秀な学生に対しては、とくに成績上位者5名に対して初年次成績優秀賞を設けてこれを顕彰し、あわせて副賞を贈呈する。

「食栄養学科」では修学の支援として1学年につき2人の専任教員を配置する担任制を導入し、入学時から卒業時まで、卒業後の進路選択も見据えたきめ細かな履修相談、履修指導を行う。成績表の配付と定期的な面談も担任が行うこととする。このほか、各教員によるオフィスアワーや電子メールを利用した修学支援も行う。

「居住環境学科」では、入学時～ゼミ配属まで専任教員を配置する担任制を導入し、3年次8月よりゼミに配属されるが、研究活動においては複数の教員から指導が受けられるよ

うに教員 4~5 人のゼミをグルーピングし、年に 2 回の合同ゼミを開催する。また卒業研究の指導においては、主査の他に副査をつけ、指導・評価を行う。また、「学修進捗確認シート」を作成し、毎年の年度はじめに学生に記入させ、学生が自身の学修目標とその到達度を確認するよう指導する。

「人間福祉学科」では入学直後から教務委員、第 3 年次後期以降はゼミナール担当教員も加わってオリエンテーションや履修指導を随時実施する。とくに公認心理師と社会福祉士からなる資格関連科目の履修については、第 2 年次前期に養成課程登録説明会を実施し、適切な履修選択ができる助言を行う。

## ウ 卒業要件

卒業に必要な修得単位数は次表のとおりとする。

科目区分 単位数  学科別	基幹教育科目							専門科目					合計
	基幹教育科目（基礎教育科目除く）							基礎教育科目＋専門科目					
	(1) 総合教養科目	(2) 初年次教育科目	(3) 情報リテラシー科目	(4) 外国語科目	(5) 健康・スポーツ科学科目	(1)～(5)のいずれか選択	計	(6) 基礎教育科目	必修科目	選択科目	自由選択科目	計	
食栄養学 科	10	2	2	8	3	0	25	10	92	6	0	108	133
居住環境 学科	10	2	2	8	3	8	33	8	62	22	0	92	125
人間福祉 学科	10	2	2	8	3	10	35	0	18	76	0	94	129

「食栄養学科」は、基幹教育科目（基礎教育科目除く）25 単位、基礎教育科目と専門科目を合わせて 108 単位の合計 133 単位以上を卒業要件とする。専門科目の科目区分ごとの必修科目は専門導入科目で 2 単位、専門基礎分野で 42 単位、専門分野で 48 単位の合計 92 単位、選択科目は専門基礎分野と専門分野から合計 6 単位の修得が卒業要件となる。必修科目には、食栄養学分野における研究基礎力及び臨床における実践力と研究力を育成する

ため、さらには管理栄養士として求められる知識技能を修得するための科目を設定する。選択科目には、管理栄養士や食栄養学の研究者、技術者としてのキャリアパスに応じたより専門的な科目を設定する。なお、卒業論文についてはその基盤となる実験データの取りまとめ等も含めて360時間相当の時間数が必要と想定し、8単位を与えることとする。

「居住環境学科」は、基幹教育科目（基礎教育科目除く）33単位、基礎教育科目と専門科目を合わせて92単位の合計125単位以上を卒業要件とする。専門科目の科目区分ごとの必修科目は専門基礎科目で36単位、専門応用科目で26単位の合計62単位、選択科目は専門基礎科目と専門応用科目から合計22単位の修得が卒業要件となる。

必修科目としては、建築一般構造、構造力学1,2、建築材料学、人間工学、インテリア計画学、居住企画・経営論、都市計画、住生活論、住居計画学、建築計画学、住文化史1、居住福祉工学、建築構造学1、居住環境工学1、建築設備1、建築施工法、基礎設計製図1,2、設計製図1~3などの専門科目および卒業研究が必修科目となる。選択科目としては、色彩学、建築設備1,2、生活機器学などがある。なお、卒業研究については研究室外での調査や作業、データの取りまとめ等も含めて450時間相当の時間数が必要と想定し、10単位を与えることとする。

「人間福祉学科」は、基幹教育科目35単位、専門科目94単位の合計129単位以上を卒業要件とする。専門科目の科目区分ごとの必修科目は基礎科目で6単位、卒業関係科目で12単位の合計18単位、選択科目は基礎科目、専門共通科目、社会福祉系専門応用科目、臨床心理系専門応用科目、社会科学系専門応用科目、社会福祉士実習・演習科目、公認心理師実習・演習科目から合計76単位の修得が卒業要件となる。

必修科目としては、人間福祉学概論、社会福祉原理論、臨床心理学概論および人間福祉学演習、卒業演習、卒業論文がある。専門科目には、医学概論、社会福祉学、発達心理学1,2、社会政策学などの基礎科目、ソーシャルワーク原論1,2、社会保障論1,2、高齢者福祉論、障害者福祉論、心理的アセスメント、国際開発学、家族社会学1、地域福祉論などの専門共通科目1、医療福祉論、介護学、社会福祉権利擁護論、ソーシャルワーク論1~4などの社会福祉系専門応用科目、障害者・障害児心理学、心理学統計法、感情・人格心理学などの臨床心理系専門応用科目、地域経済論、生活経済学、社会疫学などの社会科学系専門応用科目に区分される。なお、社会福祉士および公認心理師の国家資格取得に必要な十進および演習科目は選択科目となる。なお、卒業論文についてはその基盤となる調査データの取りまとめ等も含めて360時間相当の時間数が必要と想定し、8単位を与えることとする。

## エ 履修モデル

「食栄養学科」の履修モデルを提示し、卒業後の進路希望や資格等取得希望に即した履修指導を行う。

卒業要件（133単位以上）の履修モデルコースとして、食品栄養学コースは履修モデル1（食栄養学科・食品栄養学コース・（技術者・研究者）モデル）を、栄養実践学コースは履

修モデル2（食栄養学科・実践栄養学コース・(研究者・実践者)モデル）を用意する。栄養士資格の取得希望者（136単位以上）は履修モデル3（食栄養学科・栄養士資格取得モデル）を、管理栄養士国家試験受験資格の取得希望者（139単位以上）には、履修モデル4（食栄養学科・管理栄養士受験資格取得モデル）を用意する。栄養教諭一種免許状の取得希望者には、履修モデル4に加え、「栄養教諭関連科目」を修得しなければならない履修モデル5（食栄養学科・栄養教諭取得モデル）を、家庭科教諭一種免許状（中学校・高等学校）の取得希望者には、履修モデル6（食栄養学科・家庭科中・高教員取得モデル）を用意する。

「居住環境学科」の履修モデルを提示し、卒業後の進路希望や資格等取得希望に即した履修指導を行う。

建築士受験資格を希望する者には履修モデル7（居住環境学科・建築士受験資格取得モデル）を、インテリア、デザインなどの知識の修得を目指す者には履修モデル8（居住環境学科・標準モデル）を用意する。

「人間福祉学科」の履修モデルを提示し、卒業後の進路希望や資格等取得希望に即した履修指導を行う。

公認心理師を希望する者には「心理系（履修モデル9（人間福祉学科・心理系・公認心理師取得モデル）」、社会福祉士国家試験受験資格の取得希望者は「福祉系（履修モデル10（人間福祉学科・社会福祉士取得モデル）」、その他「生活系（履修モデル11（人間福祉学科・家族・社会・生活系モデル）」を用意する。

※別添資料2-1～2-11 履修モデル

## オ 多様なメディアの活用

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第25条第2項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

## カ 履修科目の上限設定

年間の上限履修単位数は50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）とする。ただし、自由科目、卒業要件外の教職・資格科目、他の科目の授業時間外学修を妨げない期間に開講される科目（集中講義、インターンシップ科目など）は上記の対象外にすることができることとする。

## キ 他大学における授業科目の履修等

他大学との単位互換については、学則等に記載された範囲内で認めることがある。

## ク 留学生への配慮

留学生への入学後の履修指導や生活指導等については、教務委員等が積極的に対応し、事務体制も相談できる体制を現行の大阪市立大学生活科学および大阪府立大学地域保健学域で構築しており、大阪公立大学でも同体制を基盤とし、留学生への配慮を行うものとする。

## 7 施設、設備等の整備計画

### ア 校地、運動場の整備計画

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

### イ 校舎等施設の整備計画

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

#### 教育研究に使用する施設、設備等

生活科学部において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパスに新たに建設する新校舎の施設と大阪市立大学の杉本キャンパス及び大阪府立大学羽曳野キャンパスの施設・設備等を継承する次の施設、設備等により実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

#### 1) 講義室・演習室・研究室等

生活科学部では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。生活科学部における施設概要は次のとおりである。

##### 【施設概要】

- ・講義室 7 室
- ・研究室 61 室（教員共通研究室、教員居室等を含む）
- ・実習室 27 室（実習室、実験室、分析室の他、関連諸室を含む）

#### 2) 実験施設・設備等

生活科学部における実験の授業科目は、27 室ある実験室において実施する。

生活科学部の各学科における実験施設関連・設備等は次のとおりである。

##### 【実験施設・設備等】

食栄養学科（杉本キャンパス・羽曳野キャンパス両方のキャンパスで同じ設備あり）

（設備等）高速液体クロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー質量分析装置、ガス

クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー質量分析装置、原子吸光分光光度計、紫外可視分光光度計、蛍光分光光度計、蛍光顕微鏡、光学顕微鏡、安全キャビネット、クリーンベンチ、CO<sub>2</sub> インキュベーター、高速冷却遠心機、小型高速冷却遠心機、PCR 装置、リアルタイム PCR 装置、ゲルイメージングシステム、極低温槽、超純水製造装置、純水製造装置、食品物性測定装置、粘度測定装置 ほか

#### 居住環境学科

(設備等) 人間環境制御装置、3次元リアルタイムモーション計測システム、トレッドミル、圧力分布測定システム、握力用ロードセル(4軸)、P&G ゴニオメータ、ウェアラブル接触力センサー、重心動揺計、赤外線酸素モニタ装置、多用途テレメータシステム、多用途生体アンプ(8チャンネル生体アンプ)、上腕式血圧計、レーザー組織血流計、呼吸代謝測定装置、皮膚温計測用データ収集型ハンディタイプ温度計、呼吸ピックアップ(胸腹呼吸センサ)、携帯型脈波測定装置、ニホンサンテック(株)、Polypul(PCG) II、EDA(皮膚電気活動)ユニット、フリッカー計測装置、デジタイマー II、デジタル握力計、振動刺激コントロールユニット、データロガー、変位制御式万能試験機、アムスラー型耐圧試験機、コンクリート圧縮試験用変位測定器 ほか

#### 人間福祉学科

(設備等) 遊戯療法の設備、箱庭療法の設備、行動観察のための設備、個別面接用設備、グループワーク用ミーティングテーブル、実習の事前・事後学修用の資料など

#### ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

## 8 入学者選抜の概要

### ア アドミッションポリシー

生活科学部は「健康」「環境」「福祉」を基礎概念とし、生活を取り巻く3分野を研究対象とする食栄養学科、居住環境学科、人間福祉学科の3学科から構成され、分野横断的な教育研究を行う。既知の問題を効率的に解く能力だけでなく、人間生活の多様な側面を新たな視点や感性によって捉え、自ら問題を発見して解決策を見出すことのできる人材の育成を目指す。

したがって、生活科学部では、次のような学生を求めている。

### 【生活科学部の求める学生像】

- ・本学部の学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人
- ・学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
- ・自己学習や協働を通して学問を探究し、自らの経歴を形成することができる人

### <食栄養学科>

#### (1) 学科が行う人材育成方法

安全、安心な食環境の創造を通じた健康増進のために、食・栄養学をはじめ、化学、生物、物理、数学、英語などの基礎学力や、根拠に基づくプレゼンテーションや討論の技能を有し、社会や地域の食・栄養問題を解決することのできる人材の育成を目指す。

したがって、食栄養学科では、次のような学生を求めている。

#### (2) 求める学生像

- ①食・栄養に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人
- ②学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
- ③自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人

#### (3) 入学者選抜の基本方針

本学科は多様な人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜、国際バカロレア特別選抜、私費外国人留学生特別選抜を実施する。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)、(統合的な学修経験と創造的思考力)の目標を達成するための基礎が備わっていることを確認するために、次の「学力の3要素」に関する成果に基づいて入学者選抜を行う。

#### ①知識・技能

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

#### ②思考力・判断力・表現力等の能力

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

#### ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

口述試験や志望理由書等の内容が優れている。

### <居住環境学科>

#### (1) 学科が行う人材育成方法

新たな居住環境の創造のために、居住環境学をはじめ、科学、技術、工学、数学などの基礎学力や、根拠に基づくデザインやプレゼンテーションの技能を有し、社会や地域の居住環境問題を解決することのできる人材の育成を目指す。

したがって、居住環境学科では、次のような学生を求めている。

#### (2) 求める学生像

- ①居住環境に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人
- ②学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
- ③自己学習や協働を通して学問や居住空間のデザインを探究し、自らの経歴を形成することができる人

### (3) 入学者選抜の基本方針

本学科は多様な人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜、国際バカロレア特別選抜、私費外国人留学生選抜を実施する。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)、(統合的な学修経験と創造的思考力)の目標を達成するための基礎が備わっていることを確認するために、次の「学力の3要素」に関する成果に基づいて入学者選抜を行う。

#### ①知識・技能

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

#### ②思考力・判断力・表現力等の能力

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

#### ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

口述試験や志望理由書等の内容が優れている。

### <人間福祉学科>

#### (1) 学科が行う人材育成方法

人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる人材の養成を目指す。

したがって、人間福祉学科では、次のような学生を求めている。

#### (2) 求める学生像

- ①人間福祉に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意思を有する人
- ②学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
- ③自己学習や協働を通して、人とのかかわり、人を支えることに関心をもち、福祉課題を探索し、自らの経歴を形成することができる人

### (3) 入学者選抜の基本方針

本学科は多様な人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜、国際バカロレア特別選抜、私費外国人留学生選抜を実施する。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーで示した(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)、(統合的な学修経験と創造的思考力)の目標を達成するための基礎が備わっていることを確認するために、次の「学力の3要素」に関する成果に基づいて入学者選抜を行う。

#### ①知識・技能

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を取めている

②思考力・判断力・表現力等の能力

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を取めている

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

口述試験や志望理由書等の内容が優れている。

## イ 入学者選抜の方法と体制

一般選抜（募集人員：食栄養学科 45 名、居住環境学科 34 名、人間福祉学科 30 名）：大学入学共通テスト（教科型：国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）と個別学力検査（教科型：3 学科ともに英語を必修、食栄養学科は数学と理科、居住環境学科は数学、人間福祉学科は国語、数学から 1 教科を選択）による評価を実施する。

国際バカロレア特別選抜（募集人員各学科若干名）：国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を授与された者もしくは授与される見込みの者を対象に実施する。

私費外国人留学生特別選抜（募集人員各学科若干名）：外国人留学生を対象に、日本留学試験と個別学力検査等による評価を実施する。

国際バカロレア特別選抜における定員は食栄養学科、居住環境学科、人間福祉学科とも若干名とし、それぞれの一般選抜募集人員の内数とする。定員を定めた相対評価ではなく、小論文と口述試験において受験生の適性を絶対評価で確認して判定を行うため、定員は「若干名」としている。入学後のカリキュラムは、それまでに一定水準以上の基礎学力を身につけていることを前提に展開されており、卒業時の成績等において、すべての学生が同等の水準に達していることが不可欠である。それを実現するには、十分な検証時間が必要であるため、当面の間、定員設定は若干名とする。本学部における教育目標の達成との両立を図りながら、入試の多様化は慎重に進めていく。

絶対評価により志願者の能力を図り選抜するため、専門教育の基盤となる科目を指定科目とし、食栄養学科は物理（HL）、化学（HL）、生物（HL）から 1 科目、居住環境学科は、物理（HL）、数学（HL）から 1 科目、人間福祉学科は英語（HL）としている。また、個別学力検査等の科目として、小論文および口述試験を設定し、入学後の論文作成能力およびコミュニケーション力を評価することとしている。合否判定は、個別学力検査等の成績及び出願書類の内容を総合して行う。

生活科学部では、バカロレア特別選抜を学校推薦型推薦入試とともに、アドミッションポリシーで示す多様な学生を選抜する枠組みと位置づけている。特にバカロレア特別選抜は海外での経験あるいは将来国際的な舞台での活動を希望する学生を確保するための選抜方式として設定することとした。生活科学部では、国際経済や国際開発などのテーマとするグローバル経済論や国際開発学の科目も設定しており、多様な学生間のダイナミクスに期待している。

大阪市立大学生活科学部におけるこれまでの受験者は 1 名であり、合格者はいないが、

今後、国際バカロレア資格取得者の増加にともなって、本学志望者および合格者が増えることを想定しており、新大学においても、受け入れるための体制は整えている。

今後は、国内においては学校推薦型推薦入試と合わせてバカロレアの課程を持つ高校等に対して広報活動を行い、学生確保を進めることとしている。また、英文 HP 等を充実させることによって国際的な経験をもつ学生へのアピールを海外に向けても行っていく。

このようなことから、開学時の定員を「若干名」としていることは妥当と考えているが、他方、バカロレア校側からの要請や今後のさらなる定着性に応じて、入学定員についての検討の考えは有している。

国際バカロレア特別選抜、私費外国人留学生特別選抜の定員は、一般選抜募集人員の内数とする。

学校推薦型選抜（募集人員：食栄養学科 20 名、居住環境学科 9 名、人間福祉学科 15 名）：学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校等の学校長が責任を持って推薦するものに対し、志望理由書等の出願書類及び大学入学共通テストの成績を総合して判定し、さらに指定した者に口述試験を実施する。以下の大阪府内枠と全国枠よりなる。

大阪府内枠（募集人員：食栄養学科 8 名、居住環境学科 2 名、人間福祉学科 2 名）：大阪府立の高等学校等を卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者を対象とする。

全国枠（募集人員：食栄養学科 12 名、居住環境学科 7 名、人間福祉学科 13 名）：広く全国の高等学校等を卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者を対象とする。大阪府内枠で不合格となった者は、全国枠に該当する者と共に再度選抜を行う。

入学選抜は、学長を中心とした責任体制のもと、教授会の審議を経て、中立・公正に実施する。

## ウ 多様な学生の受入

「私費外国人留学生特別選抜」により留学生を受け入れる。留学生の選抜では、「日本留学試験」の成績および個別学力検査等によって日本語能力を確認する。経費支弁能力等の確認や在籍管理については、大阪公立大学の規程に基づき実施する。

## 9 取得可能な資格

<食栄養学科>

資格名	資格種類	資格・受験資格の別	資格取得の条件
栄養教諭一種免許状	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。
中学校教諭一種免許状（家庭）	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。
高等学校教諭一種免許状（家庭）	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。
栄養士	国家資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格関連科目の履修が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。
管理栄養士	国家資格	受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格関連科目の履修が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。
食品衛生管理者・食品衛生監視員	任用資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

なお、今回の設置に併せて、管理栄養士養成施設の指定を受けるため、教育課程・専任教員の配置状況と指定規則との対比表を示す。

別添資料3 教育課程・専任教員の配置状況と指定規則の対比表

<居住環境学科>

資格名	資格種類	資格・受験資格の別	資格取得の条件
一級建築士	国家資格	受験資格	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 ただし、免許登録には所定の試験に合格した後 2 年間の実務経験が必要
二級建築士	国家資格	受験資格	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
インテリアプランナー	民間資格	登録資格	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 ただし、所定の試験に合格した者

<人間福祉学科>

資格名	資格種類	資格・受験資格の別	資格取得の条件
社会福祉士	国家資格	受験資格	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
社会福祉主事	任用資格	資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
公認心理師	国家資格	受験資格（「卒業後実務経験が必要」または「大学院で指定科目履修が必要」）	卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格関連科目の履修が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。

人間福祉学科では、公認心理師国家試験の受験資格に必要な「4年制大学において公認心理師法施行規則第1条で定める科目」を履修できる。公認心理師国家試験の受験資格を取得するためには、人間福祉学科での科目履修以外に、「大学院において施行規則第2条で定める科目を履修」あるいは「施行規則第5条で定める施設で施行規則第6条で定める期間以上の実務経験」が必要であり、学生に対しては、入学時のガイダンス及び、1年次後期のガイダンスで受験資格の取得方法について十分な周知を行う。

## 10 実習の具体的計画

### (1) 教員免許（教育実習・栄養教育実習）

#### ア 実習の目的

本学は1学域、11学部、15研究科からなる総合大学として、大阪市、大阪府をはじめとする関西圏を中心とした、教育現場の発展に寄与する高度な専門性を有する教員の養成を目的とする。

教職課程の集大成にあたる教育実習では、教育現場である学校に実際に身を置くという経験を通して、教師の使命や具体的な職務内容、教師として必要な資質・能力を改めて認識するとともに、各学域・学部での専門的な学びや教職課程での学びを土台に、学習指導や生徒指導などの教育活動に取り組むことを通じて、教師としての指導力・実践力を高め、教職への適性を確かめることを目指す。

#### イ 実習先の確保の状況

教育実習の実習先として、大阪市教育委員会、大阪府教育委員会から実習受け入れの承諾を得ている小学校292校、中学校132校、高等学校154校を確保しており、実習先の確保としては十分な状況にある。

別添資料4-1 実習施設一覧

別添資料4-2 実習施設受け入れ承諾書

#### ウ 実習先との契約内容

大阪市教育委員会、大阪府教育委員会と実習時に順守すべき事項等について事前に協議し、決定する。

#### エ 実習水準の確保の方策

教職課程の各授業科目の履修、教育実習の事前事後指導、学内で実施する教育実習関係の各種オリエンテーション等を適切に実施することを通じて、実習水準を確保する。成績評価

については、シラバス等で学生に明示することで水準を確保する。

#### オ 実習先との連携体制

実習開始前に、本学の教員及び教職担当の事務担当者を通じて、実習先担当教職員と十分な打ち合わせを行う。また、実習中に随時連絡を取り合える体制を構築する。

#### カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の健康管理については、本学で全学生対象に年 1 回実施する定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を全学的に把握する。また、学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険などの保険加入を義務付ける。さらに、感染予防対策として、事前指導時において予防接種などの確認を行う。また、実習前のオリエンテーションなどを通じて実習中に知り得た情報に関する守秘義務の厳守や SNS に実習中の事項を投稿などしないことについて指導する。

#### キ 事前・事後における指導計画

教育実習においては、教育実習事前事後指導の授業内で事前指導、事後指導を行う。事前指導では、教育実践の責任の大きさや奥の深さを認識しつつ実習への総合的な準備をし、実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。事後指導では、教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

#### ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教育学を専門とする専任教員に加え、教職課程を設置するすべての各学域・学部、研究科の専任教員が巡回指導を行う。巡回の回数等は実習校と協議し決定する。

#### ケ 実習施設における指導者の配置計画

大阪府教育委員会、大阪府教育委員会及び実習校と適切な指導者の配置について、協議する体制を整える。

#### コ 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習における成績評価・単位認定については、実習校からの実習に関する評価を基に、大学の専任教員が総合的な観点から評価し、単位認定を行う。

#### サ その他特記事項

該当なし

### (2) 栄養士・管理栄養士（給食経営管理臨地実習・臨床栄養学臨地実習・公衆栄養学臨地

## 実習)

本学部の食栄養学科では、栄養士及び管理栄養士の養成を行うため、学外での臨地実習を実施する。食栄養学科の学外（臨地）実習について、その具体的計画を以下のように説明する。

### ア 実習の目的

#### 1) 実習の基本方針

食栄養学科の臨地実習は、大学における講義・演習、実験・実習等の授業で学修した成果を、各学校・福祉施設・企業等の給食現場、保健所、保健センター等の行政現場及び病院等の医療現場等で生かすための実践的トレーニングの第一歩と位置づけており、実習施設と連携して栄養士及び管理栄養士の知識・技術・態度及びその実践能力の向上を目的として、少人数グループでの個別指導により実施する。臨地実習科目として、「給食経営管理臨地実習」(1単位)、「臨床栄養学臨地実習」(2単位)、「公衆栄養学臨地実習」(1単位)を配置する。栄養士免許も取得には「給食経営管理臨地実習」(1単位)の単位修得が必須であり、管理栄養士国家試験受験資格にはすべての臨地実習科目合計 4 単位の単位修得が必要である。

#### 2) 実習の目的

栄養士及び管理栄養士の職務である保健、医療、福祉、食育等の現場において、傷病者、高齢者及び地域住民等を対象とした栄養ケア・マネジメント能力を培うとともに、栄養士及び管理栄養士としての職務内容を体験し、実務に関連する知識・技術を正しく理解し、修得することが臨地実習の目的である。

#### 3) 実習の目標

臨地実習において学生が獲得する能力を、食栄養学科のディプロマポリシー、特に(技能)と(実践的姿勢)と対応させた実習目標を示す。

- ①地域社会における栄養士及び管理栄養士の使命や役割を理解できる。
- ②栄養士及び管理栄養士の必要とされる実務能力を養う。
- ③臨床現場におけるチーム医療を協働する医師、看護師、薬剤師等の他職種者との連携、栄養指導を必要とする患者とのコミュニケーション能力を養う。
- ④栄養指導となる対象者の人権、個人情報の保護、インフォームドコンセントを理解して、対象者に適切に対処する留意点等を認識できる。
- ⑤公衆衛生的観点から、保健、医療、福祉、介護等における対象別の栄養アセスメント方法を理解し、給食の運営・経営管理及び栄養ケア・マネジメントの実践能力を養う。
- ⑥実習期間中、各実習分野での実践力を養うため、実践現場における課題抽出、課題解決のための企画・立案・実践・評価の取り組みの実際を理解し、問題解決能力を養う。

#### 4) 実習科目

学外（臨地）実習を以下のとおり開講する。

①給食経営管理臨地実習、1単位、3年次後期・4年次前期

②臨床栄養学臨地実習、2単位、4年次通年

③公衆栄養学臨地実習、1単位、4年次通年

5) 各分野の教育目的・目標

各実習の教育目的・目標は、以下に示すとおりである。

①給食経営管理臨地実習

(教育目的・教育目標)

教育目的：給食サービスを提供する管理栄養士の在り方や役割を理解し、説明することができる。また、学内で学んだ給食業務に関わる専門知識と給食施設現場にける技能の統合を図ることができる。

教育目標：特定給食施設における管理栄養士の職務や位置づけから給食運営まで、管理栄養士業務全般を学修する。臨地実習指導者のもとで、給食業務を行うために必要な栄養管理の手法、献立作成から配膳までの給食サービス提供に関する専門知識と技術を、給食施設現場で学び体得する。

(実習施設)

社会福祉施設、事業所、保育所（認定こども園）、学校（小・中学校）・学校給食センター、病院・介護老人保健施設等

②臨床栄養学臨地実習

(教育目的・教育目標)

教育目標：医療倫理を基本とし、医療人としての臨床現場での適切な栄養管理の総合的なマネジメントの考え方、実践方法を修得し、医療・介護制度、チーム医療における管理栄養士の役割について理解する。また、大学のカリキュラムで学んだ知識のつながりを理解し、不足の知識を補う。

教育目標：医療人としての心構えおよび接遇を学ぶ。栄養管理、給食管理、衛生管理、多職種連携について実習を通じて学ぶ。

(実習施設)

病院、医療センター

③公衆栄養学臨地実習

(教育目的・教育目標)

教育目的：保健所または市町村保健福祉センターなどにおける実習を通して地域における公衆栄養活動の実際を学ぶ。

教育目標：保健所、市町村保健福祉センターなどの果たす役割や業務、行政栄養士の業務、地域、職域関連組織といった社会資源の役割などについて、保健所または市町村保健センタ

一などにおける実習を通じて学ぶ。

(実習施設)

保健所、保健福祉センター等

## イ 実習先の確保の状況

実習先として、大阪府下の施設を主に、近隣の各施設からの承諾を得ており、定員分の受け入れ先が十分確保できている状況である。

別添資料 4-1 実習施設一覧

別添資料 4-2 実習施設受け入れ承諾書

### ① 給食経営管理臨地実習

本実習は、栄養士または管理栄養士を配置している特定給食施設である社会福祉施設、事業所、保育所（認定こども園）、学校（小・中学校）・学校給食センター及び病院・介護老人保健施設等で実施する。なお、上記の施設から合わせて 20 施設 65 人分の実習受け入れの承諾を得ている。

### ② 臨床栄養学臨地実習

本実習は、病院、医療センターで実施する。実習先の確保状況については、病院・医療センター等から 24 施設、65 人分の実習受け入れの承諾を得ている。実習先は、大阪府下および大阪府に隣接する兵庫県の施設であり、学生等の移動については配慮されている。

### ③ 公衆栄養学臨地実習

本実習は、大阪市内の保健所、保健福祉センターで実施する。なお、大阪市から 65 人分の受け入れ承諾を得ている。

## ウ 実習先との契約内容

### 1) 実習施設との協定

臨地実習にあたっては、臨地実習を行う実習施設と協定を締結する。なお、施設側で所定の契約書や実習要綱が存在する場合には、内容を双方で検討の上、原則として実習施設の定めたものに従う。

実習先とは、下記の内容に関する確認を行う。

実習委託の内容、実習の内容、実習期間、実習委託料、健康診断書の提供（検便結果、指定される抗体検査結果も含む）、実習生の遵守義務、施設側の服務規程の遵守、実習中の事故及び疫病、個人情報・機密情報の保護、損害保険の加入、契約解除その他の条項

## 2) 誓約書の提出

実習を実施するにあたり、履修学生による「法令遵守、守秘義務等に関する臨地実習契約書」を実習先に提出する。また、実習ハンドブックに事故防止・感染防御対策、個人情報保護に関するマニュアルを記載し、学生・教員・実習関係者に周知徹底を図る。法令遵守や守秘義務等については事前指導により確実に認識させる。

## エ 実習水準の確保の方策

### 1) 実習ハンドブックの配付

臨地実習の目的・目標、実習方法、実習内容、実習上の注意事項等を実習前より理解できるよう準備する。学生は臨地実習中、常に「実習ノート」を携帯し、内容確認できるよう義務付ける。

### 2) 臨地実習担当者の職務

臨地実習担当者は、臨地実習が円滑に実施できるように、科目責任者と連携の上、以下の職務を遂行する。

- ・臨地実習教育方針の策定、実習目的や実習水準を確保・達成するために実習ノートの作成・検討・採用
- ・臨地実習年間計画の立案・調整
- ・臨地実習可能施設の継続検討
- ・臨地実習施設との連絡・調整
- ・臨地実習指導者研修会の計画立案と実施・運営
- ・学生への臨地実習オリエンテーションの実施

### 3) 臨地実習グループの編成

臨地実習での学修効果を高めるため、学生は原則少人数のグループ編成とする。臨地実習施設の指導者は、少人数担当制とすることで、学生に密着したきめ細かな指導が可能となり、管理栄養士の実践能力を高める実習の水準を保つことができる。ただし、グループ人数と教員の担当は実習施設の受け入れの事情により変動することがある。

### 4) 実習指導体制

実習訪問指導は、履修学生1グループあたり1人の専任教員（以下「訪問指導教員」、科目責任者を含む講師以上の専任教員）が訪問し、実習配置表の計画をもとに実習先に訪問し、実習施設の臨地実習指導者（以下「臨地実習指導者」）と協力して学生の指導体制を構築する。訪問指導では、臨地実習指導者と学生の実習態度、実習の進行状況、今後の実習計画等について協議するとともに、学生との面談を通して実習内容の振り返り、情報の共有と学生の自己課題の明確化、学修の方向付け等について指導する。科目責任者は、学生の実習報告や記録をもとに学生に対して面接指導を行うとともに、実習効果を高めるために訪問指導教員と情報共有を図る。

## オ 実習先との連携体制

科目責任者は、臨地実習の各施設長宛に、臨地実習依頼書を送付し、受け入れ側の実習施設からの回答書で受入期間、受入人数等を確認する。その上で、科目責任者は臨地実習指導者と相互に密接な連携をとり、教育の目的や到達目標の共有、実習方法や実習内容・教育方法・評価基準、訪問指導教員と臨地実習指導者との役割分担等について協議・調整を行う。臨地実習を円滑に行うために、実習施設との連携体制は次のように計画する。

### 1) 臨地実習指導者と科目責任者の連携

臨地実習指導者と実習のねらいや到達目標等を共有するために、科目責任者は実習開始前に臨地実習指導者との会議を行い、実習内容についての確認、実習の効果がより向上させるための実習内容の改善等について協議するとともに、実習開始直前に学生への事前課題や周知事項等の提出について依頼する。さらに、科目責任者は実習中に臨地実習指導者及び訪問指導教員と連携を密にして実習を円滑かつ効果的になるように調整を行う。

### 2) 訪問指導教員の役割

訪問指導教員は、実習開始前に実習のねらいや到達目標等を理解した上で、実習施設を訪問し、臨地実習指導者と実習計画、学生への周知事項等について打ち合わせを行う。また、実習開始前に担当学生に周知事項を伝えるとともに、学生の実習施設への事前訪問の要領等を指導する。実習中には、実習施設を訪問し、実習の状況を把握した上で、臨地実習指導者と連携しながら学生指導を行う。また、遠隔地のため訪問が容易ではない臨地実習施設の場合には、臨地実習指導者及び学生との連携・連絡方法等を、臨地実習指導者との事前協議により決定する。

## カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入）

### 1) 感染予防対策

本学科の学生には、実習先での感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価検査、B型肝炎抗原・抗体検査（医療施設が必要とする場合）、ツベルクリン検査、胸部X線検査を学生に対して実施するよう指導する。もし抗体がない場合は、該当学生にワクチン接種を推奨し、接種後は証明書を提出させる。また、インフルエンザについてもワクチン接種を推奨する。

### 2) 保険等の加入

実習先の要望に応じた内容の検便検査や予防接種等の感染症予防対策や、実習生の身の安全・保全策を講じるために入学時に全入学生対象に「学生教育研究災害傷害保険」に加入し、食栄養学科の学生は、別途「学生教育研究災害賠償責任保険」にも加入する。

### 3) その他

近年、臨地実習施設から、院内感染防止のため、風疹・麻疹・水痘・流行性耳下腺炎等の抗体検査を事前に調べ、抗体がない場合はワクチン接種を行った上で受け入れる施設等

が増加している。そのため、入学が決定した学生については、入学前に感染症抗体検査の調査を行い、新入生ガイダンス時に抗体検査の結果を提出させ、抗体がない学生については、ワクチン接種を促すように、保護者及び本人に説明する。

## キ 実習の事前・事後における指導計画

臨地実習科目において、実施計画内容の設定では実習効果を考慮し、科目責任者を中心に担当教員間で事前に実習内容の確認を行う。学外施設での実習となるため、実習内容が段階的に発展していくよう入念な確認を行い、一定水準の実習成果を上げるために、事前・事後の指導を徹底する。

### 1) 臨地実習事前指導の実施

実習に先立ち、臨地実習事前指導を行う。事前指導は、学生全員に行うものと、臨地実習グループを対象としたものを実施する。全員を対象とする事前指導は、準備期間を考慮して、動機付けをしておく。実習グループ対象のオリエンテーションは、実習先の状況に応じ実施する。

全体の事前指導では、実習の目的・目標、実習科目と実習計画・単位数、実習方法、提出物、単位認定に関わる事項及び注意事項について指導を行う。

注意事項は、倫理的責任として、管理栄養士に求められている内容をもとに、実習に臨む基本的姿勢を認識させる。個人情報については、「個人情報保護法」に則り、個人情報・実習記録物やメモ等の取り扱い、SNS への投稿禁止、言動からの情報漏洩に関する留意事項を示す。さらに、実習先での対象者のプライバシーを尊重し、接遇マナー・言葉使いの注意を喚起する。

実習グループを対象とした事前指導は、各実習の現場の特徴、実習に臨むための学生の実習進行にあわせた学修課題の提示を行う。

### 2) 実習前の指導計画

臨地実習の事前指導として、対象者（実習協力者）に不利益が生じないことや対象者の人権に配慮できるような倫理教育、実習への主体的な取り組みを促すための実習計画・目的・目標の理解、実践力を培うための自らの実習中の課題設定を行う。また、学生には原則として事前に実習施設を訪問させ、臨地実習指導者との面談を通して、実習概要・特徴、実習時の注意事項、実習計画、事前課題を確認させる。

### 3) 実習後の指導計画

臨地実習後は、課題の遂行状況や実習内容等を確認する。また、実習報告会もしくは実習反省会を開催し、実習内容、実習成果等について情報交換、意見交換等を行い、実習成果の共有化を図るとともに、その後の学修につなげる。

## ク 教員の配置並びに巡回指導計画

食栄養学科では、教員を実習施設への訪問指導を行う訪問指導教員として配置する。訪問

指導教員による臨地実習先への訪問指導を円滑かつ効果的に実施するために、科目責任者が計画的に巡回する。また、科目責任者は、臨地実習指導者との情報交換等で実習状況を確認し、学生指導を行っていく。巡回指導以外の実習期間中においても、定期的に実習状況や問題点について、学生と連絡を取り合い、必要に応じて、実習先に赴き、学生への個別指導等を行う。

各実習施設の巡回時に、実習指導者及び責任者との意見・情報交換により実習の状況内容を把握し、学生への指導を行う。また、これらの指導については教員間で情報や課題を共有し、今後の実習計画に反映させる

#### ケ 実習施設における指導者の配置計画

各実習施設先に高い識見と十分な実務経験を持つ臨地実習の指導者が十分に置かれていることを確認し、臨地実習指導者には、学生の指導に足る技術や知識を有する者が就任するように要請する。また、このような指導者が複数存在する場合には、その代表者が統括して総合的な指導を展開できるように要請し、実習の評価も代表者が統括して評価を行うよう要請する。実習施設から大学教員による現場指導の要請がある場合は、科目責任者が実習施設において学生指導を担当する。

#### コ 成績評価体制及び単位認定方法

臨地実習指導者が行った評価を基に、訪問指導教員及び科目責任者が訪問巡回指導時に観察した学生の学修への取り組み（実習態度・マナー、コミュニケーション能力、調理技術等）や、その効果、実習期間中の記録、事前に設定した研究課題のレポート、事前・事後の提出物（実習ノート、作成資料・媒体、実習課題に関するレポート等）で評価する。なお、厳正な評価を得るために、科目責任者は訪問指導教員との連絡を密にしていく。合否は、科目責任者が判定する。

#### サ その他特記事項

危機管理(事故への対応)

臨地実習中の事故は、アクシデント（対象者や本人に障害が起きた事象）とインシデント（対象者や本人等に障害が起こる可能性があったが、偶然または意識的に回避・防止され対象者に障害がおよばなかった事象）の事象別に対応する。

##### 1) 事故防止のための留意事項

臨地実習中は、予測不可能な出来事の遭遇や、予期しない事故が起こることで、学生自身が当事者になる場合がある。学生は自学自習を十分に行った上で、細心の注意を払い実習に臨み、対象者や実習現場あるいは自身の被害を最小限に留めるよう努力する。実習中、事故の発生を未然に防ぐため、学生は以下の点に留意する。

①感染防御を徹底する。

②施設ごとの調理場の状況も異なるので、衛生管理に関する基本的な事柄について、十分理解しておく。さらに、異物の混入を防止する上で必要な事項等も確認する。

③対象者を安全に栄養ケア・マネジメントができるように対象者の栄養状況や食事環境に注意する。

④対象者等に不安や疑問を持った場合は、速やかに本大学の科目責任者あるいは臨地実習指導者に相談し、助言を得る。

⑤睡眠や食生活等を整え、体調を万全にして実習に臨み、個人衛生の管理を怠らない。感染兆候があれば、速やかに相談・受診等対処する。

## 2) 事故が発生した場合の対応

### ①アクシデント発生時

#### a. 主なアクシデントの種類

- ・対象者の身体に関する事故：転倒、転落、損傷等
- ・学生の身体に関する事故：実習時間内の移動時の事故、火傷、刃物による切傷、注射針刺入、血液や体液暴露、切傷、伝染性疾患の感染等
- ・物品の破損・紛失に関する事故：医療物品や備品の破損・紛失、対象者の私物の破損・紛失等

#### b. アクシデント発生時の対応

アクシデント発生の場合、学生は「事故時の対応フローチャート」「感染症発生時の対応フローチャート」に従って、臨地実習指導者、科目責任者の指示のもとに行動・対処する。対応した内容は、今後の事故防止のため「アクシデントレポート」を作成することを義務付ける。

#### c. アクシデント発生後の対応

科目責任者は、事故発生状況の分析を行うとともに、今後の事故防止のため、当該案件の事例や課題等を関係者間で共有する。

### ②インシデント発生時の対応

インシデントに遭遇した学生は、自己による判断で、科目責任者及び臨地実習指導者に報告する。緊急性を要する場合は、口頭で報告し、後日「インシデントレポート」を提出する。

## 3) 臨地実習中の感染症発症時の対応

臨地実習中に気をつけなければならない感染症として、結核、麻疹、水痘症、流行性耳下腺炎、風疹、B型肝炎、インフルエンザ等がある。

①学生は、日頃より自己の衛生管理に細心の注意を払い、感染防止に必要な知識・技術・態度を身に付ける。

②麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、風疹等の抗体価が低い場合は、医療機関に相談の上、実習までにワクチン等の接種を勧奨する。

③インフルエンザについてもワクチンの接種を勧奨する。

- ④感染症が疑わしい場合、訪問指導教員は科目責任者に報告し、対処方法を協議する。
- ⑤感染症が診断された場合、「感染症発生時の対応フローチャート」に従って対応する。学生は医師の指示に従い指定された欠席期間を遵守し、実習再開についても医師の指示を遵守する。

#### 4) 交通機関の運休、暴風警報発令中の取り扱い

交通機関が運行停止となった場合及び台風接近等により暴風警報が発令された場合は、学生便覧に記載の「台風等の場合の授業措置」に従って対処する。

#### 5) 困ったことが起きた時や悩んだ時の対応

実習中に困ったことが起きた時、悩んだ時は、訪問指導教員に報告し、相談内容によっては科目責任者に相談する。また、大学には学生相談窓口があり、専門の医師やカウンセラー、窓口の職員が対応して相談に応じる体制を整備する。

### (3) 社会福祉士（ソーシャルワーク実習1、ソーシャルワーク実習2）

本学部の人間福祉学科では、社会福祉士の養成を行うため、学外での「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」を実施する。これらの実習の具体的計画について、以下のように説明する。

#### ア 実習の目的

##### 1) 実習の基本方針

人間福祉学科で開講する「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」は、社会福祉士受験資格取得のために必須の実習科目である。「『大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について』の一部改正について（令和2年3月6日元文科高第1122号・社援発0306第23号）」の通知に基づき、実施する。

社会福祉士受験資格を取得するためには、高齢者施設や児童養護施設などの社会福祉施設や、福祉事務所や児童相談所などの社会福祉機関等で、ソーシャルワーク業務の一連の過程を網羅的かつ集中的に学修するよう、1つの実習施設において180時間以上行うことを基本とされている。

また、機能の異なる2か所以上の実習施設等で実施し、合計240時間以上の実習が求められている。人間福祉学科では、これに従い、「ソーシャルワーク実習1」で180時間以上、「ソーシャルワーク実習2」で60時間以上の実習を行う。「ソーシャルワーク実習1」は4単位、「ソーシャルワーク実習2」は1単位とする。「ソーシャルワーク実習1」は3年次の前期集中科目として7月から9月、「ソーシャルワーク実習2」は3年次の後期集中科目として10月から2月にかけて実施する。

##### 2) 実習の目的

社会福祉施設及び社会福祉機関におけるソーシャルワーク実践の実際を学ぶとともに、

「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」をとおして、ソーシャルワークの知識と技術及び価値について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。さらに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。そして、現代の生活課題を多面的にとらえ、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力および品性を兼ね備えた人材を養成する。

なお、本実習は生活科学部人間福祉学科社会福祉士養成課程登録学生20名を上限として実施する。

## イ 実習先の確保の状況

人間福祉学科のソーシャルワーク実習1及びソーシャルワーク実習2の実習先として、大阪府下の社会福祉施設及び社会福祉機関から承諾を得ており、社会福祉士養成課程定員の受け入れ先が十分確保できている状況である。

別添資料 4-1 実習施設一覧

別添資料 4-2 実習施設受け入れ承諾書

## ウ 実習先との契約内容

実習先との間では、下記の内容のものに関しての確認を行う。なお、実習先側で所定の契約書や実習要綱が存在する場合には、内容を双方で検討の上、原則として実習施設の定めたものに従う。なお、個人情報の保護に関しては、実習先に対して誓約書を提出する。

実習の内容、実習期間、実習委託料、健康診断書の提供（検便結果、指定される抗体検査結果も含む）、実習生の遵守義務、施設側の服務規程の遵守、実習中の事故及び疫病、個人情報保護、損害保険の加入、契約解除その他の条項

## エ 実習水準の確保の方策

### 1) 実習先との協議

「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」を実施するにあたっては、実習内容、実習指導体制及び実習中のリスク管理等について実習先との間で十分に協議し、確認を行う。

### 2) 事前学修・事後学修

事前学修として、2年次の後期に「ソーシャルワーク実習指導1」を、3年次の前期に「ソーシャルワーク実習指導2」を開講する。ここでは、ソーシャルワーク実習の意義や実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解、

実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解、実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う。実習後の学修では3年次の後期に「ソーシャルワーク実習指導3」を開講し、実習で得た具体的な体験や援助活動を、個別指導及び集団指導をとおして、実習を繰り返す。実習後の実習計画の評価を行い、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得する。そして、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。

### 3) 実習の具体的内容

「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」の実習内容としては、①社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援の実際を理解すること、②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握すること、③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行うこと、④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割についての実践的理解をすること、⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

### 3) 成績評価

実習先の実習指導者による実習評価（実習態度、コミュニケーション能力、ソーシャルワークに関する知識・技術等）、実習巡回担当教員及びソーシャルワーク実習1及びソーシャルワーク実習2担当教員による学生の事前学修（実習計画、課題レポート、実習先に関する事前理解）や、実習の取り組み（実習期間中の記録）、事後学修の取り組み（実習報告会等）をもとに評価する。なお、厳正な評価をするために、ソーシャルワーク実習1及びソーシャルワーク実習2担当教員による合議体にて達成度を総合的に評価し、成績判定を行う。

## オ 実習先との連携体制

実習先の各施設・機関の長あてに、実習・見学依頼書を送付し、受け入れ側の実習施設からの回答書で受入期間、受入人数等を確認する。その上で、巡回担当教員を中心に実習先の実習指導者と相互に密接な連携をとり、教育の目的や到達目標の共有、実習方法や実習内容・教育方法・評価基準等を共有する。また緊急対応の際の連絡先なども実習先に周知し、迅速に対応できる体制をつくる。

## カ 実習前の準備状況（完全予防対策・保険等の加入状況）

### 1) 感染予防対策

本学科の学生には、実習先での感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体検査、B型肝炎抗原・抗体検査（医療施設が必要とする場合）、胸部X線検査、検便による微生物検査を学生に対して実施するよう指導する。もし抗体がない場合は、該当学生にワクチン接種を推奨し、接種後は証明書を提出させる。また、インフルエンザについてもワクチン接種を推奨する。

## 2) 保険の加入

実習先及び実習生の身の安全・保全策を講じるために、入学時に人間福祉学科の全学生は「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究災害賠償責任保険」に加入する。

## 3) 実習の手引きの熟読及び個人情報保護の指導

実習を効果的及び安全に実施するために、実習の手引きを学生に配布するとともに、実習直前のソーシャルワーク実習指導2のなかで、全体で実習に臨む姿勢の指導や実習中のトラブルなどへの対応方法について共有する。また、実習中に知り得た情報に関する守秘義務に関して、事前学修の「ソーシャルワーク実習指導1」「ソーシャルワーク実習指導2」の授業のなかで学生に対して指導を行う。そして、実習先に対して個人情報保護に関する誓約書を提出する。

## キ 事前・事後における指導計画

### 1) 事前における指導計画

「エ 実習水準の確保の方策」でも示したように、事前学修として、2年次の後期に「ソーシャルワーク実習指導1」を、3年次の前期に「ソーシャルワーク実習指導2」を開講する。ソーシャルワーク実習の意義や実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解、実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解、SNSへの投稿禁止、実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う。

### 2) 事後における指導計画

事後における指導計画では、3年次の後期に「ソーシャルワーク実習指導3」を開講し、実習で得た具体的な体験や援助活動を、個別指導及び集団指導をとおして、実習をふり返る。実習後の実習計画の評価を行い、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得する。そして、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。

## ク 教員及び助手の配置及び巡回指導計画

### 1) 実習教員の配置

「ソーシャルワーク実習1」及び「ソーシャルワーク実習2」の実習を担当する教員は、専任教員6名、特任教員1名の計7名である。実習へ行く学生は、1学年20名を想定している。実習を担当する教員は、実習先へ巡回指導を行うが、単純に計算して、一人あたりの教員の学生担当数は3名程度となる。

### 2) 巡回指導計画

『大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について』の一部改正について（令和2年3月6日文科高第1122号・社援発0306第23号）の通知では、実習先は、巡回指導が可能な範囲で選定するとともに、ソーシャルワーク実習を担当する教員は、少なくとも週1回以上の定期的巡回指導を行うことが求められている。ただし、これにより難しい場合は、実習期間中に少なくとも1回以上の巡回指導を行う場合に限り、実習施設との十分な連携の下、定期的巡回指導に代えて、学生が大学等において学修する日を設定し、指導を行うことも差し支えない。

この通知に従い、人間福祉学科では、180時間以上の実習を行う「ソーシャルワーク実習1」では、実習先での巡回指導を実習期間内に1回ないしは2回、学内での実習指導を実習期間内に2回ないし3回を行うとする。60時間以上の実習を行う「ソーシャルワーク実習2」では、実習先での巡回指導を実習期間内に1回ないしは2回、学内での実習指導を実習期間内に1回ないしは2回行うこととする。

## ケ 実習施設における指導者の配置計画

『大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について』の一部改正について（令和2年3月6日文科高第1122号・社援発0306第23号）の通知では、実習先の実習指導者は、社会福祉士の資格を取得した後、相談援助の業務に3年以上従事した経験を有する者であって、科目省令第4条第7号に規定する講習会（以下「社会福祉士実習指導者講習会」という。）の課程を修了したものであるとされている。

人間福祉学科では、「イ 実習先の確保」の状況で示した各実習先に対して、上記の通知を満たした社会福祉士に実習指導者として実習の指導にあたってもらうように依頼する。そして、各実習先の実習指導者に対して、お願いしたい実習内容や指導内容、実習の達成目標等について、実習前の事前訪問で実習巡回を担当する教員から説明するとともに、実習中の巡回指導のなかでも共有することとする。

また、上記通知では、実習指導者1名につき、5名の実習生を受け入れることができるとされている。人間福祉学科では、各実習先へ依頼する学生の人数は2名程度を予定しており、この通知に則って実習できる体制を整えている。

## コ 成績評価体制及び単位認定方法

「エ 実習水準の確保の方法」の「3）成績評価」でも示したとおり、実習先の実習指導者による実習評価（実習態度、コミュニケーション能力、ソーシャルワークに関する知識・技術等）、実習巡回担当教員及びソーシャルワーク実習1及びソーシャルワーク実習2担当教員による学生の事前学修（実習計画、課題レポート、実習先に関する事前理解）や、実習の取り組み（実習期間中の記録）、事後学修の取り組み（実習報告会等）をもとに評価する。なお、厳正な評価をするために、ソーシャルワーク実習1及びソーシャルワーク実習2担当教員による合議体にて達成度を総合的に評価し、成績判定を行う。

## サ その他特記事項

### 1) 交通機関の運休、暴風警報発令中の取り扱い

交通機関が運行停止となった場合及び台風接近等により暴風警報が発令された場合は、実習先からの指示に従うとともに、学生便覧に記載の「台風等の場合の授業措置」に従って対処する。

### 2) 困ったことが起きた時や悩んだ時の対応

実習中に困ったことが起きた時、悩んだ時は、訪問指導教員に報告し、相談内容によっては科目担当の教員全員で対応する。また、大学には学生相談窓口があり、専門の医師やカウンセラー、窓口の職員が対応して相談に応じる体制を整備する。

### 3) 実習中の事故への対応

実習中に事故が起きた場合に備え、実習先には緊急連絡先としてソーシャルワーク実習窓口教員2名、学部事務の連絡先を伝える。

実習中に事故が起きた場合には、早急に巡回指導担当教員を中心に、至急状況を確認するとともに、実習先へ訪問するなどして適切に対応する。また学生が加入する「学生教育研究災害傷害保険」及び「学生教育研究災害賠償責任保険」なども利用して対応する。

また、学生に対して事故防止のために、ソーシャルワーク実習指導1及びソーシャルワーク実習指導2の事前学修の段階で、また実習中の巡回指導のなかでも、留意点等を伝え、指導を徹底する。

## (4) 公認心理師

本学部の人間福祉学科では、公認心理師の養成を行うため、学外での「心理実習」を実施する。これらの実習の具体的計画について、以下のように説明する。

## ア 実習の目的

人間福祉学科では、多様かつ深刻な個人および地域・社会の課題に対応できる課題解決能

力、実践力を身につけ、人・社会の幸福の向上に貢献することを目指す。すなわち、人間・心理・社会にかかわる学際的かつ包括的な専門知識を教育するとともに、社会福祉士や公認心理師の国家試験受験資格取得に必要な実践的カリキュラムも提供し、人間のライフステージごとの特徴や生活課題に精通した学士を輩出する。具体的には、生涯にわたる人間の心身の発達と心理・社会的援助について理解し、心理・社会的課題を解決するために必要な技能の基礎を身につける。「心理実習」においては、心理専門職として、自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢を培い、他者と協働して心理に関する支援を要する者（要支援者）等に対する支援の方法と実際を理解する。

本実習においては、1. 要支援者へのチームアプローチ 2. 多職種連携及び地域連携 3. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、見学等による実習を行いながら、臨床現場における心理面接や心理検査の実施場面を通じて、心理状態の観察及び分析並びに心理援助行為の基本となる実践姿勢と技能を修得する。なお、本実習は生活科学部人間福祉学科公認心理師養成講座登録生 10 名と文学部人間行動学科心理学コース公認心理師養成課程登録学生 10 名の合計 20 名で実施する。

#### イ 実習先の確保の状況

人間福祉学科の心理実習の実習先として、病院施設等から承諾を得ており、公認心理師養成課程定員を十分確保できている状況である。実習先は、大阪府下および大阪府に隣接する兵庫県の施設であり、学生等の移動については配慮されている。

別添資料 4-1 実習施設一覧

別添資料 4-2 実習施設受け入れ承諾書

#### ウ 実習先との契約内容：個人情報保護や事故防止に関する取決め

実習依頼時に、実習施設の就業規則等の遵守と個人情報の保護に関する誓約書を提出し、守秘義務契約を行うほか、実習期間中の事故については、これまでの事例を踏まえた安全教育指導を事前に行う。実習生は学生教育研究災害傷害保険及び付帯の賠償責任保険に加入し、実習先での不測の事故に備える。

#### エ 実習水準の確保の方策

以下の A～C についての知識と技能の修得を目指して以下の実習プログラムを事前・事後指導を含めて合計 90 時間提供する。これらの実習プログラムについては、実習指導者と実習担当教員が事前に十分協議するものとする。

##### A) 多職種連携および地域連携について見学実習と陪席実習から学ぶ

大学附属病院の院内見学を通じ、大学附属病院における多職種連携と地域連携の実際を

学ぶ。また、心理支援専門職が常勤職として勤務する総合病院・単科病院の多職種連携と地域連携について、院内見学および医師・看護師・心理師・ソーシャルワーカーそれぞれの陪席実習より学ぶ。

B) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について見学実習および陪席実習から学ぶ

大学附属病院の院内見学を通じ、大学附属病院における職業倫理および法的義務の実際を学ぶ。

C) 要支援者へのチームアプローチについて実践現場から学ぶ

教育現場における教育相談実践と不登校通所事業実践、および福祉現場における児童発達支援事業実践と、心理検査陪席により、教育領域、福祉領域における心理支援の実際と要支援者へのチームアプローチの実際を学ぶ。

成績評価については実習期間中の実習に対する姿勢、実習目標の理解度について、上記基本目標の修得状況について実習依頼機関の実習指導者と協議のうえ、評価する。

## オ 実習先との連携体制

大学における実習担当教員と実習先実習指導者との事前協議の時間を設け、実習目的、実習目標について確認を行う。実習実施時の実習担当者の実習指導者の連絡体制のほか、天候や地震などによる緊急災害時の緊急連絡方法、当日の実習実施確認方法や、実習生への連絡方法、事故発生時の手続きなどについて事前に協議する。

## カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

大学が毎年実施する学生の健康診断を必ず受診するよう周知徹底する。事前指導の際、実習実施日の朝の検温と体調チェックについて指導し、検温において37度以上の発熱を認める場合は実習に参加しない等、指導を徹底する。体調不良による実習の早退、欠席については必ず大学実習担当教員に連絡し、実習の継続について協議するよう徹底する。また、実習期間中の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険及び付帯の賠償責任保険に加入する。

個人情報の保護については、誓約書作成のための指導を行い、実習中に知り得た情報に関する守秘義務や実習中の実習に関するSNSへの投稿の禁止など、周知徹底する。

## キ 事前・事後における指導計画

「心理実習」に関する事前指導は、上記個人情報保護に関する事項や保険加入手続きの確認のほか、実習施設の特性の理解、多職種連携にかかわる職種の理解、実習施設と地域連携の概要、実習を行うにあたっての留意点（時間厳守・実習記録の作成および取り扱いの注意

点・実習記録の提出の仕方) などについて行う。事後指導は、実習記録の確認と個別面談による実習目標の達成の確認を行う。見学実習については事前指導 3 時間、事後指導 3 時間 合計 6 時間、陪席実習・実践実習については、事前指導 6 時間 事後指導 6 時間 合計 12 時間行う。

#### ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

「心理実習」担当教員は 専任教員 4 名のほか、実習担当教員 2 名 合計 6 名で対応する。実習依頼機関 5 か所につき、主担当教員 1 名と講義担当のない巡回担当教員 1 名を配置し、実習先機関と連携調整をはかる。実習先はいずれ近隣であり、交通手段は電車を用い、遠方の場合でも片道 1 時間程度である。巡回の頻度は 1 週間に 1 度程度の巡回とする。

#### ケ 実習施設における指導者の配置計画

いずれの実習先機関においても、心理専門職として常勤職にある心理師もしくは、心理専門職と連携する精神科・小児科医師や生徒指導を専門とする教員、ソーシャルワーカーが実習指導者として十分に配置されている。各実習先の実習指導者に対して、お願いしたい実習内容や指導内容、実習の達成目標等について、実習前の事前訪問で実習巡回を担当する教員から説明するとともに、実習中の巡回指導のなかでも共有することとする。学部実習においては上限 20 名の学生が実習生となるが、実習先への配置は、見学実習においても 10 名を上限とし、陪席実習、実践実習の場合は、5 名以下の配置とする。この配置によりいずれの実習機関においても 見学実習において実習指導者 1 名について上限 10 名、陪席実習、実践実習において、実習指導者 1 名について 5 名以下となる。

#### コ 成績評価体制及び単位認定方法

学生の知識・技能の修得状況の評価方法については、1) 実習の事後指導において個別面談を行い、口頭による実習目標の達成状況を確認し、評価する。また、2) 実習記録の提出により、日々の実習態度の評価を行う。3) 実習終了後に実習終了レポートを課し、実習指導者の評価などを踏まえた上で、専任教員が実習目標の達成状況について最終評価を行う。評価基準については、要支援者の心理状態の観察及び分析並びに心理援助行為の基本となる実践姿勢と技能の基礎的修得を単位修得に必須な基準とみなす。

#### サ その他特記事項

該当なし

## 11 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

該当なし

## 12 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

## 13 編入学定員を設定する場合の具体的計画

該当なし

## 14 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

大阪公立大学では、2025年度（令和7年度）に森之宮キャンパスを開設し、全学共通教育としての基幹教育を実施する。

生活科学部食栄養学科は、基幹教育、専門教育ともに森之宮キャンパスで実施する。

生活科学部居住環境学科、人間福祉学科においては、1年次に基幹教育を実施し、収容定員はそれぞれ43名、45名である。また、2～4年次の専門教育を杉本キャンパスで実施し、収容定員は129名、135名である。いずれの教育も十分な収容定員を確保する。

森之宮キャンパスにおいては、国際基幹教育機構所属の教員83人を配置し基幹教育を実施する。また、居住環境学科、人間福祉学科の専任教員も森之宮キャンパスで1年次配当の専門科目を実施する。杉本キャンパスには居住環境学科16人、人間福祉学科15人の専任教員を配置し専門教育を実施する。

教員のキャンパス間の移動については、教育を実施するそれぞれのキャンパスでの担当授業が同一日にならないよう時間割を調整する。また、森之宮キャンパスには、他キャンパスを拠点とする教員向けの執務スペースを設ける。

学生に対しては、森之宮キャンパス・杉本キャンパス共に図書館、自習スペース等を整備し、学生の授業時間外学修を各キャンパスで適切に行えるようにする。さらに、保健管理施設、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を各キャンパスで整備するほか、大学ポータルサイトを開設する。

時間割について、生活科学部居住環境学科の1年次は、月曜日から木曜日の授業科目を森之宮キャンパスで履修し、金曜日の授業科目を杉本キャンパスで履修する。森之宮キャンパスにおける時間割は、CAP制に配慮し編成することで、学生が無理なく授業科目を履修できるようにする。また、金曜日は、杉本キャンパスで専門科目を配置することによって、学生は無理なく授業科目を履修することが可能である。

2年次以降は全ての授業を杉本キャンパスで開講することから、学生は無理なく授業科目

を履修することが可能である。

キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。

添付資料 5 生活科学部キャンパスの遷移

## 15 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画

該当なし

## 16 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第 25 条第 2 項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

## 17 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

## 18 管理運営

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

## 19 自己点検・評価

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

## 20 情報の公表

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

## 21 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

学部においては、生活科学研究科（学部）内に「内部質保証委員会」を置き、教育の質について評価を行う。また、全学のFD担当委員が、研究科において教育等の改善のための組織的な研修等を行う。研修は、定期的に全員参加で実施される。このほか、学部教務委員会、大学院教務委員会において定期的にFD関係の検討を行う。

## 22 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### ア 教育課程内の取組について

食栄養学科、居住環境学科、人間福祉学科とも専門職の国家資格につながるカリキュラムを展開することから、教育課程内において社会的・職業的自立に関する内容の講義が行われている。また、実習は、実際の社会・職場の中で教育を受ける機会を提供するものであり、実習指導者と連携のもと自立に関する指導を行っている。

食栄養学科では、将来のキャリア、具体的には、官公庁における公衆衛生・公衆栄養施策の立案実践の場から学校や病院での個人・集団に対する栄養教育、企業における新たな食品素材や商品開発、食の安全確保、さらには食・栄養科学研究を含む生命科学研究まで幅広いニーズに対応できる基礎的能力を培うことを目的にしている。学生には、管理栄養士養成課程に課せられた必修科目を履修させるとともに、自らの学修意欲と興味や関心、キャリアデザインに応じて、食品栄養学分野および実践栄養学分野における技術者・研究者・実践者を養成するモデルコースを設置し、専門基礎分野、専門分野において、食栄養学分野の専門性を、さらに履修モデルコースにより先進性の一層高い授業、実習を提供するなど、キャリア形成と正課教育との連動性を確保している。また、3年次前期選択科目に「キャリア形成論」を設置し、それぞれの分野のエキスパートを非常勤講師として招聘し、それぞれのキャリアパスを意識付けし、プロフェッションの修得意識を高めることを企図している。

居住環境学科では、卒業後に居住環境学分野の研究者、官公庁の建築関係専門職員、住宅や建設関連分野の企業などに就職することを想定した教育や指導を行っている。当学科が提供する科目を取得して卒業することにより、国家資格である一級建築士の受験資格が得られる。設計製図科目では、建築士試験の製図試験に対応可能な知識、技能を養成している。正課教育や卒業研究の指導を通して、社会的・職業的自立に必要な、自ら居住環境に関する問題を見出し解決する能力を養成している。

人間福祉学科では、将来のキャリアとして心理および福祉専門職、地方自治体の行政職、福祉などの生活関連企業を想定している。人間福祉学科の正課教育のカリキュラム自体が、公認心理師、社会福祉士などの国家資格取得に対応しており、専門職としてのキャリア形成

と不可分の関係である。人間福祉学科としては、専門職資格養成のみを目的としておらず、心理および福祉に加えて、家族、社会、経済、保健医療といった生活基盤に関連した科目を配置し、地域の福祉計画やまちづくりを担う地方自治体でのキャリア形成、あるいは、超高齢社会における生活ニーズを充足するための商品開発や各種サービスを担う民間企業でのキャリア形成につながるよう工夫している。また、キャリア形成に関する指導体制としては、専門職資格養成のための実習教育が直接的なキャリア形成に向けた指導の場になっている。

#### **イ 教育課程外の取組について**

・大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

#### **ウ 適切な体制の整備について**

学生のキャリア形成のために、就職担当教員を配置する。また全学的な組織として就職担当課と協力し、学生の職業的自立を支援する。

## 生活科学部

### 設置の趣旨等を記載した書類 添付資料 (目次)

資料 1	定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて	P. 2
資料 2-1	履修モデル 1 (食栄養学科・食品栄養学コース・(技術者・研究者) モデル)	P. 3
資料 2-2	履修モデル 2 (食栄養学科・実践栄養学コース・(研究者・実践者) モデル)	P. 4
資料 2-3	履修モデル 3 (食栄養学科・栄養士資格取得モデル)	P. 5
資料 2-4	履修モデル 4 (食栄養学科・管理栄養士受験資格取得モデル)	P. 6
資料 2-5	履修モデル 5 (食栄養学科・栄養教諭取得モデル)	P. 7
資料 2-6	履修モデル 6 (食栄養学科・家庭科中・高教員取得モデル)	P. 8
資料 2-7	履修モデル 7 (居住環境学科・建築士受験資格取得モデル)	P. 9
資料 2-8	履修モデル 8 (居住環境学科・標準モデル)	P. 10
資料 2-9	履修モデル 9 (人間福祉学科・心理系・公認心理師取得モデル)	P. 11
資料 2-10	履修モデル 10 (人間福祉学科・社会福祉士取得モデル)	P. 12
資料 2-11	履修モデル 11 (人間福祉学科・家族・社会・生活系モデル)	P. 13
資料 3	教育課程・専任教員の配置状況と指定規則の対比表	P. 14
資料 4-1	実習施設一覧	P. 15
資料 4-2	実習施設受入承諾書	P. 33
資料 5	生活科学部キャンパスの遷移	P. 116
資料 6	カリキュラム・マップ	P. 117

定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として  
雇用する場合の取り扱いについて

令和2年8月26日 理事長決裁

(趣旨)

- 1 この要項は、特例として、新大学の完成年度までに定年退職する教員を雇用する場合の取り扱いについて定める。

(適用対象)

- 2 この要項の適用対象者（以下「本要項適用者」という。）は、新大学の完成年度までに定年退職する教員で、担当する授業科目の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難である等理事長が特に必要と認める者とする。

(定年退職後雇用する場合の身分等)

- 3 本要項適用者を雇用する場合の身分は特任教員とし、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科において教育研究を行う。

(任期)

- 4 本要項適用者の任期は、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科の完成年度までとする。

(その他)

- 5 本要項適用者の任期以外の事項については、本要項の適用を受けない特任教員と同様とする。

附 則

この要項は、令和2年8月26日から施行する。

## 履修モデル1（食栄養学科・食品栄養学コース・（技術者・研究者）モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	総合教育科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目(英語) 外国語科目(初修外国語)) 健康・スポーツ科目	10 2 2 4 2 3	外国語科目(英語)	2					
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25
基幹教育科目	基礎数学A 基礎無機・分析化学A 基礎物理化学B 基礎有機化学A 基礎化学実験	2 2 2 2 2							
	小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10
専門科目 導入	食栄養学概論	2							
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2
専門基礎分野	基礎細胞生物学 生化学1 解剖生理学 食品有機化学	2 2 2 2	社会・環境と健康1 生化学2 微生物学 感染防御学 臨床病態学 栄養薬理学 生化学実験 分子生物学実験 解剖生理学実習 栄養生理学実習 食品学 食品加工学 調理と食事設計 食品衛生学 食品分析学 基礎調理学実習 食事設計実習 食品学実験	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1	社会・環境と健康2 社会・環境と健康3 社会健康科学実習 分子栄養学 食品機能開発論 食品衛生学実験 食品加工学実験	2 2 1 2 1 1 1			
	小計(4科目)	8	小計(18科目)	27	小計(7科目)	10	小計(0科目)	0	45
専門科目 分野	基礎栄養学 応用栄養学1	2 2	基礎栄養学実験 応用栄養学2 応用栄養学3 栄養教育論1 臨床栄養学1 臨床栄養学2 給食経営管理論1	1 2 2 2 2 2 2	応用栄養学実習 スポーツ栄養学 栄養教育論2 栄養教育論3 栄養カウンセリング論 栄養教育論実習 臨床栄養学3 臨床栄養学4 臨床栄養学実習1 臨床栄養学実習2 公衆栄養学1 公衆栄養学2 公衆栄養学実習 給食経営管理論実習1 給食経営管理論実習2 キャリア形成論	1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1	総合演習 栄養学研究基礎演習 卒業論文	2 2 8	
	小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(16科目)	22	小計(3科目)	12	51
専門科目 分野									
	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	0
	小計(7科目)	14	小計(34科目)	40	小計(8科目)	32	小計(3科目)	12	98
合計	18科目	47	35科目	42	8科目	32	3科目	12	133

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル2（食栄養学科・実践栄養学コース・（研究者・実践者）モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基幹教育科目	総合教育科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目(英語) 外国語科目(初修外国語)) 健康・スポーツ科目	10 2 2 4 2 3	外国語科目(英語)	2					
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25
基幹教育科目	基礎数学A 基礎無機・分析化学A 基礎物理化学B 基礎有機化学A 基礎化学実験	2 2 2 2 2							
	小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10
専門科目	食栄養学概論	2							
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2
専門基礎分野	基礎細胞生物学 生化学1 解剖生理学 食品有機化学	2 2 2 2	社会・環境と健康1 生化学2 微生物学 感染防御学 臨床病態学 栄養薬理学 生化学実験 分子生物学実験 解剖生理学実習 栄養生理学実習 食品学 食品加工学 調理と食事設計 食品衛生学 基礎調理学実習 食事設計実習 食品学実験	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1	社会・環境と健康2 社会・環境と健康3 社会健康科学実習 分子栄養学 食品衛生学実験 食品加工学実験	2 2 1 2 1 1			
	小計(4科目)	8	小計(17科目)	26	小計(6科目)	9	小計(0科目)	0	43
専門科目	基礎栄養学 応用栄養学1	2 2	基礎栄養学実験 応用栄養学2 応用栄養学3 栄養教育論1 臨床栄養学1 臨床栄養学2 給食経営管理論1	1 2 2 2 2 2 2	応用栄養学実習 栄養教育論2 栄養教育論3 栄養カウンセリング論 栄養教育論実習 臨床栄養学3 臨床栄養学4 臨床栄養学実習1 臨床栄養学実習2 公衆栄養学1 公衆栄養学2 栄養疫学 公衆栄養学実習 給食経営管理論実習1 給食経営管理論実習2 フードサービスマネジメント論 キャリア形成論	1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1	栄養サポートチーム実習 総合演習 栄養学研究基礎演習 卒業論文	1 2 2 8	
	小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(17科目)	23	小計(4科目)	13	53
	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	0
	小計(7科目)	14	小計(32科目)	39	小計(7科目)	32	小計(4科目)	13	98
合計	18科目	47	33科目	41	7科目	32	4科目	13	133

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル3 (食栄養学科・栄養士資格取得モデル)

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2						
	初年次教育科目	2								
	情報リテラシー科目	2								
	外国語科目(英語)	4								
	外国語科目(初修外国語)	2								
	健康・スポーツ科目	3								
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25	
	基礎数学A	2								
	基礎無機・分析化学A	2								
	基礎物理化学B	2								
基礎有機化学A	2									
基礎化学実験	2									
小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10		
専門導入	食栄養学概論	2								
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2	
専門基礎分野	基礎細胞生物学	2	社会・環境と健康1	2	社会・環境と健康2	2				
	生化学1	2	生化学2	2	社会・環境と健康3	2				
	解剖生理学	2	微生物学	2	社会健康科学実習	1				
	食品有機化学	2	感染防御学	2	分子栄養学	2				
			臨床病態学	2	食品衛生学実験	1				
			栄養薬理学	1	食品加工学実験	1				
			生化学実験	1						
			分子生物学実験	1						
			解剖生理学実習	1						
			栄養生理学実習	1						
			食品学	2						
			食品加工学	2						
			調理と食事設計	2						
			食品衛生学	2						
			基礎調理学実習	1						
			食事設計実習	1						
			食品学実験	1						
小計(4科目)	8	小計(17科目)	26	小計(6科目)	9	小計(0科目)	0	43		
専門科目	基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1	応用栄養学実習	1	栄養サポートチーム実習	1		
	応用栄養学1	2	応用栄養学2	2	栄養教育論2	2	総合演習	2		
			応用栄養学3	2	栄養教育論3	2	栄養学研究基礎演習	2		
			栄養教育論1	2	栄養カウンセリング論	1	卒業論文	8		
			臨床栄養学1	2	栄養教育論実習	1				
			臨床栄養学2	2	臨床栄養学3	2				
			給食経営管理論1	2	臨床栄養学4	2				
					臨床栄養学実習1	1				
					臨床栄養学実習2	1				
					公衆栄養学1	2				
					公衆栄養学2	2				
					栄養疫学	1				
					公衆栄養学実習	1				
					給食経営管理論実習1	1				
					給食経営管理論実習2	1				
					フードサービスマネジメント論	1				
					キャリア形成論	1				
	小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(17科目)	23	小計(4科目)	13	53	
	自由選択					給食経営管理論2	2	給食経営管理臨地実習	1	
		小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(1科目)	1	3
	小計(7科目)	14	小計(32科目)	39	小計(8科目)	34	小計(5科目)	14	101	
合計	18科目	47	33科目	41	8科目	34	5科目	14	136	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル4 (食栄養学科・管理栄養士受験資格取得モデル)

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修外国語)	2							
	健康・スポーツ科目	3							
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25
	基礎数学A	2							
	基礎無機・分析化学A	2							
	基礎物理化学B	2							
基礎有機化学A	2								
基礎化学実験	2								
小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10	
専門導入	食栄養学概論	2							
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2
専門基礎分野	基礎細胞生物学	2	社会・環境と健康1	2	社会・環境と健康2	2			
	生化学1	2	生化学2	2	社会・環境と健康3	2			
	解剖生理学	2	微生物学	2	社会健康科学実習	1			
	食品有機化学	2	感染防御学	2	分子栄養学	2			
			臨床病態学	2	食品衛生学実験	1			
			栄養薬理学	1	食品加工学実験	1			
			生化学実験	1					
			分子生物学実験	1					
			解剖生理学実習	1					
			栄養生理学実習	1					
			食品学	2					
			食品加工学	2					
			調理と食事設計	2					
			食品衛生学	2					
			基礎調理学実習	1					
			食事設計実習	1					
			食品学実験	1					
小計(4科目)	8	小計(17科目)	26	小計(6科目)	9	小計(0科目)	0	43	
専門科目	基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1	応用栄養学実習	1	栄養サポートチーム実習	1	
	応用栄養学1	2	応用栄養学2	2	栄養教育論2	2	総合演習	2	
			応用栄養学3	2	栄養教育論3	2	栄養学研究基礎演習	2	
			栄養教育論1	2	栄養カウンセリング論	1	卒業論文	8	
			臨床栄養学1	2	栄養教育論実習	1			
			臨床栄養学2	2	臨床栄養学3	2			
			給食経営管理論1	2	臨床栄養学4	2			
					臨床栄養学実習1	1			
					臨床栄養学実習2	1			
					公衆栄養学1	2			
					公衆栄養学2	2			
					栄養疫学	1			
					公衆栄養学実習	1			
					給食経営管理論実習1	1			
					給食経営管理論実習2	1			
					フードサービスマネジメント論	1			
					キャリア形成論	1			
	小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(17科目)	23	小計(4科目)	13	53
	自由選択					給食経営管理論2	2	給食経営管理臨地実習	1
							公衆栄養学臨地実習	1	
							臨床栄養学臨地実習	2	
小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(3科目)	4	6	
小計(7科目)	14	小計(32科目)	39	小計(8科目)	34	小計(7科目)	17	104	
合計	18科目	47	33科目	41	8科目	34	7科目	17	139

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル5（食栄養学科・栄養教諭取得モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎 教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修外国語)	2							
	健康・スポーツ科目	3							
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25
	基礎数学A	2							
	基礎無機・分析化学A	2							
	基礎物理化学B	2							
基礎有機化学A	2								
基礎化学実験	2								
小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10	
専 門 導 入	食栄養学概論	2							
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2
	基礎細胞生物学	2	社会・環境と健康1	2	社会・環境と健康2	2			
	生化学1	2	生化学2	2	社会・環境と健康3	2			
	解剖生理学	2	微生物学	2	社会健康科学実習	1			
	食品有機化学	2	感染防御学	2	分子栄養学	2			
			臨床病態学	2	食品衛生学実験	1			
			栄養薬理学	1	食品加工学実験	1			
			生化学実験	1					
			分子生物学実験	1					
		解剖生理学実習	1						
		栄養生理学実習	1						
		食品学	2						
		食品加工学	2						
		調理と食事設計	2						
		食品衛生学	2						
		基礎調理学実習	1						
		食事設計実習	1						
		食品学実験	1						
小計(4科目)	8	小計(17科目)	26	小計(6科目)	9	小計(0科目)	0	43	
専 門 科 目	基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1	応用栄養学実習	1	栄養サポートチーム実習	1	
	応用栄養学1	2	応用栄養学2	2	栄養教育論2	2	総合演習	2	
			応用栄養学3	2	栄養教育論3	2	栄養学研究基礎演習	2	
			栄養教育論1	2	栄養カウンセリング論	1	卒業論文	8	
			臨床栄養学1	2	栄養教育論実習	1			
			臨床栄養学2	2	臨床栄養学3	2			
			給食経営管理論1	2	臨床栄養学4	2			
					臨床栄養学実習1	1			
					臨床栄養学実習2	1			
					公衆栄養学1	2			
				公衆栄養学2	2				
				栄養疫学	1				
				公衆栄養学実習	1				
				給食経営管理論実習1	1				
				給食経営管理論実習2	1				
				フードサービスマネジメント論	1				
				キャリア形成論	1				
小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(17科目)	23	小計(4科目)	13	53	
自 由 選 択 科 目					給食経営管理論2	2	給食経営管理論地実習	1	
							公衆栄養学臨地実習	1	
							臨床栄養学臨地実習	2	
小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(3科目)	4	6	
(基 礎 教 育 科 目 )	教職概論	2	特別支援教育論	2			学校栄養教育実習	1	
	教育の基礎1(思想と歴史)	1	教育課程論	2			教職実践演習(栄養教諭)	2	
	教育の基礎2(社会と制度)	1	特別活動論	2			教育実習事前事後指導(栄養教諭)	1	
	発達・学習論	2	教育方法論	2					
	道徳及び特別活動の指導法	2	教育相談論	2					
	総合的な学習の時間(概論)	1							
	生徒指導論	2							
	小計(7科目)	11	小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(3科目)	4	25
教					学校栄養教育論	2			
					学校栄養教育実践論	2			
小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	4	
小計(7科目)	25	小計(32科目)	49	小計(8科目)	38	小計(7科目)	21	133	
合計	18科目	58	33科目	51	8科目	38	7科目	21	168

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル6（食栄養学科・家庭科中・高教員取得モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修外国語)	2							
	健康・スポーツ科目	3							
	小計(6科目)	23	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	25
	基礎数学A	2							
	基礎無機・分析化学A	2							
	基礎物理化学B	2							
基礎有機化学A	2								
基礎化学実験	2								
小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	10	
専門科目 導入	食栄養学概論	2							
	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	2
専門基礎分野	基礎細胞生物学	2	社会・環境と健康1	2	社会・環境と健康2	2	栄養薬理学	1	
	生化学1	2	生化学2	2	社会・環境と健康3	2	食品機能開発論	1	
	解剖生理学	2	微生物学	2	社会健康科学実習	1	食品分析学	1	
	食品有機化学	2	感染防御学	2	分子栄養学	2			
			臨床病態学	2	食品衛生学実験	1			
			生化学実験	1	食品加工学実験	1			
			分子生物学実験	1					
			解剖生理学実習	1					
			栄養生理学実習	1					
			食品学	2					
			食品加工学	2					
			調理と食事設計	2					
			食品衛生学	2					
			基礎調理学実習	1					
			食事設計実習	1					
			食品学実験	1					
	小計(4科目)	8	小計(16科目)	25	小計(6科目)	9	小計(3科目)	3	45
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1	応用栄養学実習	1	総合演習	2	
	応用栄養学1	2	応用栄養学2	2	栄養教育論2	2	栄養学研究基礎演習	2	
			応用栄養学3	2	栄養教育論3	2	卒業論文	8	
			栄養教育論1	2	栄養教育論実習	1	スポーツ栄養学	1	
			臨床栄養学1	2	臨床栄養学3	2	栄養カウンセリング論	1	
			臨床栄養学2	2	臨床栄養学4	2	キャリア形成論	1	
			給食経営管理論1	2	臨床栄養学実習1	1			
					臨床栄養学実習2	1			
					公衆栄養学1	2			
					公衆栄養学2	2			
					公衆栄養学実習	1			
				給食経営管理論実習1	1				
				給食経営管理論実習2	1				
小計(2科目)	4	小計(7科目)	13	小計(13科目)	19	小計(6科目)	15	51	
自由選択科目									
	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	0
(基) 教職	教職概論	2	特別支援教育論	2	総合的な探求の指導論	2	教育実習(2単位)	2	
	教育基礎論	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教育実習(4単位)	4	
	教育制度論	2	発達・学習論	2	生徒・進路指導論	2	教育実習事前事後指導(中・高)	1	
					教育相談論	2	教職実践演習(中・高)	2	
				特別活動論	2				
				道徳教育論	2				
小計(3科目)	6	小計(3科目)	6	小計(5科目)	10	小計(4科目)	9	31	
住居学概論	住居学概論	2	被服学概論	2	被服構成学	1	生活機器学	2	
			保育学	2	家庭科教育法1B	2			
			家庭科教育法1A	2	家庭科教育法2B	2			
		家庭科教育法2A	2	家族関係学	2				
		生活経済学	2						
小計(1科目)	2	小計(4科目)	8	小計(5科目)	9	小計(1科目)	2	21	
小計(7科目)	22	小計(31科目)	52	小計(7科目)	47	小計(9科目)	29	150	
合計	18科目	55	32科目	54	7科目	47	9科目	29	185

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル7（居住環境学科・建築士受験資格取得モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
基礎教育科目を除く科目	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修外国語)	2							
	健康・スポーツ科目	3							
	その他科目	8							
	小計(7科目)	31	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	33
	基礎数学A	2							
	基礎数学B	2							
線形代数1	2								
入門物理学1	2								
入門物理学2	2								
基礎物理化学A									
基礎物理化学B									
基礎化学実験									
生物学1									
生物学2									
地球学入門									
プログラミング入門B									
小計(12科目)	8	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	8	
専門基礎科目・必修	居住環境学概論	2	住生活論	2					
	図形科学	2	建築一般構造	2					
	基礎設計製図1	2	構造力学1	2					
	基礎設計製図2	2	建築・環境法規	2					
			居住環境工学1	2					
			人間工学1	2					
			住居計画学	2					
			住文化史1	2					
			インテリア計画学	2					
			データサイエンス入門	2					
			構造力学2	2					
			建築構造学1	2					
			建築材料学	2					
			都市計画	2					
小計(4科目)	8	小計(14科目)	28	小計(1科目)	0	小計(1科目)	0	36	
専門基礎科目・選択	居住環境学 学外セミナー1	1	建築情報学	2					
			居住環境学 学外セミナー2	1					
小計(1科目)	1	小計(2科目)	3	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	4	
専門応用科目・必修			設計製図1	2	居住福祉工学	2	卒業研究	10	
			設計製図2	2	建築計画学	2			
					居住企画・経営論	2			
					建築設備1	2			
					建築施工法	2			
					研究計画演習	2			
小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(6科目)	12	小計(1科目)	10	26	
専門応用科目・選択			居住環境工学2	2	建築構造学2	2			
					居住計画論	2			
					住居学	2			
					人間工学2	2			
					建築設備2	2			
					住文化史2	2			
					環境システム設計および実験	2			
				設計製図3A	1				
				設計製図3B	1				
小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(9科目)	16	小計(0科目)	0	18	
合計	24科目	48	20科目	39	18科目	28	3科目	10	125

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル8（居住環境学科・標準モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
基礎教育科目を除く科目	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修外国語)	2							
	健康・スポーツ科目	3							
	その他科目	8							
	小計(7科目)	31	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	33
	基礎数学A	2							
	基礎数学B	2							
線形代数1	2								
基礎教育科目	入門物理学1	2							
	入門物理学2	2							
	基礎物理化学A								
	基礎物理化学B								
	基礎化学実験								
	生物学1								
	生物学2								
	地球学入門								
	プログラミング入門B								
	小計(12科目)	8	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	8
専門基礎科目・必修	居住環境学概論	2	住生活論	2					
	図形科学	2	建築一般構造	2					
	基礎設計製図1	2	構造力学1	2					
	基礎設計製図2	2	建築・環境法規	2					
			居住環境工学1	2					
			人間工学1	2					
			住居計画学	2					
			住文化史1	2					
			インテリア計画学	2					
			データサイエンス入門	2					
			構造力学2	2					
			建築構造学1	2					
			建築材料学	2					
			都市計画	2					
小計(4科目)	8	小計(14科目)	28	小計(1科目)	0	小計(1科目)	0	36	
専門基礎科目・選択			建築情報学	2					
			色彩学	2					
小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	4	
専門応用科目・必修			設計製図1	2	居住福祉工学	2	卒業研究	10	
			設計製図2	2	建築計画学	2			
					居住企画・経営論	2			
					建築設備1	2			
					建築施工法	2			
					研究計画演習	2			
小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(6科目)	12	小計(1科目)	10	26	
専門応用科目・選択			測量学	2	建築構造学2	2			
					感性情報学	2			
					居住地計画論	2			
					住居学	2			
					人間工学2	2			
					建築設備2	2			
					生活機器学	2			
				住文化史2	2				
小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(8科目)	16	小計(0科目)	0	18	
合計	23科目	47	20科目	40	17科目	28	3科目	10	125

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル9（人間福祉学科・心理系・公認心理師取得モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎教育科目	基礎教育科目を除く科	総合教育科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目(英語) 外国語科目(初修) 健康・スポーツ科学科目 その他科目	10 2 2 4 2 3 10	外国語科目(英語)	2					
	基礎教育科目	小計(7科目)	33	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	35
		小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	0
専門基礎科目		人間福祉学概論 社会福祉原理論 臨床心理学概論 心理学的支援法1 発達心理学1 発達心理学2 医学概論 社会福祉学	2 2 2 2 2 2 2 2	教育臨床学1 社会政策学	2 2					
		小計(8科目)	16	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	20
専門共通科目			発達臨床心理学(福祉心理学) 心理学的支援法2 心理的アセスメント 福祉システム学1 福祉システム学2(精神疾患とその治療) 児童福祉論 高齢者福祉論 障害者福祉論 ソーシャルワーク原論1 ソーシャルワーク原論2	2 2 2 2 2 2 2 2 2	対人援助学 地域福祉論1 家族社会学1 社会疫学 精神保健福祉論	2 2 2 2 2				
		小計(0科目)	0	小計(10科目)	20	小計(5科目)	10	小計(0科目)	0	30
専門科目	臨床心理系専門 応用科目		医学知識(人体の構造と機能と疾病) 障害者・障害児心理学 心理学統計法 感情・人格心理学 教育・学校心理学	2 2 2 2 2	健康・医療心理学 公認心理師の職責 産業・組織心理学 司法・犯罪心理学 心理学的支援法3 福祉心理学	2 2 2 2 2 2				
		小計(0科目)	0	小計(5科目)	10	小計(6科目)	12	小計(0科目)	0	22
専門応用科目	社会科学系				家族関係学 家族社会学2	2 2	関係行政論	2		
		小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(1科目)	2	6
習・臨床心理系 演習系科目					心理演習1 心理演習2 心理学実験	2 2 1	心理実習	2		
		小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(3科目)	5	小計(1科目)	2	7
卒論関係科目					人間福祉学演習	2	卒論演習 卒業論文	2 8		
		小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(2科目)	10	12
合計	15科目	49	20科目	36	14科目	33	3科目	14	132	

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル10（人間福祉学科・社会福祉士取得モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	10	外国語科目(英語)	2					
	初年次教育科目	2							
	情報リテラシー科目	2							
基礎教育科目を除く科目	外国語科目(英語)	4							
	外国語科目(初修)	2							
	健康・スポーツ科学科目	3							
	その他科目	10							
	小計(7科目)	33	小計(1科目)	2	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	35
	基礎教育科目								
	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	0
基礎科目	人間福祉学概論	2	教育臨床学1	2					
	社会福祉原理論	2	心理的支援法1	2					
基礎科目	臨床心理学概論	2							
	医学概論	2							
	社会福祉学	2							
	社会政策学	2							
	小計(6科目)	12	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	16
	専門共通科目								
専門科目			ソーシャルワーク原論1	2	地域福祉論1	2			
			ソーシャルワーク原論2	2	対人援助学	2			
			社会保障論1	2					
			社会保障論2	2					
			公的扶助論	2					
			高齢者福祉論	2					
			子ども家庭福祉論	2					
			障害者福祉論	2					
			家族社会学1	2					
			社会調査法	2					
小計(0科目)	0	小計(10科目)	20	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	24	
社会福祉系専門応用科目			心理学	2	地域福祉論2	2	ソーシャルワーク論3	2	
					医療福祉論	2	ソーシャルワーク論4	2	
					介護学	2			
					社会福祉権利擁護論	2			
					ソーシャルワーク論1	2			
					ソーシャルワーク論2	2			
					司法福祉論	2			
小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(7科目)	14	小計(2科目)	4	20	
社会科系					社会学	2			
					社会福祉運営管理論	2			
小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(2科目)	4	小計(0科目)	0	4	
社会福祉系実習・演習			ソーシャルワーク演習1	2	ソーシャルワーク演習2	2	ソーシャルワーク演習5	2	
			ソーシャルワーク実習指導1	1	ソーシャルワーク演習3	2			
					ソーシャルワーク演習4	2			
					ソーシャルワーク実習指導2	1			
					ソーシャルワーク実習1	4			
					ソーシャルワーク実習指導3	1			
					ソーシャルワーク実習2	1			
	小計(0科目)	0	小計(2科目)	3	小計(7科目)	13	小計(1科目)	2	18
卒論関係科目					人間福祉学演習	2	卒論演習	2	
							卒業論文	8	
小計(0科目)	0	小計(0科目)	0	小計(1科目)	2	小計(2科目)	10	12	
小計(6科目)	12	小計(15科目)	29	小計(19科目)	37	小計(5科目)	16	94	
合計	13科目	45	16科目	31	18科目	37	5科目	16	129

(注)科目名欄の下線は必修科目を示す。

## 履修モデル11（人間福祉学科・家族・社会・生活系モデル）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位合計
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
基礎教育科目	総合教育科目	6	総合教育科目	4					
	初年次教育科目	2	外国語科目	2					
	情報リテラシー科目	2							
	外国語科目	6							
	健康・スポーツ科学科目	3							
	その他科目	10							
	小計 (6科目)	29	小計 (2科目)	6	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	35
基礎教育科目									
	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	0
専門基礎科目	人間福祉学概論	2							
	社会福祉原理論	2							
	臨床心理学概論	2							
	医学概論	2							
	教育臨床学1	2							
	社会福祉学	2							
	社会政策学	2							
	心理学的支援法1	2							
	発達心理学1	2							
	発達心理学2	2							
	小計 (10科目)	20	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	20
専門共通科目			社会保障論1	2	心理的支援法2	2			
			社会保障論2	2	心理的アセスメント	2			
			公的扶助論	2	対人援助学	2			
			社会開発学	2	地域福祉論1	2			
			国際開発学	2					
			家族社会学1	2					
			福祉システム学1	2					
			福祉システム学2(精神疾患とその治療)	2					
			社会調査法	2					
			ソーシャルワーク原論1	2					
			ソーシャルワーク原論2	2					
			高齢者福祉論	2					
			子ども家庭福祉論	2					
			障害者福祉論	2					
小計 (0科目)	0	小計 (14科目)	28	小計 (4科目)	8	小計 (0科目)	0	36	
社会福祉系専門応用科目					地域福祉論2	2			
					司法福祉論	2			
小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	小計 (2科目)	4	小計 (0科目)	0	4	
社会科学系専門応用科目			家族関係学	2	社会学	2	関係行政論	2	
			家族社会学2	2	教育臨床学2	2			
					グローバル経済論	2			
					地域経済学	2			
					教育方法学	2			
					生活経済学	2			
					社会疫学	2			
					社会福祉運営管理論	2			
小計 (0科目)	0	小計 (2科目)	4	小計 (8科目)	16	小計 (1科目)	2	22	
卒論関係科目					人間福祉学演習	2	卒論演習	2	
							卒業論文	8	
小計 (0科目)	0	小計 (0科目)	0	小計 (1科目)	2	小計 (2科目)	10	12	
小計 (10科目)	20	小計 (16科目)	32	小計 (14科目)	30	小計 (3科目)	12	94	
合計	16科目	49	18科目	38	14科目	30	3科目	12	129

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

教育課程・専任教員の配置状況と指定規則の対比表

管理栄養士学校指定規則の規定		単位数		単位数		専任教員等の配置					備考		
教育内容	講義 又は 演習	実験 又は 実習	講義 又は 演習	実験 又は 実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
社会・環境と健康	6		社会・環境と健康1	2		神谷 重樹	高尾 理樹夫				管理栄養士		
			社会・環境と健康2	2			高尾 理樹夫				管理栄養士		
			社会・環境と健康3	2									
人体の構造と機能 及び 疾病の成り立ち	14	10	社会健康科学実習		1	中台 枝里子	高尾 理樹夫				藤田由江 飛高佳代	管理栄養士	
			合計単位数	6	1								
			解剖生理学	2		田中 美成							医師
			生化学1	2		竹中 重雄							
			生化学2	2				市川 直樹					
			分子栄養学	2		竹中 重雄	松村 成暢						
			微生物学	2		和田 崇之	金 東浩						
			感染防御学	2		神谷 重樹 中台 枝里子							
			臨床病態学	2		田中 美成 大記 羽生							医師
			生化学実験		1	竹中 重雄	市川 直樹 松村 成暢					岡本彩希 出口美輪子	
			分子生物学実験		1	竹中 重雄	松村 成暢 市川 直樹 金 東浩					岡本彩希 出口美輪子	
			解剖生理学実習		1	羽生 大記 近藤 茂忠	小島 明子 松本 佳也					岡田直人 川口里穂 島田知恵	医師 管理栄養士
			栄養生理学実習		1	叶内 宏明	小島 明子					川口里穂 島田知恵	管理栄養士
			合計単位数	14	4								
食べ物と健康	8		食品学	2			岩城 俊雄						
			食品加工学	2				石橋 ちなみ				管理栄養士	
			調理と食事設計	2					石橋 ちなみ			管理栄養士	
			食品衛生学	2		神谷 重樹	古澤 直人						
			基礎調理学実習		1			石橋 ちなみ				藤田由江 飛高佳代	管理栄養士
			食事設計実習		1			石橋 ちなみ				藤田由江 飛高佳代	管理栄養士
			食品学実験		1	増田 俊哉	岩城 俊雄					岡本彩希 亀田和美	
			食品加工学実験		1	叶内 宏明 竹中 重雄		石橋 ちなみ				天野楓葉 飛高佳代	管理栄養士
			食品衛生学実験		1	神谷 重樹	古澤 直人					西田直子 天野楓葉	
			合計単位数	8	5								
専門基礎分野 計	28	10	28	10									
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学	2		叶内 宏明					管理栄養士		
			基礎栄養学実験		1	叶内 宏明	小島 明子				川口里穂 島田知恵	管理栄養士	
	応用栄養学	6	合計単位数	2	1								
			応用栄養学1	2		栗原 晶子						管理栄養士	
			応用栄養学2	2			福村 智恵					管理栄養士	
			応用栄養学3	2			福村 智恵					管理栄養士	
			応用栄養学実習		1	栗原 晶子	福村 智恵					吉田有里 島田知恵	管理栄養士
	栄養教育論	6	合計単位数	6	1								
			栄養教育論1	2				早見 直美				管理栄養士	
			栄養教育論2	2		大関 知子						管理栄養士	
			栄養教育論3	2				早見 直美				管理栄養士	
			栄養教育論実習		1	大関 知子		早見 直美				天野楓葉 亀田和美	管理栄養士
			合計単位数	6	1								
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学1	2			松本 佳也				管理栄養士	
				臨床栄養学2	2		近藤 茂忠					管理栄養士	
				臨床栄養学3	2			安井 洋子				管理栄養士	
				臨床栄養学4	2								
				臨床栄養学実習1		1		松本 佳也 安井 洋子					吉田有里 西田直子
	公衆栄養学	4		臨床栄養学実習2		1	松本 佳也				吉田有里 西田直子	管理栄養士	
				合計単位数	8	2							
				公衆栄養学1	2		由田 克士						管理栄養士
				公衆栄養学2	2			矢澤 彩香					管理栄養士
給食経営管理論	4		公衆栄養学実習		1	由田 克士	矢澤 彩香				藤田由江 西田直子	管理栄養士	
			合計単位数	4	1								
			給食経営管理論1	2				川上 由紀子				管理栄養士	
			給食経営管理論2	2									
			給食経営管理実習1(運営)		1		高橋 孝子	川上 由紀子 石橋 ちなみ				藤田由江 天野楓葉 川口里穂 出口美輪子 島田和美	管理栄養士
			給食経営管理実習2(経営管理)		1		高橋 孝子	川上 由紀子 石橋 ちなみ				藤田由江 天野楓葉 川口里穂 出口美輪子 島田和美	管理栄養士
総合演習	2		合計単位数	4	2								
			総合演習	2		由田 克士 大関 知子 近藤 茂忠 叶内 宏明 栗原 晶子	小島 明子 安井 洋子 福村 智恵 高尾 理樹夫 矢澤 彩香 高橋 孝子 松本 佳也	早見 直美 川上 由紀子 石橋 ちなみ			吉田有里 藤田由江 天野楓葉 川口里穂 岡本彩希 岡田直人 出口美輪子 亀田和美 飛高佳代 西田直子 島田知恵	管理栄養士	
臨地実習	4		合計単位数	2									
			給食経営管理臨地実習*		1		高橋 孝子	川上 由紀子			天野楓葉 出口美輪子	管理栄養士	
			臨床栄養学臨地実習		2	近藤 茂忠	松本 佳也 安井 洋子				吉田有里 川口里穂 出口美輪子	管理栄養士	
			公衆栄養学臨地実習		1	由田 克士	矢澤 彩香				藤田由江 川口里穂 亀田和美	管理栄養士	
合計単位数	4												
専門分野科目 計	32	12	32	12									
専門基礎分野と専門分野の合計	60	22	60	22									

\*給食の運営に係る校外実習

大阪府立中学校 一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立富田林中学校	富田林市谷川町4-30	2名

大阪府立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立芥川高等学校	高槻市浦堂1-12-1	2名
2	大阪府立旭高等学校	大阪市旭区高殿5-6-41	2名
3	大阪府立芦間高等学校	守口市外島町1-43	2名
4	大阪府立阿武野高等学校	高槻市氷室町3-38-1	2名
5	大阪府立阿倍野高等学校	大阪市阿倍野区阪南町1-30-34	2名
6	大阪府立生野高等学校	松原市新堂1-552	2名
7	大阪府立池田高等学校	池田市旭丘2-2-1	2名
8	大阪府立大正白稜高等学校	大阪市大正区泉尾3-19-50	2名
9	大阪府立和泉高等学校	岸和田市土生町1-2-1	2名
10	大阪府立泉大津高等学校	泉大津市北豊中町1-1-1	2名
11	大阪府立和泉総合高等学校	和泉市富秋町1-14-4	2名
12	大阪府立泉鳥取高等学校	阪南市緑ヶ丘1-1-10	2名
13	大阪府立市岡高等学校	大阪市港区市岡元町2-12-12	2名
14	大阪府立茨木高等学校	茨木市新庄町12-1	2名
15	大阪府立茨木工科高等学校	茨木市春日5-6-41	2名
16	大阪府立茨木西高等学校	茨木市紫明園10-68	2名
17	大阪府立今宮高等学校	大阪市浪速区戎本町2-7-39	2名
18	大阪府立今宮工科高等学校	大阪市西成区出城1-1-6	2名
19	大阪府立園芸高等学校	池田市八王寺2-5-1	2名
20	大阪府立大塚高等学校	高槻市大塚町4-50-1	2名
21	大阪府教育センター附属高等学校	大阪市住吉区荻田4-1-72	2名
22	大阪府立大塚高等学校	松原市西大塚2-1005	2名
23	大阪府立大手前高等学校	大阪市中央区大手前2-1-11	2名
24	大阪府立鳳高等学校	堺市西区原田150	2名
25	大阪府立貝塚高等学校	貝塚市島中1-1-1	2名
26	大阪府立貝塚南高等学校	貝塚市橋本620	2名
27	大阪府立懐風館高等学校	羽曳野市大黒776	2名
28	大阪府立春日丘高等学校	茨木市春日2-1-2	2名
29	大阪府立交野高等学校	交野市寺南野10-1	2名
30	大阪府立門真なみはや高等学校	門真市島頭4-9-1	2名
31	大阪府立門真西高等学校	門真市柳田町29-1	2名
32	大阪府立金岡高等学校	堺市北区金岡町2651	2名
33	大阪府立河南高等学校	富田林市錦ヶ丘町1-15	2名
34	大阪府立かわち野高等学校	東大阪市新庄4-11-95	2名
35	大阪府立岸和田高等学校	岸和田市岸城町10-1	2名
36	大阪府立北かわち皐が丘高等学校	寝屋川市寝屋北町1-1	2名
37	大阪府立北千里高等学校	吹田市藤白台5-6-1	2名
38	大阪府立北野高等学校	大阪市淀川区新北野2-5-13	2名
39	大阪府立淀川清流高等学校	大阪市東淀川区豊里2-11-35	2名
40	大阪府立柴島高等学校	大阪市東淀川区柴島1-7-106	2名
41	大阪府立久米田高等学校	岸和田市額原町1100	2名
42	大阪府立高津高等学校	大阪市天王寺区餌差町10-47	2名
43	大阪府立港南造形高等学校	大阪市住之江区南港東2-5-72	2名
44	大阪府立香里丘高等学校	枚方市東中振2-18-1	2名
45	大阪府立金剛高等学校	富田林市藤沢台2-1-1	2名
46	大阪府立堺上高等学校	堺市西区上61	2名
47	大阪府立堺工科高等学校	堺市堺区大仙中町12-1	2名
48	大阪府立堺西高等学校	堺市南区桃山台4-16	2名
49	大阪府立堺東高等学校	堺市南区晴美台1-1-2	2名
50	大阪府立桜塚高等学校	豊中市中桜塚4-1-1	2名
51	大阪府立佐野高等学校	泉佐野市市場東2-398	2名
52	大阪府立佐野工科高等学校	泉佐野市高松東1-3-50	2名
53	大阪府立狭山高等学校	大阪狭山市半田4-1510	2名
54	大阪府立四條畷高等学校	四條畷市雁屋北町1-1	2名
55	大阪府立信太高等学校	和泉市葛の葉町3-6-8	2名
56	大阪府立渋谷高等学校	池田市畑4-1-1	2名
57	大阪府立島本高等学校	三島郡島本町桜井台15-1	2名
58	大阪府立清水谷高等学校	大阪市天王寺区清水谷町2-44	2名
59	大阪府立城東工科高等学校	東大阪市西鴻池町2-5-33	2名
60	大阪府立吹田高等学校	吹田市原町4-24-14	2名
61	大阪府立吹田東高等学校	吹田市青葉丘南16-1	2名
62	大阪府立住吉高等学校	大阪市阿倍野区北島2-4-1	2名

63	大阪府立成城高等学校	大阪市城東区諏訪3-11-41	2名
64	大阪府立成美高等学校	堺市南城区山台4-1-1	2名
65	大阪府立摂津高等学校	摂津市学園町1-5-1	2名
66	大阪府立泉北高等学校	堺市南区若松台3-2-2	2名
67	大阪府立泉陽高等学校	堺市堺区車之町3-2-1	2名
68	大阪府立千里高等学校	吹田市高野台2-17-1	2名
69	大阪府立千里青雲高等学校	豊中市新千里南町1-5-1	2名
70	大阪府立高石高等学校	高石市千代田6-12-1	2名
71	大阪府立高槻北高等学校	高槻市別所本町36-3	2名
72	大阪府立槻の木高等学校	高槻市城内町2-13	2名
73	大阪府立豊島高等学校	豊中市北緑丘3-2-1	2名
74	大阪府立天王寺高等学校	大阪市阿倍野区三明町2-4-23	2名
75	大阪府立刀根山高等学校	豊中市刀根山6-9-1	2名
76	大阪府立登美丘高等学校	堺市東区西野51	2名
77	大阪府立豊中高等学校	豊中市上野西2-5-12	2名
78	大阪府立富田林高等学校	富田林市谷川町4-30	2名
79	大阪府立長尾高等学校	枚方市長尾家具町5-1-1	2名
80	大阪府立長野高等学校	河内長野市原町2-1-1	2名
81	大阪府立長吉高等学校	大阪市平野区長吉長原西3-11-33	2名
82	大阪府立西成高等学校	大阪市西成区津守1-13-10	2名
83	大阪府立西寝屋川高等学校	寝屋川市葛原2-19-1	2名
84	大阪府立西野田工科高等学校	大阪市福島区大開2-17-62	2名
85	大阪府立寝屋川高等学校	寝屋川市本町15-64	2名
86	大阪府立農芸高等学校	堺市美原区北余部595-1	2名
87	大阪府立野崎高等学校	大東市寺川1-2-1	2名
88	大阪府立豊中高等学校能勢分校	豊能郡能勢町上田尻580	2名
89	大阪府立伯太高等学校	和泉市伯太町2-4-11	2名
90	大阪府立花園高等学校	東大阪市花園東町3-1-25	2名
91	大阪府立阪南高等学校	大阪市住吉区庭井2-18-81	2名
92	大阪府立東住吉高等学校	大阪市平野区平野西2-3-77	2名
93	大阪府立東住吉総合高等学校	大阪市平野区喜連西2-11-66	2名
94	大阪府立東百舌鳥高等学校	堺市中区土塔町2377-5	2名
95	大阪府立東淀川高等学校	大阪市淀川区宮原4-4-5	2名
96	大阪府立日根野高等学校	泉佐野市日根野2372-1	2名
97	大阪府立枚岡樟風高等学校	東大阪市鷹殿町18-1	2名
98	大阪府立枚方高等学校	枚方市大垣内町3-16-1	2名
99	大阪府立枚方津田高等学校	枚方市津田北町2-50-1	2名
100	大阪府立枚方なぎさ高等学校	枚方市磯島元町20-1	2名
101	大阪府立平野高等学校	大阪市平野区長吉川辺4-2-11	2名
102	大阪府立福井高等学校	茨木市西福井3-33-11	2名
103	大阪府立福泉高等学校	堺市西区太平寺323	2名
104	大阪府立藤井寺高等学校	藤井寺市津堂3-516	2名
105	大阪府立藤井寺工科高等学校	藤井寺市御舟町10-1	2名
106	大阪府立布施高等学校	東大阪市下小阪3-14-21	2名
107	大阪府立布施北高等学校	東大阪市荒本西1-2-72	2名
108	大阪府立布施工科高等学校	東大阪市宝持3-7-5	2名
109	大阪府立北摂つばさ高等学校	茨木市玉島台2-15	2名
110	大阪府立牧野高等学校	枚方市南船橋1-11-1	2名
111	大阪府立茨田高等学校	大阪市鶴見区安田1-5-49	2名
112	大阪府立松原高等学校	松原市三宅東3-4-1	2名
113	大阪府立三国丘高等学校	堺市堺区南三国ヶ丘町2-2-36	2名
114	大阪府立岬高等学校	泉南郡岬町淡輪3246	2名
115	大阪府立三島高等学校	高槻市今城町27-1	2名
116	大阪府立みどり清朋高等学校	東大阪市池島町6-3-9	2名
117	大阪府立立港高等学校	大阪市港区波除2-3-1	2名
118	大阪府立箕面高等学校	箕面市牧落4-8-66	2名
119	大阪府立箕面東高等学校	箕面市粟生外院5-4-63	2名
120	大阪府立美原高等学校	堺市美原区平尾234-1	2名
121	大阪府立守口東高等学校	守口市八雲中町2-1-32	2名
122	大阪府立八尾高等学校	八尾市高町1-74	2名
123	大阪府立八尾北高等学校	八尾市萱振町7-42	2名
124	大阪府立八尾翠翔高等学校	八尾市神宮寺3-107	2名
125	大阪府立山田高等学校	吹田市山田東3-28-1	2名
126	大阪府立山本高等学校	八尾市山本町北1-1-44	2名

127	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪市天王寺区北山町10-10	2名
128	大阪府立淀川工科高等学校	大阪市旭区太子橋3-1-32	2名
129	大阪府立緑風冠高等学校	大東市深野4-12-1	2名
130	大阪府立りんくう翔南高等学校	泉南市樽井2-35-54	2名
131	大阪府立勝山高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
132	大阪府立わかば高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
133	大阪府立桃谷高等学校	大阪市生野区勝山南3-1-4	2名
134	大阪府立柏原東高等学校	柏原市高井田1015	2名
135	大阪府立長野北高等学校	河内長野市木戸東町3-1	2名

実習施設一覧（教育実習） 大阪市教育委員会

大阪市立小学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	滝川小学校	大阪市北区天満1-24-15	1名
2	堀川小学校	大阪市北区東天満2-10-7	1名
3	西天満小学校	大阪市北区西天満3-12-21	1名
4	菅北小学校	大阪市北区菅栄町9-5	1名
5	豊崎東小学校	大阪市北区長柄中2-3-30	1名
6	豊崎本庄小学校	大阪市北区本庄西2-1-16	1名
7	中津小学校	大阪市北区中津3-34-18	1名
8	大淀小学校	大阪市北区大淀中4-10-33	1名
9	豊仁小学校	大阪市北区長柄西2-6-20	1名
10	豊崎小学校	大阪市北区豊崎4-5-9	1名
11	扇町小学校	大阪市北区扇町2-7-24	1名
12	弘済小学校	吹田市古江台6-2-2	1名
13	弘済小学校分校	高槻市奈佐原956	1名
14	桜宮小学校	大阪市都島区東野田町1-10-19	1名
15	中野小学校	大阪市都島区中野町3-10-5	1名
16	高倉小学校	大阪市都島区高倉町3-3-10	1名
17	淀川小学校	大阪市都島区毛馬町3-5-39	1名
18	都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	1名
19	内代小学校	大阪市都島区内代町3-4-6	1名
20	東都島小学校	大阪市都島区都島本通4-24-20	1名
21	大東小学校	大阪市都島区毛馬町2-11-111	1名
22	友渕小学校	大阪市都島区友渕町1-3-123	1名
23	友渕小学校分校	大阪市都島区友渕町1-3-187	1名
24	福島小学校	大阪市福島区福島4-5-6	1名
25	玉川小学校	大阪市福島区玉川2-13-16	1名
26	野田小学校	大阪市福島区野田5-13-22	1名
27	吉野小学校	大阪市福島区吉野3-10-5	1名
28	大開小学校	大阪市福島区大開2-10-28	1名
29	鷺洲小学校	大阪市福島区鷺洲5-6-8	1名
30	海老江東小学校	大阪市福島区海老江1-6-19	1名
31	海老江西小学校	大阪市福島区海老江8-1-10	1名
32	上福島小学校	大阪市福島区福島7-4-33	1名
33	西九条小学校	大阪市此花区西九条4-3-41	1名
34	四貫島小学校	大阪市此花区四貫島2-16-29	1名
35	島屋小学校	大阪市此花区島屋2-9-36	1名
36	伝法小学校	大阪市此花区伝法3-13-10	1名
37	梅香小学校	大阪市此花区梅香3-17-29	1名
38	高見小学校	大阪市此花区高見1-3-35	1名
39	西島小学校	大阪市此花区西島2-5-12	1名
40	春日出小学校	大阪市此花区春日出中1-13-23	1名
41	玉造小学校	大阪市中央区玉造2-3-43	1名
42	南大江小学校	大阪市中央区農人橋1-3-3	1名
43	中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	1名
44	高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	1名
45	南小学校	大阪市中央区東心斎橋1-14-29	1名
46	開平小学校	大阪市中央区今橋1-5-7	1名
47	中央小学校	大阪市中央区瓦屋町2-8-4	1名
48	西船場小学校	大阪市西区江戸堀1-21-28	1名
49	日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	1名
50	九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	1名
51	九条東小学校	大阪市西区九条2-6-2	1名
52	九条北小学校	大阪市西区九条南4-7-38	1名
53	本田小学校	大阪市西区川口1-5-19	1名
54	堀江小学校	大阪市西区北堀江3-2-16	1名
55	明治小学校	大阪市西区阿波座2-3-35	1名
56	明治小学校(分校)	大阪市西区立売堀4-10-18	1名
57	市岡小学校	大阪市港区市岡3-2-24	1名
58	磯路小学校	大阪市港区磯路3-7-7	1名
59	三先小学校	大阪市港区三先2-6-32	1名

60	田中小学校	大阪市港区田中2-10-34	1名
61	八幡屋小学校	大阪市港区八幡屋3-3-5	1名
62	波除小学校	大阪市港区波除3-6-8	1名
63	築港小学校	大阪市港区築港1-10-38	1名
64	南市岡小学校	大阪市港区南市岡2-6-35	1名
65	港晴小学校	大阪市港区港晴1-3-12	1名
66	弁天小学校	大阪市港区弁天2-9-35	1名
67	池島小学校	大阪市港区池島2-5-47	1名
68	三軒家西小学校	大阪市大正区三軒家西1-20-26	1名
69	泉尾東小学校	大阪市大正区千島1-16-16	1名
70	中泉尾小学校	大阪市大正区泉尾3-23-34	1名
71	北恩加島小学校	大阪市大正区泉尾5-17-31	1名
72	南恩加島小学校	大阪市大正区南恩加島3-6-11	1名
73	鶴町小学校	大阪市大正区鶴町2-6-24	1名
74	泉尾北小学校	大阪市大正区泉尾2-21-24	1名
75	平尾小学校	大阪市大正区平尾2-21-28	1名
76	三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	1名
77	小林小学校	大阪市大正区小林東2-4-45	1名
78	真田山小学校	大阪市天王寺区玉造本町14-41	1名
79	味原小学校	大阪市天王寺区味原町8-19	1名
80	桃陽小学校	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-23	1名
81	五条小学校	大阪市天王寺区小宮町9-28	1名
82	聖和小学校	大阪市天王寺区寺田町1-6-37	1名
83	大江小学校	大阪市天王寺区四天王寺1-9-18	1名
84	生魂小学校	大阪市天王寺区上汐4-1-25	1名
85	天王寺小学校	大阪市天王寺区大道1-4-49	1名
86	栄小学校	大阪市浪速区浪速東1-1-61	1名
87	難波元町小学校	大阪市浪速区元町1-5-30	1名
88	大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	1名
89	浪速小学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	1名
90	敷津小学校	大阪市浪速区敷津東3-9-32	1名
91	塩草立葉小学校	大阪市浪速区塩草1-4-31	1名
92	柏里小学校	大阪市西淀川区柏里2-13-33	1名
93	野里小学校	大阪市西淀川区野里2-21-13	1名
94	姫里小学校	大阪市西淀川区姫里2-8-24	1名
95	姫島小学校	大阪市西淀川区姫島1-10-4	1名
96	福小学校	大阪市西淀川区福町2-5-23	1名
97	大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	1名
98	川北小学校	大阪市西淀川区中島1-11-20	1名
99	佃小学校	大阪市西淀川区佃1-21-12	1名
100	香篝小学校	大阪市西淀川区御幣島6-5-25	1名
101	歌島小学校	大阪市西淀川区歌島2-5-18	1名
102	出来島小学校	大阪市西淀川区出来島2-2-24	1名
103	佃西小学校	大阪市西淀川区佃2-15-30	1名
104	御幣島小学校	大阪市西淀川区御幣島3-5-5	1名
105	神津小学校	大阪市淀川区十三元今里2-3-12	1名
106	田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	1名
107	加島小学校	大阪市淀川区加島1-60-28	1名
108	三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	1名
109	新高小学校	大阪市淀川区新高1-15-53	1名
110	野中小学校	大阪市淀川区野中北1-11-26	1名
111	十三小学校	大阪市淀川区十三東4-3-6	1名
112	木川小学校	大阪市淀川区木川東3-7-32	1名
113	三国小学校	大阪市淀川区三国本町3-9-18	1名
114	北中島小学校	大阪市淀川区宮原5-3-4	1名
115	西中島小学校	大阪市淀川区西中島7-14-25	1名
116	塚本小学校	大阪市淀川区塚本3-5-6	1名
117	木川南小学校	大阪市淀川区木川東1-2-36	1名
118	東三国小学校	大阪市淀川区東三国6-3-24	1名
119	西三国小学校	大阪市淀川区西三国1-21-28	1名
120	新東三国小学校	大阪市淀川区東三国3-9-10	1名

121	宮原小学校	大阪市淀川区三国本町1-16-44	1名
122	東淡路小学校	大阪市東淀川区東淡路3-3-32	1名
123	西淡路小学校	大阪市東淀川区西淡路5-5-32	1名
124	菅原小学校	大阪市東淀川区菅原6-3-25	1名
125	新庄小学校	大阪市東淀川区上新庄2-20-5	1名
126	大隅東小学校	大阪市東淀川区瑞光5-8-19	1名
127	豊里小学校	大阪市東淀川区豊里5-14-60	1名
128	啓発小学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	1名
129	小松小学校	大阪市東淀川区小松3-18-15	1名
130	下新庄小学校	大阪市東淀川区下新庄5-2-9	1名
131	井高野小学校	大阪市東淀川区井高野1-28-17	1名
132	大桐小学校	大阪市東淀川区大桐4-1-15	1名
133	豊新小学校	大阪市東淀川区豊新4-17-26	1名
134	東井高野小学校	大阪市東淀川区井高野2-8-28	1名
135	大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	1名
136	豊里南小学校	大阪市東淀川区豊里5-12-41	1名
137	大道南小学校	大阪市東淀川区大道南1-23-6	1名
138	東小橋小学校	大阪市東成区東小橋3-10-37	1名
139	大成小学校	大阪市東成区大今里西3-2-62	1名
140	中道小学校	大阪市東成区玉津1-7-39	1名
141	北中道小学校	大阪市東成区中道2-9-20	1名
142	中本小学校	大阪市東成区中本4-2-32	1名
143	東中本小学校	大阪市東成区東中本2-9-3	1名
144	今里小学校	大阪市東成区大今里1-35-29	1名
145	片江小学校	大阪市東成区大今里南2-13-2	1名
146	神路小学校	大阪市東成区大今里4-6-19	1名
147	深江小学校	大阪市東成区深江南1-4-6	1名
148	宝栄小学校	大阪市東成区神路1-15-48	1名
149	北鶴橋小学校	大阪市生野区鶴橋3-4-50	1名
150	御幸森小学校	大阪市生野区桃谷5-5-37	1名
151	鶴橋小学校	大阪市生野区桃谷2-20-32	1名
152	東桃谷小学校	大阪市生野区勝山北3-7-21	1名
153	勝山小学校	大阪市生野区勝山南1-3-5	1名
154	林寺小学校	大阪市生野区林寺2-14-3	1名
155	生野小学校	大阪市生野区舍利寺3-1-39	1名
156	中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	1名
157	東中川小学校	大阪市生野区新今里7-14-37	1名
158	小路小学校	大阪市生野区小路2-24-40	1名
159	東小路小学校	大阪市生野区小路東3-8-15	1名
160	田島小学校	大阪市生野区田島3-7-38	1名
161	舍利寺小学校	大阪市生野区勝山南4-15-25	1名
162	生野南小学校	大阪市生野区林寺6-6-7	1名
163	巽小学校	大阪市生野区巽中3-12-5	1名
164	北巽小学校	大阪市生野区巽北1-30-29	1名
165	西生野小学校	大阪市生野区生野西3-5-7	1名
166	巽南小学校	大阪市生野区巽南2-10-7	1名
167	巽東小学校	大阪市生野区巽東3-8-13	1名
168	清水小学校	大阪市旭区清水5-1-12	1名
169	古市小学校	大阪市旭区森小路2-10-35	1名
170	大宮小学校	大阪市旭区大宮4-9-16	1名
171	高殿小学校	大阪市旭区高殿6-9-10	1名
172	大宮西小学校	大阪市旭区中宮1-8-14	1名
173	生江小学校	大阪市旭区生江1-10-21	1名
174	城北小学校	大阪市旭区赤川3-13-47	1名
175	新森小路小学校	大阪市旭区新森6-3-13	1名
176	太子橋小学校	大阪市旭区太子橋1-12-15	1名
177	高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	1名
178	榎並小学校	大阪市城東区野江4-1-28	1名
179	関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	1名
180	鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	1名
181	今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	1名

182	聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	1名
183	嶋野小学校	大阪市城東区嶋野西4-11-48	1名
184	中浜小学校	大阪市城東区中浜2-12-35	1名
185	城東小学校	大阪市城東区嶋野東3-16-41	1名
186	諏訪小学校	大阪市城東区永田2-15-5	1名
187	成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	1名
188	すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	1名
189	東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	1名
190	放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	1名
191	関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	1名
192	森之宮小学校	大阪市城東区森之宮1-6-64	1名
193	鯉江東小学校	大阪市城東区今福東1-3-26	1名
194	榎本小学校	大阪市鶴見区今津北1-5-35	1名
195	茨田南小学校	大阪市鶴見区諸口1-3-71	1名
196	茨田北小学校	大阪市鶴見区浜3-8-66	1名
197	鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	1名
198	今津小学校	大阪市鶴見区今津中4-1-48	1名
199	茨田東小学校	大阪市鶴見区茨田大宮3-7-61	1名
200	茨田西小学校	大阪市鶴見区横堤5-13-61	1名
201	横堤小学校	大阪市鶴見区横堤1-11-83	1名
202	みどり小学校	大阪市鶴見区緑2-4-45	1名
203	鶴見南小学校	大阪市鶴見区鶴見2-17-22	1名
204	茨田小学校	大阪市鶴見区安田2-1-8	1名
205	烧野小学校	大阪市鶴見区烧野1-3-44	1名
206	高松小学校	大阪市阿倍野区天王寺町北3-17-19	1名
207	常盤小学校	大阪市阿倍野区松崎町3-11-12	1名
208	常盤小学校分校	大阪市阿倍野区松崎町3-2-9	1名
209	金塚小学校	大阪市阿倍野区旭町3-4-46	1名
210	丸山小学校	大阪市阿倍野区丸山通1-4-43	1名
211	晴明丘小学校	大阪市阿倍野区晴明通10-34	1名
212	阿倍野小学校	大阪市阿倍野区阪南町2-17-21	1名
213	阪南小学校	大阪市阿倍野区阪南町5-7-40	1名
214	長池小学校	大阪市阿倍野区長池町20-26	1名
215	苗代小学校	大阪市阿倍野区阪南町1-26-30	1名
216	晴明丘南小学校	大阪市阿倍野区帝塚山1-23-8	1名
217	粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜2-6-6	1名
218	安立小学校	大阪市住之江区住之江1-4-29	1名
219	敷津浦小学校	大阪市住之江区北島2-9-22	1名
220	加賀屋小学校	大阪市住之江区北加賀屋2-5-26	1名
221	住吉川小学校	大阪市住之江区西加賀屋4-1-4	1名
222	北粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜1-5-48	1名
223	住之江小学校	大阪市住之江区御崎4-6-43	1名
224	平林小学校	大阪市住之江区平林南2-6-48	1名
225	加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	1名
226	新北島小学校	大阪市住之江区新北島6-2-56	1名
227	南港光小学校	大阪市住之江区南港中4-4-22	1名
228	南港桜小学校	大阪市住之江区南港中5-2-48	1名
229	南港みなみ小学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	1名
230	清江小学校	大阪市住之江区御崎5-7-18	1名
231	東粉浜小学校	大阪市住吉区東粉浜2-3-26	1名
232	住吉小学校	大阪市住吉区帝塚山西4-1-35	1名
233	長居小学校	大阪市住吉区長居東3-3-40	1名
234	依羅小学校	大阪市住吉区我孫子4-11-48	1名
235	墨江小学校	大阪市住吉区墨江2-3-46	1名
236	遠里小野小学校	大阪市住吉区遠里小野6-6-27	1名
237	清水丘小学校	大阪市住吉区清水丘2-9-41	1名
238	南住吉小学校	大阪市住吉区南住吉3-5-1	1名
239	大領小学校	大阪市住吉区大領3-3-5	1名
240	苅田小学校	大阪市住吉区苅田3-5-34	1名
241	山之内小学校	大阪市住吉区山之内2-17-39	1名
242	苅田南小学校	大阪市住吉区苅田10-1-35	1名

243	苅田北小学校	大阪市住吉区苅田1-11-39	1名
244	大空小学校	大阪市住吉区我孫子西1-6-12	1名
245	桑津小学校	大阪市東住吉区桑津5-13-13	1名
246	北田辺小学校	大阪市東住吉区北田辺3-11-14	1名
247	田辺小学校	大阪市東住吉区田辺2-3-34	1名
248	東田辺小学校	大阪市東住吉区東田辺2-14-6	1名
249	南田辺小学校	大阪市東住吉区南田辺4-3-4	1名
250	南百済小学校	大阪市東住吉区湯里1-15-40	1名
251	育和小学校	大阪市東住吉区杭全4-10-12	1名
252	鷹合小学校	大阪市東住吉区鷹合3-12-38	1名
253	今川小学校	大阪市東住吉区今川4-24-4	1名
254	矢田小学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	1名
255	矢田東小学校	大阪市東住吉区住道矢田2-7-43	1名
256	矢田西小学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-15-43	1名
257	矢田北小学校	大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-1-55	1名
258	湯里小学校	大阪市東住吉区湯里6-8-3	1名
259	長谷川小学校	柏原市円明町3-15	1名
260	喜連小学校	大阪市平野区喜連7-6-4	1名
261	平野西小学校	大阪市平野区背戸口4-1-31	1名
262	平野小学校	大阪市平野区平野宮町1-9-29	1名
263	長吉小学校	大阪市平野区長吉長原2-6-55	1名
264	瓜破小学校	大阪市平野区瓜破5-3-11	1名
265	加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	1名
266	加美南部小学校	大阪市平野区加美南1-9-17	1名
267	平野南小学校	大阪市平野区平野南2-3-8	1名
268	長吉東小学校	大阪市平野区長吉出戸8-8-41	1名
269	喜連西小学校	大阪市平野区喜連西3-17-61	1名
270	長吉南小学校	大阪市平野区長吉六反3-2-17	1名
271	瓜破北小学校	大阪市平野区瓜破1-8-33	1名
272	長原小学校	大阪市平野区長吉長原東3-10-9	1名
273	喜連東小学校	大阪市平野区喜連東2-2-17	1名
274	瓜破東小学校	大阪市平野区瓜破東2-5-78	1名
275	加美北小学校	大阪市平野区加美北7-4-10	1名
276	長吉出戸小学校	大阪市平野区長吉出戸3-1-43	1名
277	瓜破西小学校	大阪市平野区瓜破西2-1-43	1名
278	喜連北小学校	大阪市平野区喜連1-7-4	1名
279	加美東小学校	大阪市平野区加美東5-9-25	1名
280	川辺小学校	大阪市平野区長吉川辺1-4-9	1名
281	新平野西小学校	大阪市平野区背戸口1-5-22	1名
282	天下茶屋小学校	大阪市西成区聖天下1-11-35	1名
283	岸里小学校	大阪市西成区千本中1-8-22	1名
284	玉出小学校	大阪市西成区玉出中2-13-48	1名
285	千本小学校	大阪市西成区千本中2-8-8	1名
286	橘小学校	大阪市西成区橘2-1-29	1名
287	梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	1名
288	松之宮小学校	大阪市西成区旭3-5-39	1名
289	長橋小学校	大阪市西成区長橋2-3-21	1名
290	北津守小学校	大阪市西成区北津守3-3-40	1名
291	南津守小学校	大阪市西成区南津守6-1-14	1名
292	新今宮小学校	大阪市西成区花園北1-8-32	1名

大阪市立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	天満中学校	大阪市北区神山町12-9	2名
2	北稜中学校	大阪市北区天満橋1-1-58	2名
3	大淀中学校	大阪市北区大淀中2-1-11	2名
4	豊崎中学校	大阪市北区本庄東3-4-8	2名
5	新豊崎中学校	大阪市北区長柄東2-2-30	2名
6	弘済中学校	吹田市古江台6-2-2	2名
7	弘済中学校分校	高槻市奈佐原956	2名
8	高倉中学校	大阪市都島区御幸町1-1-10	2名
9	桜宮中学校	大阪市都島区東野田町5-16-10	2名
10	都島中学校	大阪市都島区中野町3-9-33	2名
11	淀川中学校	大阪市都島区毛馬町3-5-12	2名
12	友渕中学校	大阪市都島区友渕町1-5-151	2名
13	八阪中学校	大阪市福島区鷺洲6-1-13	2名
14	下福島中学校	大阪市福島区玉川1-4-11	2名
15	野田中学校	大阪市福島区吉野5-9-4	2名
16	春日出中学校	大阪市此花区春日出南1-2-8	2名
17	梅香中学校	大阪市此花区春日出北3-12-24	2名
18	此花中学校	大阪市此花区高見2-14-31	2名
19	咲くやこの花中学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
20	東中学校	大阪市中央区大手前4-1-5	2名
21	南中学校	大阪市中央区島之内1-10-23	2名
22	上町中学校	大阪市中央区上本町西3-2-30	2名
23	西中学校	大阪市西区千代崎3-1-43	2名
24	花乃井中学校	大阪市西区江戸堀2-8-29	2名
25	堀江中学校	大阪市西区南堀江3-5-7	2名
26	市岡中学校	大阪市港区磯路1-5-21	2名
27	港中学校	大阪市港区池島1-5-35	2名
28	港南中学校	大阪市港区三先1-5-28	2名
29	市岡東中学校	大阪市港区市岡元町3-2-18	2名
30	築港中学校	大阪市港区築港1-2-41	2名
31	大正東中学校	大阪市大正区三軒家東4-4-30	2名
32	大正中央中学校	大阪市大正区小林東3-23-5	2名
33	大正西中学校	大阪市大正区南恩加島6-14-37	2名
34	大正北中学校	大阪市大正区北村3-1-1	2名
35	天王寺中学校	大阪市天王寺区北河堀町6-20	2名
36	夕陽丘中学校	大阪市天王寺区小宮町6-28	2名
37	高津中学校	大阪市天王寺区城南寺町1-31	2名
38	難波中学校	大阪市浪速区塩草1-1-59	2名
39	日本橋中学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	2名
40	木津中学校	大阪市浪速区戎本町1-3-46	2名
41	淀中学校	大阪市西淀川区大和田6-13-6	2名
42	西淀中学校	大阪市西淀川区姫島6-10-5	2名
43	歌島中学校	大阪市西淀川区歌島2-11-9	2名
44	佃中学校	大阪市西淀川区佃2-15-93	2名
45	十三中学校	大阪市淀川区十三東5-1-27	2名
46	新北野中学校	大阪市淀川区新北野2-13-37	2名
47	三国中学校	大阪市淀川区西三国2-5-24	2名
48	美津島中学校	大阪市淀川区加島1-54-41	2名
49	東三国中学校	大阪市淀川区東三国6-3-68	2名
50	宮原中学校	大阪市淀川区西宮原3-3-2	2名
51	淡路中学校	大阪市東淀川区西淡路4-25-53	2名
52	柴島中学校	大阪市東淀川区柴島2-8-36	2名
53	瑞光中学校	大阪市東淀川区瑞光4-9-37	2名
54	中島中学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	2名
55	東淀中学校	大阪市東淀川区豊里6-25-19	2名
56	井高野中学校	大阪市東淀川区井高野2-8-13	2名
57	新東淀中学校	大阪市東淀川区豊里1-10-32	2名

58	大桐中学校	大阪市東淀川区大桐4-5-8	2名
59	東陽中学校	大阪市東成区深江北2-5-7	2名
60	本庄中学校	大阪市東成区東中本3-14-2	2名
61	玉津中学校	大阪市東成区玉津1-12-36	2名
62	相生中学校	大阪市東成区神路2-8-16	2名
63	大池中学校	大阪市生野区中川6-3-6	2名
64	桃谷中学校	大阪市生野区勝山北3-13-44	2名
65	生野中学校	大阪市生野区生野西3-5-40	2名
66	東生野中学校	大阪市生野区新今里7-9-25	2名
67	田島中学校	大阪市生野区田島5-23-7	2名
68	翼中学校	大阪市生野区翼中3-17-20	2名
69	新生野中学校	大阪市生野区翼東3-3-12	2名
70	新翼中学校	大阪市生野区翼南4-2-53	2名
71	旭陽中学校	大阪市旭区高殿5-9-31	2名
72	大宮中学校	大阪市旭区中宮4-7-11	2名
73	旭東中学校	大阪市旭区新森6-7-25	2名
74	今市中学校	大阪市旭区大宮5-13-40	2名
75	放出中学校	大阪市城東区放出西3-12-10	2名
76	蒲生中学校	大阪市城東区中央3-9-24	2名
77	城陽中学校	大阪市城東区嶋野西3-3-64	2名
78	董中学校	大阪市城東区古市1-18-4	2名
79	城東中学校	大阪市城東区永田3-3-58	2名
80	鯉江中学校	大阪市城東区今福西4-7-20	2名
81	茨田中学校	大阪市鶴見区諸口3-4-44	2名
82	緑中学校	大阪市鶴見区鶴見6-6-11	2名
83	茨田北中学校	大阪市鶴見区茨田大宮1-1-31	2名
84	今津中学校	大阪市鶴見区今津中1-3-55	2名
85	横堤中学校	大阪市鶴見区横堤1-11-27	2名
86	昭和中学校	大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17	2名
87	文の里中学校	大阪市阿倍野区美章園1-5-52	2名
88	阪南中学校	大阪市阿倍野区北畠1-16-24	2名
89	松虫中学校	大阪市阿倍野区松虫通3-4-45	2名
90	阿倍野中学校	大阪市阿倍野区昭和町3-2-4	2名
91	住吉第一中学校	大阪市住之江区粉浜西1-5-11	2名
92	加賀屋中学校	大阪市住之江区西加賀屋2-9-20	2名
93	住之江中学校	大阪市住之江区御崎8-1-6	2名
94	新北島中学校	大阪市住之江区新北島8-2-46	2名
95	南港北中学校	大阪市住之江区南港中4-3-39	2名
96	南港南中学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	2名
97	真住中学校	大阪市住之江区御崎2-2-32	2名
98	水都国際中学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
99	三稜中学校	大阪市住吉区干躰1-5-22	2名
100	我孫子中学校	大阪市住吉区我孫子東1-4-32	2名
101	住吉中学校	大阪市住吉区帝塚山西3-5-6	2名
102	大和川中学校	大阪市住吉区遠里小野2-11-4	2名
103	東我孫子中学校	大阪市住吉区苅田1-16-2	2名
104	墨江丘中学校	大阪市住吉区墨江4-15-34	2名
105	大領中学校	大阪市住吉区大領4-3-25	2名
106	我孫子南中学校	大阪市住吉区浅香1-8-55	2名
107	田辺中学校	大阪市東住吉区南田辺4-7-24	2名
108	東住吉中学校	大阪市東住吉区桑津5-17-25	2名
109	中野中学校	大阪市東住吉区中野4-4-25	2名
110	矢田中学校	大阪市東住吉区住道矢田9-7-55	2名
111	白鷺中学校	大阪市東住吉区今川1-2-21	2名
112	矢田南中学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	2名
113	矢田西中学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-12-47	2名
114	長谷川中学校	柏原市円明町3-15	2名
115	摂陽中学校	大阪市平野区平野西3-4-7	2名
116	平野中学校	大阪市平野区背戸口1-16-26	2名

117	長吉中学校	大阪市平野区長吉長原東1-6-15	2名
118	瓜破中学校	大阪市平野区瓜破2-5-31	2名
119	加美中学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-46	2名
120	長吉西中学校	大阪市平野区長吉長原西3-8-21	2名
121	喜連中学校	大阪市平野区喜連西6-2-11	2名
122	長吉六反中学校	大阪市平野区長吉六反4-9-61	2名
123	瓜破西中学校	大阪市平野区瓜破西2-12-22	2名
124	加美南中学校	大阪市平野区加美南1-10-15	2名
125	平野北中学校	大阪市平野区平野宮町1-8-55	2名
126	天下茶屋中学校	大阪市西成区橘1-8-2	2名
127	今宮中学校	大阪市西成区花園北1-8-32	2名
128	成南中学校	大阪市西成区千本中1-17-10	2名
129	鶴見橋中学校	大阪市西成区長橋3-9-23	2名
130	玉出中学校	大阪市西成区玉出西1-15-37	2名
131	梅南中学校	大阪市西成区梅南3-3-17	2名

大阪市立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪市立桜宮高等学校	大阪市都島区毛馬町5-22-28	2名
2	大阪市立東高等学校	大阪市都島区東野田町4-15-14	2名
3	大阪市立南高等学校	大阪市中央区谷町6-17-32	2名
4	大阪市立西高等学校	大阪市西区北堀江4-7-1	2名
5	大阪市立汎愛高等学校	大阪市鶴見区今津中2-1-52	2名
6	大阪市立高等学校	枚方市北中振2-8-1	2名
7	大阪市立淀商業高等学校	大阪市西淀川区野里3-3-15	2名
8	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪市鶴見区緑2-10-9	2名
9	大阪市立住吉商業高等学校	大阪市住之江区御崎7-12-55	2名
10	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-9-26	2名
11	大阪市立水都国際高等学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
12	大阪市立都島工業高等学校	大阪市都島区善源寺町1-5-64	2名
13	大阪市立泉尾工業高等学校	大阪市大正区泉尾5-16-7	2名
14	大阪市立東淀工業高等学校	大阪市淀川区加島1-52-81	2名
15	大阪市立生野工業高等学校	大阪市生野区生野東2-3-66	2名
16	大阪市立工芸高等学校	大阪市阿倍野区文の里1-7-2	2名
17	大阪市立扇町総合高等学校	大阪市北区松ヶ枝町1-38	2名
18	大阪市立咲くやこの花高等学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
19	大阪市立中央高等学校	大阪市中央区釣鐘町1-1-5	2名

# 実習施設一覧 (管理栄養士)

資料4-1

No	科目名	施設名	所在地	受入れ人数
01-01	給食経営管理臨地実習	大阪市立柏里小学校	大阪市西淀川区柏里2-13-33	3名
01-02	給食経営管理臨地実習	大阪市立福小学校	大阪市西淀川区福町2-5-23	2名
01-03	給食経営管理臨地実習	岸和田市立八木小学校	大阪府岸和田市大町3-22-1	3名
01-04	給食経営管理臨地実習	堺市立東浅香山こども園	大阪府堺市北区大豆塚町1-25-4	2名
01-05	給食経営管理臨地実習	枚方市立長尾小学校	大阪府枚方市長尾北町3-3-2	2名
01-06	給食経営管理臨地実習	学校法人 大阪東学園 大阪ひがし幼稚園	門真市三ツ島3丁目12番28号	4名
01-07	給食経営管理臨地実習	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 四天王寺悲田院保育園	羽曳野市学園前6丁目1番地1号	4名
01-08	給食経営管理臨地実習	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	大阪市都島区都島本通2-13-22	6名
01-09	給食経営管理臨地実習	医療法人いずみ会 阪堺病院	大阪府堺市堺区大浜北町1丁目8番8号	6名
01-10	給食経営管理臨地実習	社会医療法人 生長会 ベルキッチン	大阪府堺市西区菱木1-2343-9	4名
01-11	給食経営管理臨地実習	ロイヤルコントラクトサービス株式会社	大阪市西区千代崎3丁目南2-37DCガスビル15階	2名
01-12	給食経営管理臨地実習	株式会社第一食品	大阪市生野区巽中2-3-6	2~9名
01-13	給食経営管理臨地実習	グリーンホスピタリティフード マネジメント株式会社	大阪市西区江戸堀1-12-8明治安田生命肥後橋ビル6階	2名
01-14	給食経営管理臨地実習	日本製鉄株式会社事業所	大阪市堺市西区浜寺石津西町5	6名
01-15	給食経営管理臨地実習	あべのハルカス近鉄本店タワー館	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43ハルカスタワー館14階食堂	2名
01-16	給食経営管理臨地実習	あべのハルカスウイング館	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43近鉄百貨店新店ウイング館9階	2名
01-17	給食経営管理臨地実習	サンマルシェ	大阪市北区中之島3-2-4フェスティバルウエスト3階	2名
01-18	給食経営管理臨地実習	介護老人保健施設さやまの里	大阪狭山市岩室2-185-11	4名
01-19	給食経営管理臨地実習	一般財団法人 富田林市福祉公社 富田林市介護老人保健施設	大阪府富田林市向陽台一丁目4番30号	9名
01-20	給食経営管理臨地実習	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター	大阪府和泉市室堂町840	3名
01-21	臨床栄養学臨地実習	公立大学法人 大阪市立大学 医学部附属病院	大阪市阿倍野区旭町1-5-7	8名
01-22	臨床栄養学臨地実習	医療法人橘会 東住吉森本病院	大阪市東住吉区鷹合3-2-66	2名

01-23	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター	大阪府堺市西区家原寺町1-1-1	2名
01-24	臨床栄養学臨地実習	箕面市立病院	大阪府箕面市萱野5-7-1	4名
01-25	臨床栄養学臨地実習	医療法人貴医会 貴島中央病院	大阪府八尾市松山町1-4-11	2名
01-26	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	大阪市都島区都島本通2-13-22	2名
01-27	臨床栄養学臨地実習	独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター	大阪市中央区法円坂2-1-14	2名
01-28	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 阪南医療福祉センター 阪南中央病院	大阪府松原市南新町3-3-28	6~8名
01-29	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立十三市民病院	大阪市淀川区野中北2-12-27	2名
01-30	臨床栄養学臨地実習	独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院	大阪府堺市北区長曾根町1179-3	4名
01-31	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 景岳会 南大阪病院	大阪市住之江区東加賀屋1-18-18	2名
01-32	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	大阪市住吉区万代東3丁目1番56号	2名
01-33	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター	大阪府和泉市室堂町840	3名
01-34	臨床栄養学臨地実習	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	大阪府羽曳野市はびきの3-7-1	4名
01-35	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 若弘会 わかくさ竜間 リハビリテーション病院	大阪府大東市大字龍間1580	2名
01-36	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 生長会 府中病院	大阪府和泉市肥子町1-10-17	2名
01-37	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院	大阪府堺市中区東山500番地の3	2名
01-38	臨床栄養学臨地実習	藤井寺市立藤井寺市民病院	大阪府藤井寺市道明寺2-7-3	2名
01-39	臨床栄養学臨地実習	医療法人はあとふる 運動器ケア しまだ病院	大阪府羽曳野市榎山100-1	2名
01-40	臨床栄養学臨地実習	独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター	大阪府枚方市星丘4-8-1	2名

01-41	臨床栄養学臨地実習	医療法人 紀和会 正風病院	大阪府堺市北区新金岡町5丁1番3号	2-4名
01-42	臨床栄養学臨地実習	第二大阪警察病院	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40	2名
01-43	臨床栄養学臨地実習	社会医療法人 中央会 尼崎中央病院	兵庫県尼崎市潮江1丁目12番1号	2名
01-44	臨床栄養学臨地実習	芦屋市立芦屋病院	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町39番1号	2名
01-45	公衆栄養学臨地実習	大阪市保健所及び各区保健福祉センター  大阪市保健所 北区保健福祉センター 都島区保健福祉センター 福島区保健福祉センター 此花区保健福祉センター 中央区保健福祉センター 西区保健福祉センター 港区保健福祉センター 大正区保健福祉センター 天王寺区保健福祉センター 浪速区保健福祉センター 西淀川区保健福祉センター 淀川区保健福祉センター 東淀川区保健福祉センター 東成区保健福祉センター 生野区保健福祉センター 旭区保健福祉センター 城東区保健福祉センター 鶴見区保健福祉センター 阿倍野区保健福祉センター 住之江区保健福祉センター 住吉区保健福祉センター 東住吉区保健福祉センター 平野区保健福祉センター 西成区保健福祉センター	阿倍野区旭町1-2-7-1000 あべのメディックス10階 北区扇町2-1-27 都島区中野町5-15-21 福島区大開1-8-1 此花区春日出北1-8-4 中央区久太郎町1-2-27 西区新町4-5-14 港区市岡1-15-25 大正区千島2-7-95 天王寺区上汐4-3-2 浪速区敷津東1-4-20 西淀川区御幣島1-2-10 淀川区十三東2-3-3 東淀川区豊新2-1-4 東成区大今里西2-8-4 生野区勝山南3-1-19 旭区森小路2-5-26 城東区中央3-5-45 鶴見区横堤5-4-19 阿倍野区文の里1-1-40 住之江区御崎3-1-17 住吉区南住吉3-15-55 東住吉区東田辺1-13-4 平野区背戸口3-8-19 西成区岸里1-5-20	65名

実習No.	施設名	住所	実習受入人数	科目名
1	児童養護施設 聖家族の家	大阪府大阪市東住吉区南田辺4-5-2	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
2	児童相談所 大阪府中央子ども家庭センター	大阪府寝屋川市八坂町28番 5	3	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
3	児童相談所 大阪市子ども相談センター	大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5	3	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
4	社会福祉法人 堺市社会福祉協議会	堺市堺区南瓦町2-1	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
5	社会福祉法人 寝屋川市社会福祉協議会	大阪府寝屋川市池田西町24-5 市立池の里市民交流センター内	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
6	社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会	大阪府大阪市住吉区浅香1-8-47	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
7	小規模多機能型居宅介護 きずな	大阪府大阪市住吉区帝塚山東5-10-15	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
8	大阪市鶴見区障がい者基幹相談支援センター	大阪市鶴見区今津中2-4-37	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
9	四条畷第1地域包括支援センター	大阪府四条畷市岡山5-19-20	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
10	特別養護老人ホーム 天の川明星	大阪府交野市星田8-6-7	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
11	玉出地域包括支援センター	大阪府大阪市西成区南津守7-12-32	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
12	独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター	大阪府河内長野市木戸東町2番1号	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
13	浅香山病院	堺市堺区今池町3-3-16	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
14	堺市各区保健福祉総合センター 堺保健福祉総合センター 中保健福祉総合センター 東保健福祉総合センター 西保健福祉総合センター 南保健福祉総合センター 北保健福祉総合センター 美原保健福祉総合センター	堺市各区保健福祉総合センター 堺区南瓦町3-1（市役所）堺区役所内 中区深井沢町2470-7中区役所内 東区日置荘原寺町195-1東区役所内 西区鳳東町6-600西区役所内 南区桃山台1-1-1南区役所内 北区新金岡町5-1-4北区役所内 美原区黒山167-1美原区役所内	3	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
15	大阪市各区保健福祉センター 北区保健福祉センター 都島区保健福祉センター 福島区保健福祉センター 此花区保健福祉センター 中央区保健福祉センター 西区保健福祉センター 港区保健福祉センター 大正区保健福祉センター 天王寺区保健福祉センター 浪速区保健福祉センター 西淀川区保健福祉センター 淀川区保健福祉センター 東淀川区保健福祉センター 東成区保健福祉センター 生野区保健福祉センター 旭区保健福祉センター 城東区保健福祉センター 鶴見区保健福祉センター 阿倍野区保健福祉センター 住之江区保健福祉センター 住吉区保健福祉センター 東住吉区保健福祉センター 平野区保健福祉センター 西成区保健福祉センター	大阪市各区保健福祉センター 北区扇町2-1-27 都島区中野町5-15-21 福島区大開1-8-1 此花区春日出北1-8-4 中央区久太郎町1-2-27 西区新町4-5-14 港区市岡1-15-25 大正区千島2-7-95 天王寺区上汐4-3-2 浪速区敷津東1-4-20 西淀川区御幣島1-2-10 淀川区十三東2-3-3 東淀川区豊新2-1-4 東成区大今里西2-8-4 生野区勝山南3-1-19 旭区森小路2-5-26 城東区中央3-5-45 鶴見区横堤5-4-19 阿倍野区文の里1-1-40 住之江区御崎3-1-17 住吉区南住吉3-15-55 東住吉区東田辺1-13-4 平野区背戸口3-8-19 西成区岸里1-5-20	10	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
16	母子生活支援施設 リアン東さくら	大阪市東成区中本4丁目1番22号	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2
17	住吉総合福祉センター障がい通所事業部	大阪府大阪市住吉区帝塚山東5-8-3	2	ソーシャルワーク実習1 ソーシャルワーク実習2

実習施設一覧 (公認心理師)

資料4-1

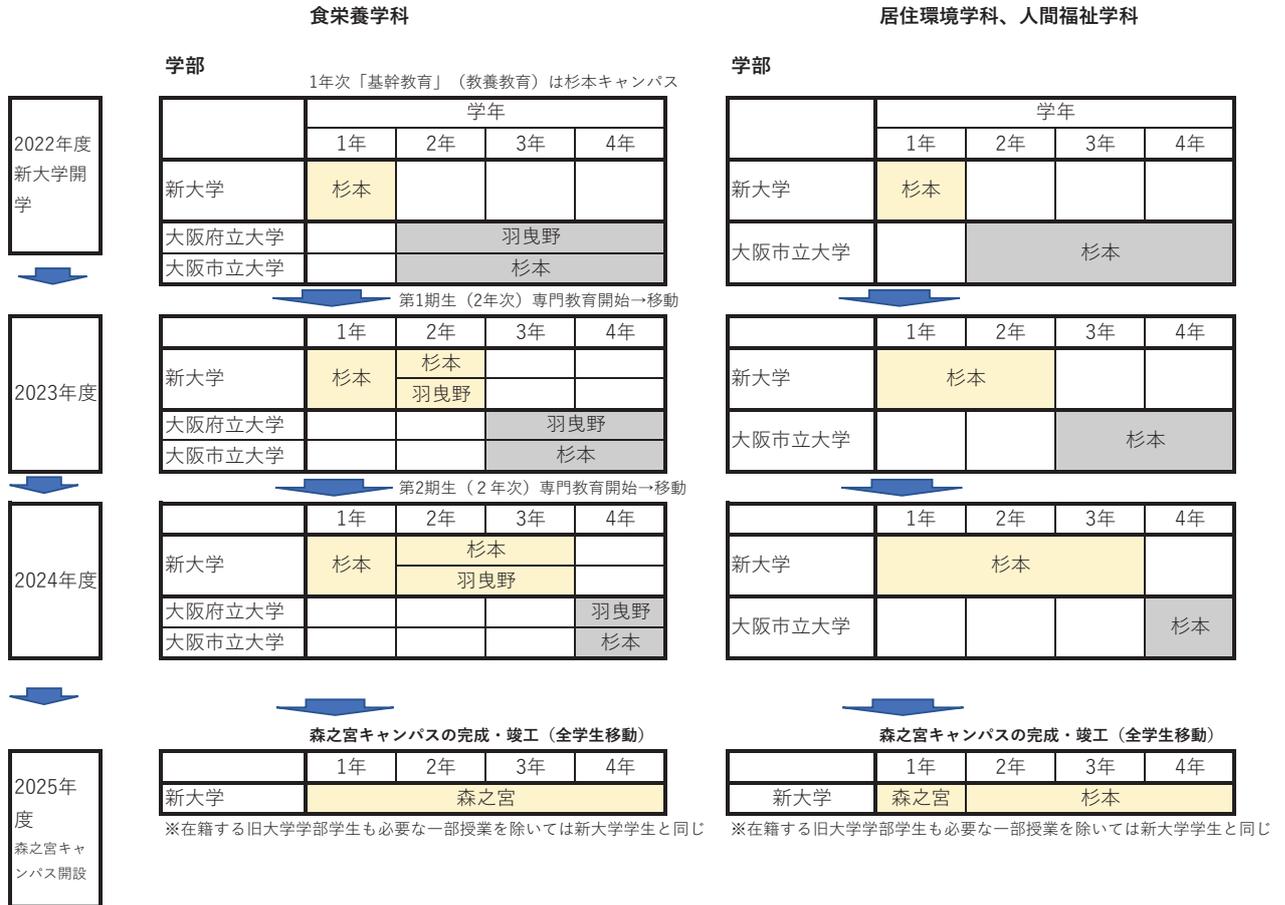
	実習No.	実習先	住所		実習 受入人数	実習科目名
学部	1	大阪市こども相談センター	540-0003	大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5	10	心理実習
学部	2	大阪市立弘済院附属病院	565-0874	大阪府吹田市古江台6-2-1	20	心理実習
学部	3	医療法人サチカム会三国丘病院	590-0027	大阪府堺市堺区榎元町1-5-1	10	心理実習
学部	4	社会福祉法人甲山福祉センター 西宮すなご医療福祉センター	663-8131	兵庫県西宮市武庫川町2-9	4	心理実習
学部	5	大阪市立大学医学部附属病院	545-8586	大阪市阿倍野区旭町1-5-7	20	心理実習

## 別紙

事業所名	所在地	電話番号
大阪市保健所	阿倍野区旭町1-2-7-1000 あべのメディックス10階	06-6647-0641
北区保健福祉センター	北区扇町2-1-27	06-6313-9882
都島区保健福祉センター分館	都島区中野町5-15-21	06-6882-9882
福島区保健福祉センター	福島区大開1-8-1	06-6464-9882
此花区保健福祉センター	此花区春日出北1-8-4	06-6466-9882
中央区保健福祉センター	中央区久太郎町1-2-27	06-6267-9882
西区保健福祉センター	西区新町4-5-14	06-6532-9882
港区保健福祉センター	港区市岡1-15-25	06-6576-9882
大正区保健福祉センター	大正区千島2-7-95	06-4394-9882
天王寺区保健福祉センター	天王寺区真法院町20-33	06-6774-9882
天王寺区保健福祉センター分館	天王寺区上汐4-3-2	06-6774-9882
浪速区保健福祉センター	浪速区敷津東1-4-20	06-6647-9882
西淀川区保健福祉センター	西淀川区御幣島1-2-10	06-6478-9882
淀川区保健福祉センター	淀川区十三東2-3-3	06-6308-9882
東淀川区保健福祉センター	東淀川区豊新2-1-4	06-4809-9882
東成区保健福祉センター	東成区大今里西2-8-4	06-6977-9882
東成区保健福祉センター分館	東成区大今里西1-19-29	06-6977-9882
生野区保健福祉センター	生野区勝山南3-1-19	06-6715-9882
旭区保健福祉センター	旭区大宮1-1-17	06-6957-9882
旭区保健福祉センター分館	旭区森小路2-5-26	06-6957-9882
城東区保健福祉センター	城東区中央3-5-45	06-6930-9882
鶴見区保健福祉センター	鶴見区横堤5-4-19	06-6915-9882
阿倍野区保健福祉センター	阿倍野区文の里1-1-40	06-6622-9882
住之江区保健福祉センター	住之江区御崎3-1-17	06-6682-9882
住之江区保健福祉センター分館	住之江区浜口東3-5-16	06-6682-9882
南港管理センター	住之江区南港中2-1-99	06-6682-9882
住吉区保健福祉センター	住吉区南住吉3-15-55	06-6694-9882
東住吉区保健福祉センター	東住吉区東田辺1-13-4	06-4399-9882
平野区保健福祉センター	平野区背戸口3-8-19	06-4302-9882
西成区保健福祉センター	西成区岸里1-5-20	06-6659-9882

## 生活科学部キャンパスの遷移

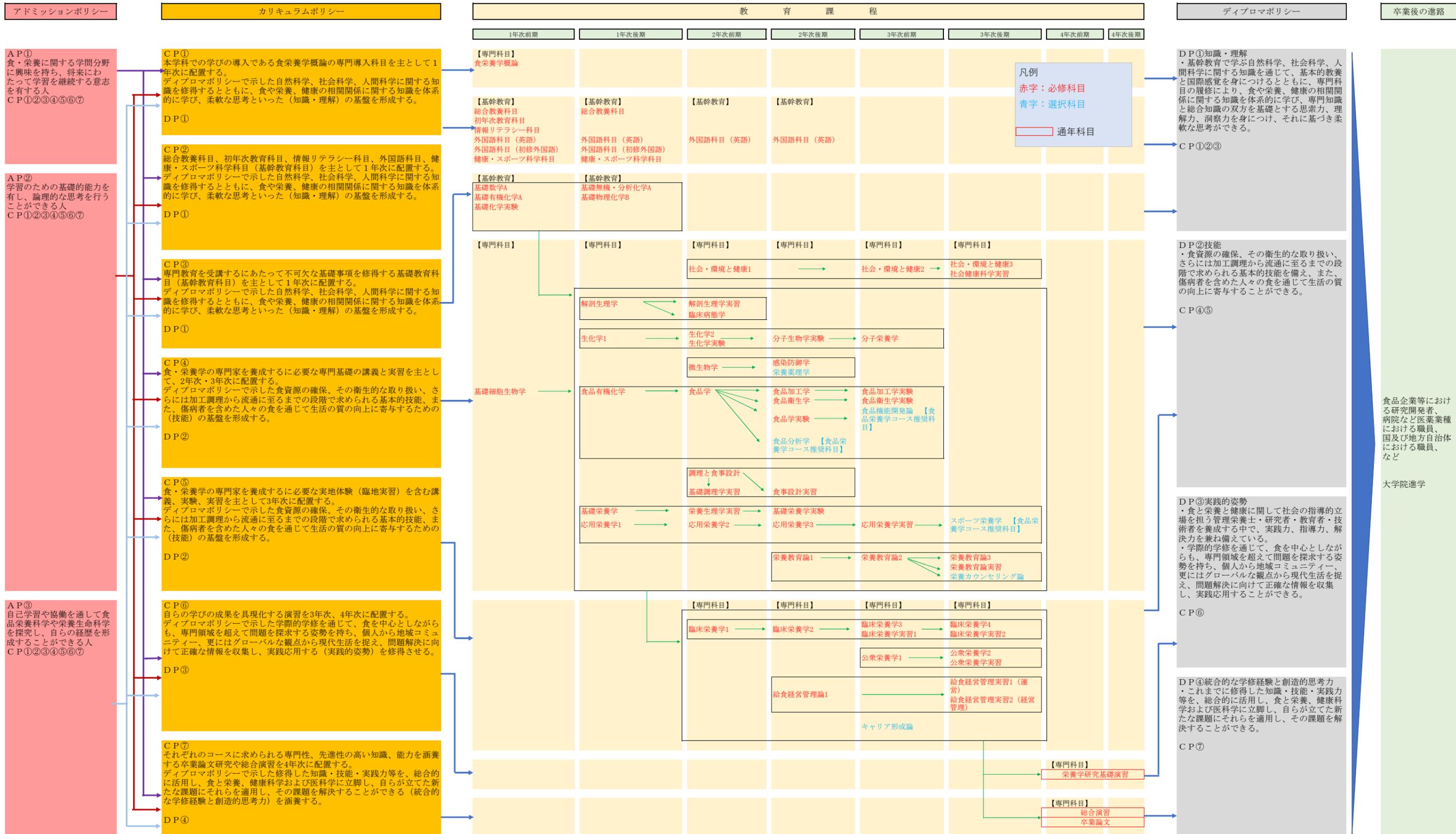
新大学 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (食品栄養学コース)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかになり、食と健康との関わりが従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。  
 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

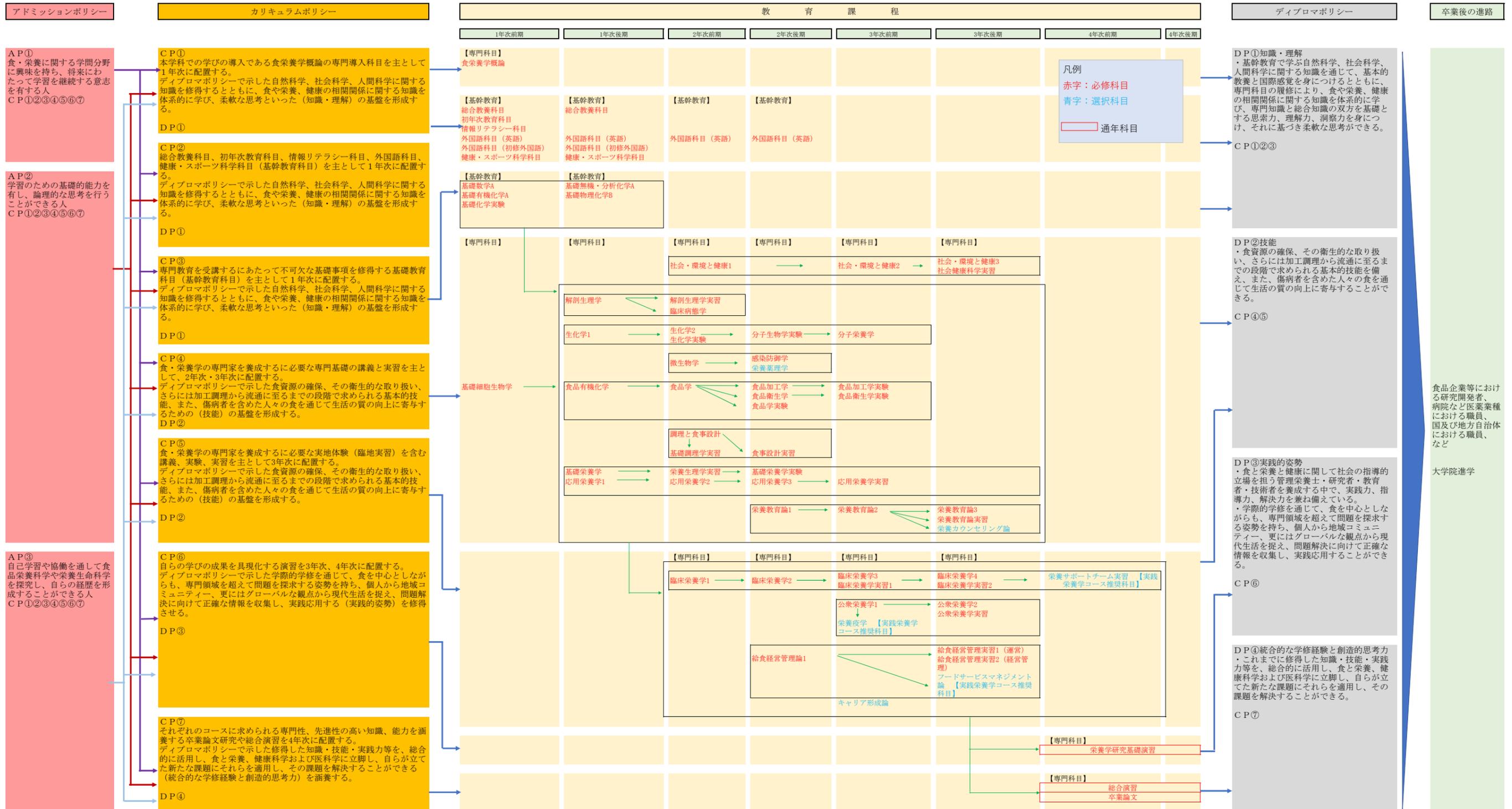
**【養成する人材像】**  
 基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (実践栄養学コース)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかにされ、食と健康との関わりが従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。  
 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

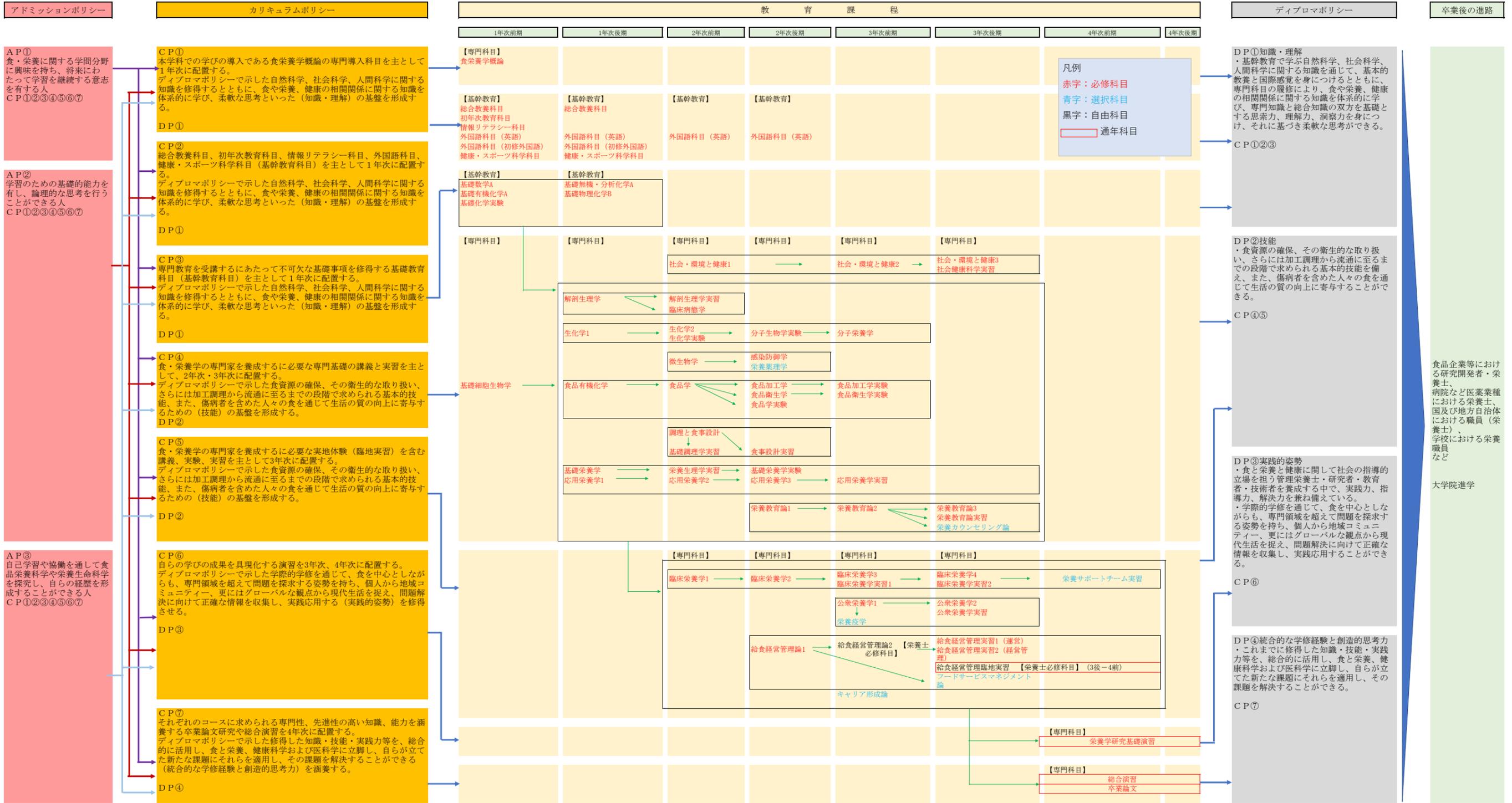
**【養成する人材像】**  
 基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会的指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (栄養士)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかにされ、食と健康との関わりが従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。  
 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

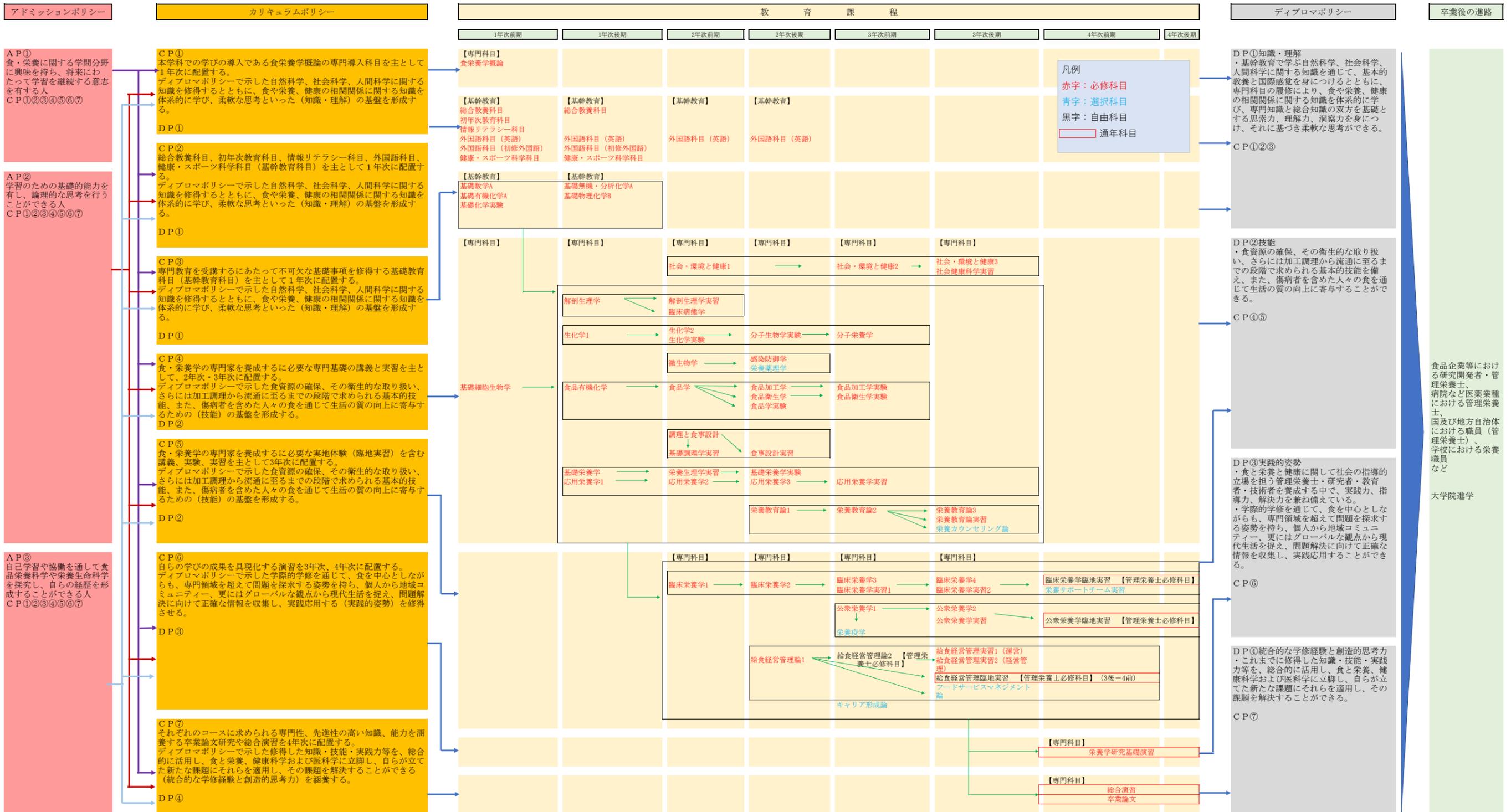
**【養成する人材像】**  
 基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (管理栄養士)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかになり、食と健康との関わりに従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。  
 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

**【養成する人材像】**  
 基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。

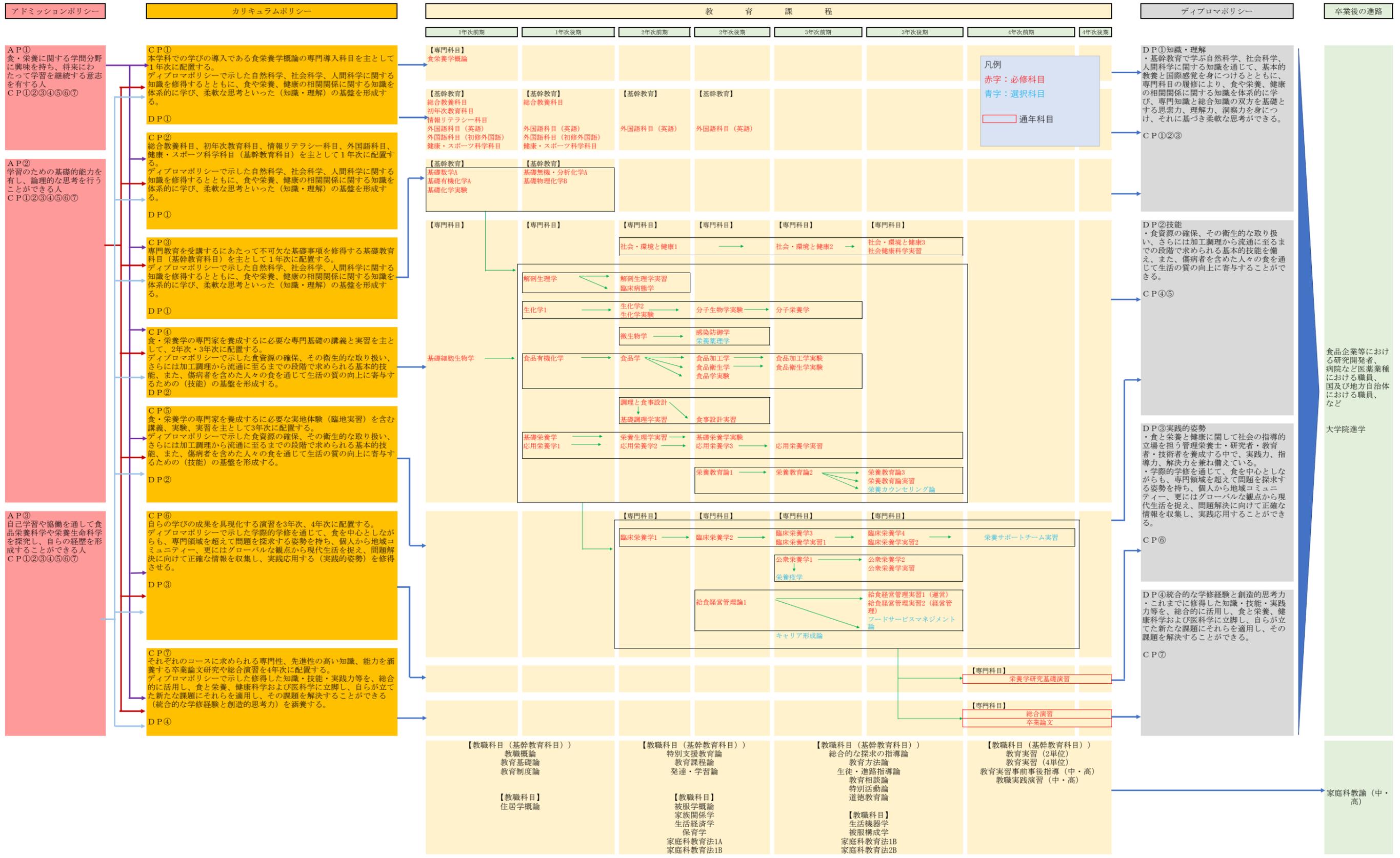




生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (家庭科教諭)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかになり、食と健康との関わりも従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。  
 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

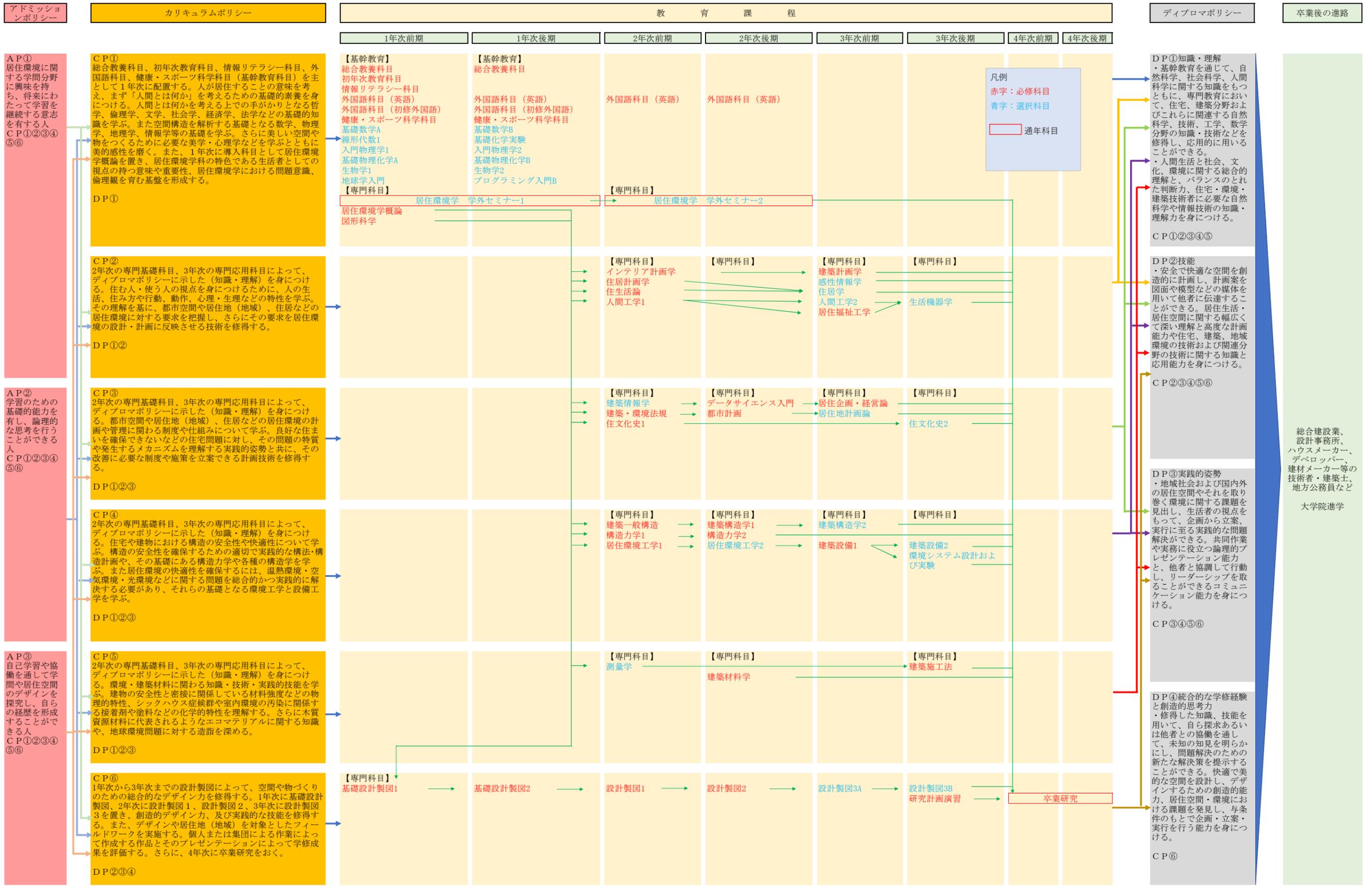
**【養成する人材像】**  
 基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会的指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。



生活科学部 居住環境学科 カリキュラム・マップ (建築士資格取得)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 「持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現」や「個人の価値観を尊重する生活環境の実現」の中核を担う学科となる。超高齢社会における人々の健康を支えるために地域包括ケアシステムなど医療・介護・福祉などのサービス部門と住まいとの一体的な仕組みづくりが進められており、生活科学の視点から「居住空間」や「住宅・まちづくり」に取り組む社会的ニーズは非常に大きく、21世紀における「居住空間」の計画や「住宅・まちづくり」に必要な学科である。

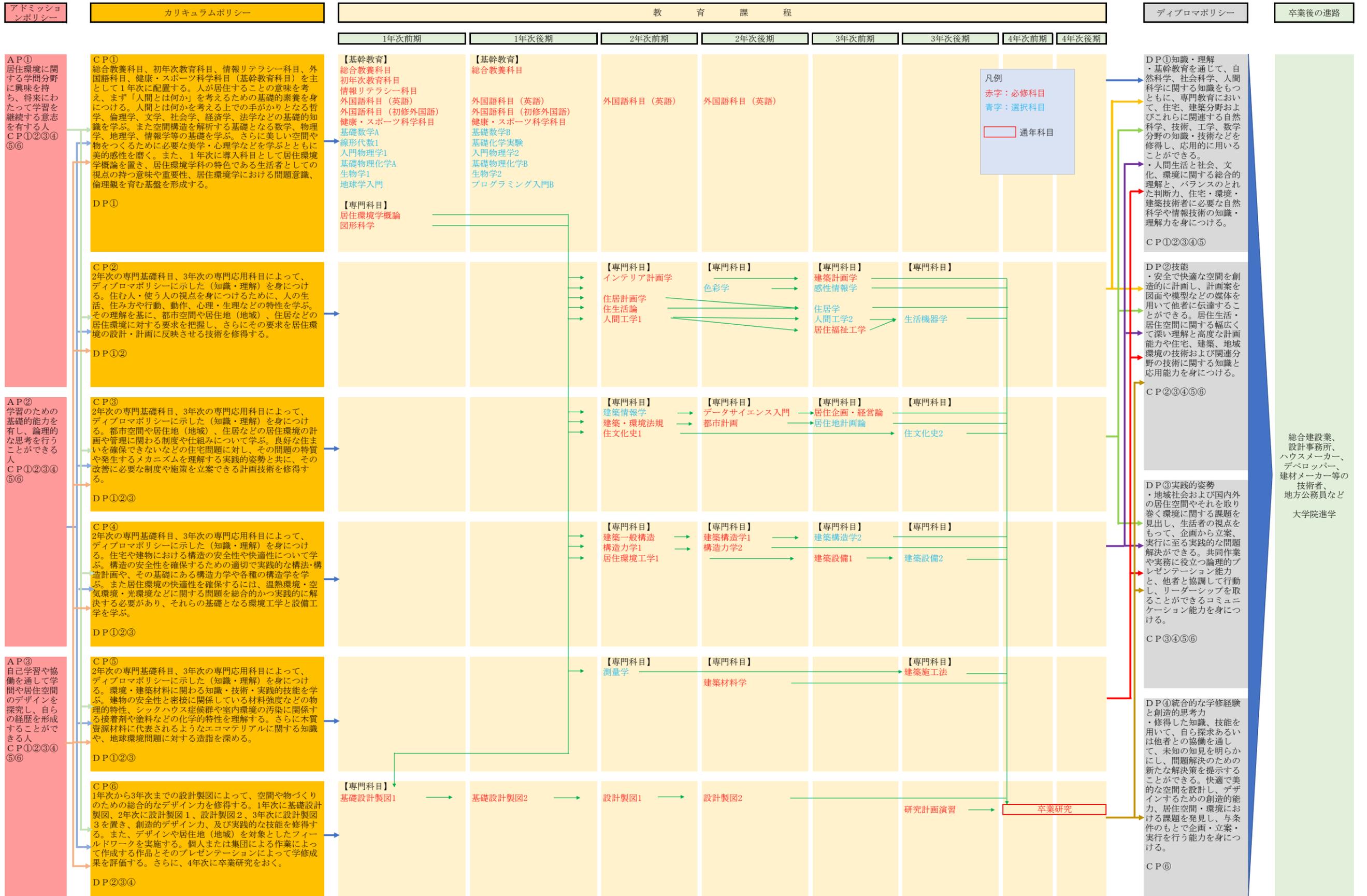
**【養成する人材像】**  
 生活科学部の教育研究上の目的を達成するために居住環境学科では、基幹教育を通じて広範な知識、能力を身につけ、住居学・建築学の専門分野を通じて、判断力、計画力、論理的プレゼンテーション力、リーダーシップの取ることができるコミュニケーション力、創造的能力、企画・立案・実行力を身につけ、住宅・建築産業をはじめ社会のなかで、生活者の視点をもって活躍する人材を育成する。居住環境や健康に関する学問を進展させることにより、現代社会の諸課題を解決して生活の質を向上させるとともに、当該分野で中心となる優れた専門家・研究者を育成する。



生活科学部 居住環境学科 カリキュラム・マップ (標準)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 「持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現」や「個人の価値観を尊重する生活環境の実現」の中核を担う学科となる。超高齢社会における人々の健康を支えるために地域包括ケアシステムなど医療・介護・福祉などのサービス部門と住まいとの一体的な仕組みづくりが進められており、生活科学の視点から「居住空間」や「住宅・まちづくり」に取り組む社会的ニーズは非常に大きく、21世紀における「居住空間」の計画や「住宅・まちづくり」に必要な学科である。

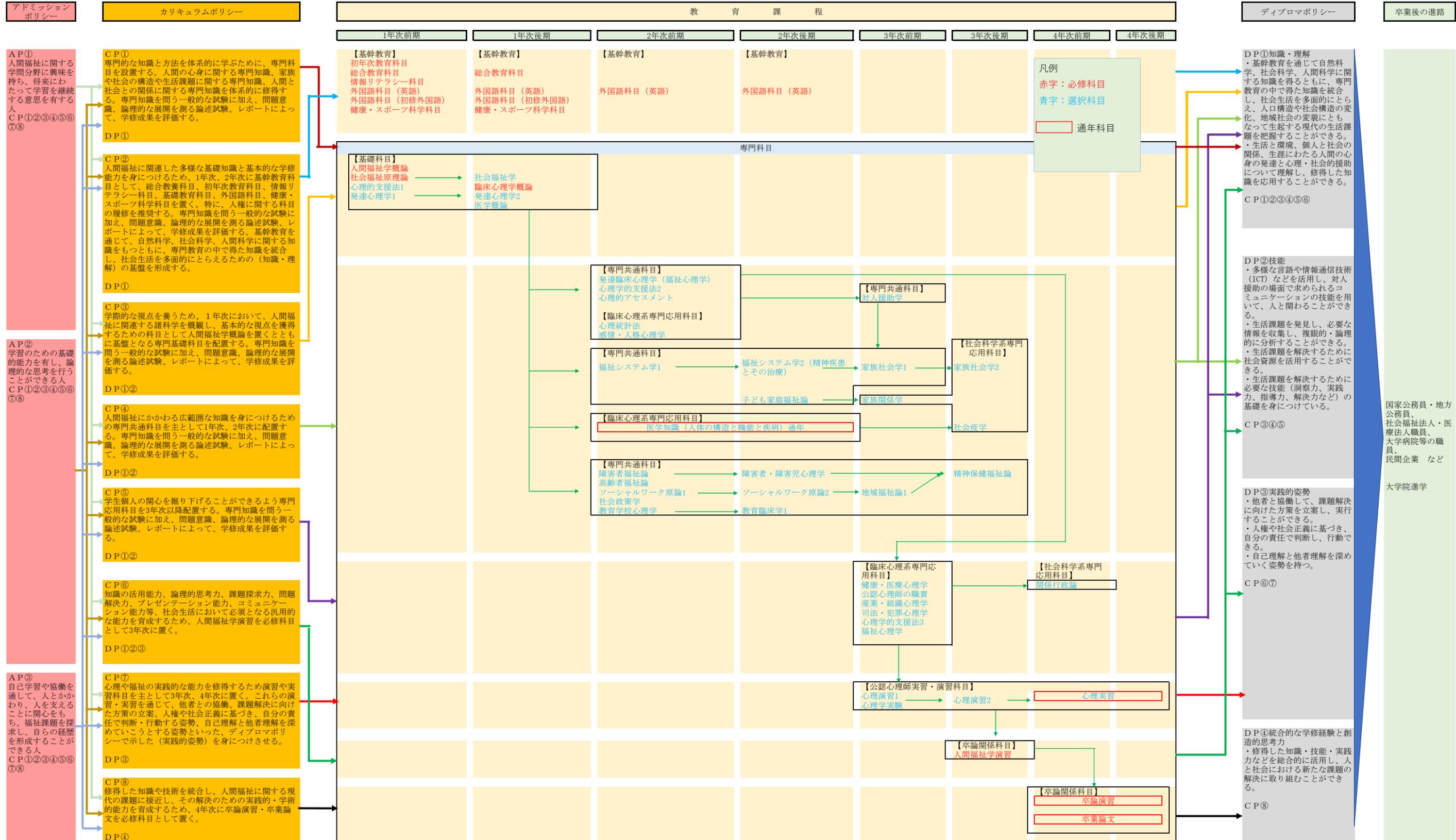
**【養成する人材像】**  
 生活科学部の教育研究上の目的を達成するために居住環境学科では、基幹教育を通じて広範な知識、能力を身につけ、住居学・建築学の専門分野を通じて、判断力、計画力、論理的プレゼンテーション力、リーダーシップの取ることができるコミュニケーション力、創造的能力、企画・立案・実行力を身につけ、住宅・建築産業をはじめ社会のなかで、生活者の視点をもって活躍する人材を育成する。居住環境や健康に関する学問を進展させることにより、現代社会の諸課題を解決して生活の質を向上させるとともに、当該分野で中心となる優れた専門家・研究者を育成する。



生活科学部 人間福祉学科 カリキュラム・マップ (公認心理師)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にもともって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

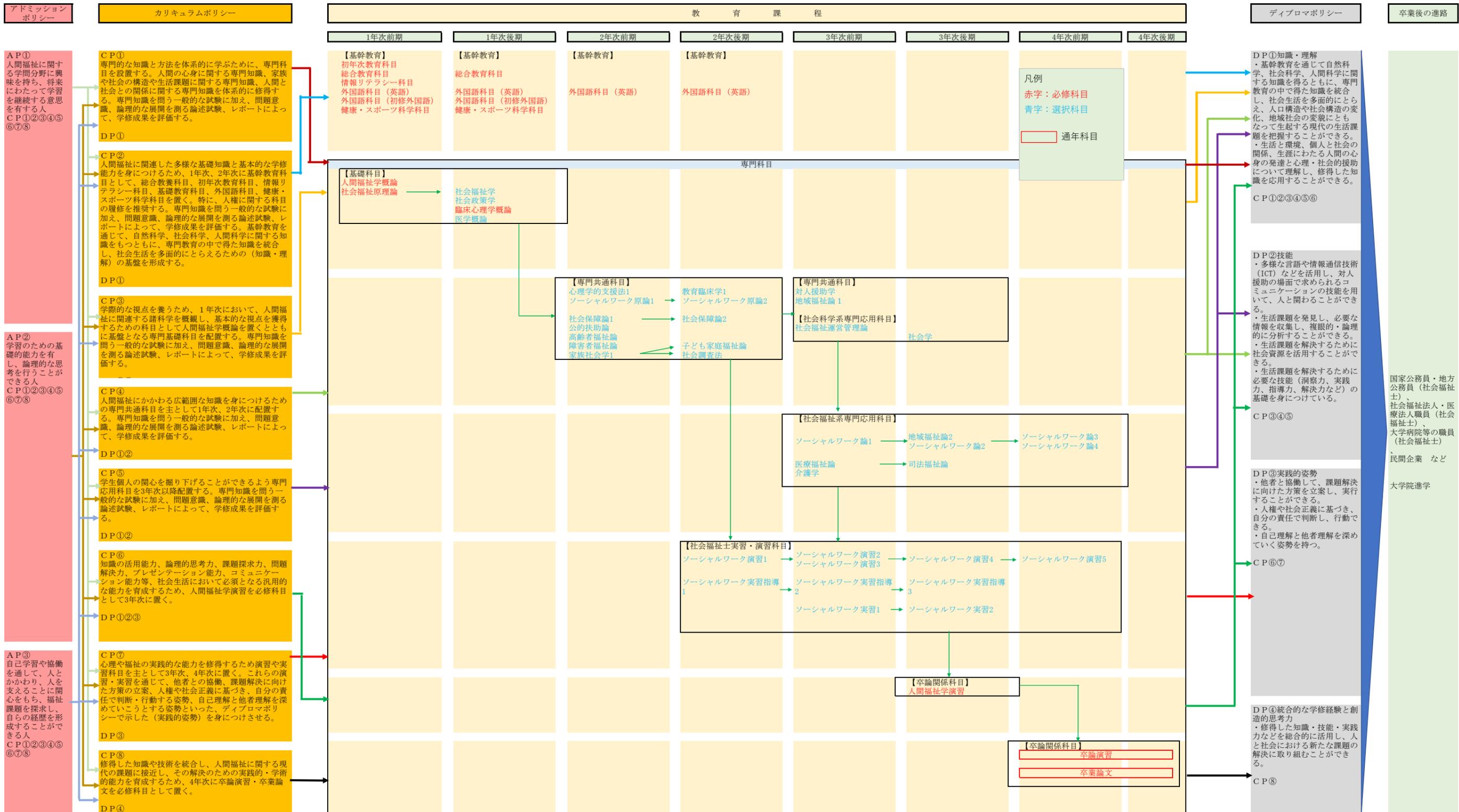
**【養成する人材像】**  
 人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にもともって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。



生活科学部 人間福祉学科 カリキュラム・マップ (社会福祉士)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

**【養成する人材像】**  
 人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。



生活科学部 人間福祉学科 カリキュラム・マップ (家族・社会・生活系モデル)

**【設置の趣旨・必要性】**  
 現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にもよって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

**【養成する人材像】**  
 人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にもよって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。

